



J.LEAGUE™

J STATS REPORT 2022



ファン・サポーターやサッカーに関係する多くの方々にとって
データがより身近に、親しみやすいものになるように

またデータによる新しいサッカーの楽しみ方の提供や
日本サッカーの強化・育成・普及への貢献を目指して創刊したのが

この『J STATS REPORT』です。

前半では2022シーズンのJリーグを総括し
後半では各局面やチームごとの分析結果をまとめました。

J STATS REPORTをきっかけとして
自由にフットボール談義をするためにご活用ください。



※「J STATS」とは、Jリーグが認める、試合に関わる様々な競技データの総称です。メンバー表や得点者、警告/退場といった試合記録に関わるものから、選手ごとのパスやドリブル、ボール支配率といったプレーに関するデータ、試合中の走行距離や選手のポジショニングなどの位置情報(トラッキングデータ)など、競技記録系データからパフォーマンス系データまでを含みます。

OVERVIEW

- 06 Jリーグ全体総括
- 08 J1リーグ総括
- 10 J2リーグ総括
- 12 J3リーグ総括
- 14 J1優勝チーム
- 16 最優秀選手賞・ベストイレブン
- 18 ベストゴール

ANALYSIS

22 結果

OFFENSE

- 24 ゴール/シュート
- 28 クロス
- 32 ドリブル
- 34 パス
- 38 ポゼッション

SET PLAY

- 48 セットプレー

TOPICS

- 56 年齢
- 58 アディショナルスタッツ

DEFENSE

- 40 守備
- 44 ゴールキーピング

FITNESS

- 52 フィットネス

TEAM STATS

- 62 J1チームスタッツ
- 80 J2チームスタッツ

102 用語集

概要

OVERVIEW

OVERVIEW

Jリーグ全体総括

OVERVIEW OF THE J.LEAGUE

2022年は4年に一度のFIFAワールドカップイヤーであったこともあり、J1とJ2は例年と比較して約1ヶ月早く閉幕するイレギュラーな日程となった。カタールでのワールドカップ本大会には、Jリーグから権田修一（清水エスパルス）、山根 視来（川崎フロンターレ）、谷口 彰悟（川崎フロンターレ）、長友 佑都（FC東京）、酒井 宏樹（浦和レッズ）、相馬 勇紀（名古屋グランパス）、町野 修斗（湘南ベルマーレ）の7人が日本代表として選出された。その他にも、クオンギョンウオン（ガンバ大阪）が韓国代表に選ばれ、J2からもトーマス デン（アルビレックス新潟）とミッチェル デューク（ファジアーノ岡山）の2選手がオーストラリア代表入りをするなど、多くのJリーグ選手が世界の舞台に挑んだ。

また、2024年のパリオリンピックを目指すU-21日本代表の主力メンバーの多くはJリーグ選手で構成されており、年上世代を相手に戦ったAFC U-23アジアカップで3位に輝くなど、次の世代においてもJリーグが重要な存在として機能していることがわかる。

Jリーグから世界へと羽ばたく選手も多い中、世界との比較を行うための一つの指標として作成したのが、この『J STATS REPORT』である。前半部分では2022シーズンのJリーグをデータの視点から総括し、後半部分では攻撃・守備・セットプレー・フィットネス、チームの分析結果をまとめている。Jクラブのコーチ・アナリストだけでなく、多くのファン・サポーターの皆さまにとって有益な情報となることを願っている。



▶ J1リーグ総括

2022シーズンのJ1は、2019シーズン以来3シーズンぶりに最終節まで優勝争いがもつれ、横浜F・マリノスが勝点68で3シーズンぶり5度目の優勝を成し遂げた。史上2チーム目の3連覇を目指した川崎フロンターレは、勝点差2の2位となった。リーグ全体で見ると、引き分け率が31.7%で歴代最高となった。特に2月と3月の引き分け率が高く、勝点差が広がらない序盤戦が繰り返された。また、スコアレスドローは歴代最多の36試合、比率も11.8%となった。1試合平均得点数は1.26で、史上最も低かった2021シーズンの1.21に次ぐ低さとなった。直接FKから生まれた得点数も10にとどまり、ここ5シーズンで最も少ない数字となっている。また、今シーズンは退場の数が大きく増えて44となった。試合数の多かった昨シーズンよりも14増え、試合数が同じだった2020シーズンや2019シーズンから2倍以上増加した。

残留争いに目を向けると、最下位に終わったジュビロ磐田も勝点を30に乗せていることからわかる通り、最後まで混戦となった。昨シーズンJ2から昇格を果たしたジュビロ磐田と京都サンガF.C.はいずれも苦しい戦いを強いられることに。最終的に京都サンガF.C.はJ1参入プレーオフの末に残留を決めたが、ジュビロ磐田は18位でJ2降格が決定することとなった。また、清水エスパルスは得点王のチアゴ・サンタナを擁しながらも、17位で2度目のJ2降格となった。得点王の所属するチームがJ2へ降格したのは史上初めてで、14ゴールでの得点王受賞はこれまでで最も少ない記録となった。

チーム単位でリーグを振り返ると、1位と2位の2チームが昨シーズンと同じ横浜F・マリノス、川崎フロンターレとなった一方で、サンフレッチェ広島は昨シーズンの11位から3位へと大

きく順位を上げた。今シーズンからサンフレッチェ広島の監督を務めるミハヤエル・スキツベは、前線から積極的にプレスをかけ続ける特徴的な戦術を採用し、チームを躍進させることに成功。相手陣内でのタックルによるボールゲインで攻撃を開始した回数が132を記録し、リーグ最多だったことからわかる。ミハヤエルスキツベは4月度と8月度の計2回、月間優秀監督賞を受賞し、今シーズンの優秀監督賞に輝いた。

ヴィッセル神戸は開幕から11戦勝ちなしと大きく苦しんだものの、吉田孝行が監督に就任して以降徐々に立て直し13位で残留を決めた。終盤には5連勝を記録するなど、後半戦のみの勝点では3位となっており、大きく巻き返してシーズンを終えた。



● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	横浜F・マリノス	68	20	8	6	70	35	35
2	川崎フロンターレ	66	20	6	8	65	42	23
3	サンフレッチェ広島	55	15	10	9	52	41	11
4	鹿島アントラーズ	52	13	13	8	47	42	5
5	セレッソ大阪	51	13	12	9	46	40	6
6	FC東京	49	14	7	13	46	43	3
7	柏レイソル	47	13	8	13	43	44	-1
8	名古屋グランパス	46	11	13	10	30	35	-5
9	浦和レッズ	45	10	15	9	48	39	9
10	北海道コンサドーレ札幌	45	11	12	11	45	55	-10
11	サガン鳥栖	42	9	15	10	45	44	1
12	湘南ベルマーレ	41	10	11	13	31	39	-8
13	ヴィッセル神戸	40	11	7	16	35	41	-6
14	アビスパ福岡	38	9	11	14	29	38	-9
15	ガンバ大阪	37	9	10	15	33	44	-11
16	京都サンガF.C.	36	8	12	14	30	38	-8
17	清水エスパルス	33	7	12	15	44	54	-10
18	ジュビロ磐田	30	6	12	16	32	57	-25

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	チアゴ・サンタナ	清水	14
2	町野 修斗	湘南	13
3	アダイウトン	FC東京	12
3	マルシーニョ	川崎F	12
3	家長 昭博	川崎F	12

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	鈴木 優磨	鹿島	9
1	脇坂 泰斗	川崎F	9
1	野津田 岳人	広島	9
4	樋口 雄太	鹿島	8
4	山原 怜音	清水	8
4	満田 誠	広島	8



OVERVIEW

J2リーグ総括

今シーズンのJ2では、前半16分から30分の間と、後半アディショナルタイムでの得点が例年に比べて増加しており、いずれもここ5シーズンで最多となった。前半の中盤戦や試合終了間際の攻防が激しさを増したシーズンとなった。全体の得点数は平均的だったが、アシスト数はここ5シーズンで最多の790となっており、関係からのゴールが多く生まれたシーズンとなった。特にクロスでのアシスト数は283を記録しており、こちらも最多となっている。クロスによるアシストが占める割合も35.8%と最高値になっており、クロスからの得点が増えている傾向にある。この数字はJ1と比較しても高い結果となっており、今シーズンのJ2における一つの特徴だったといえる。

チーム単位では、アルビレックス新潟が勝点84で見事に優勝を果たし、2017シーズン以来6シーズンぶりのJ1昇格を決めた。特筆すべきはホームでの強さで、アウェイでの21試合9勝7分5敗という成績に対し、ホームでは21試合16勝2分3敗という好成績を残した。昨シーズンから継続してきたパスワークに磨きがかかり、パス数はリーグ最多の1試合平均694本、得点数もリーグ最多の73を記録した。第26節から第31節までは6試合連続で複数得点を記録しており、これは今シーズンのリーグ最多連続記録となっている。また、チーム最多の9得点を挙げた選手が高木 善朗、伊藤 涼太郎、谷口 海斗と3選手おり、どこからでも点を取れる強さがあった。これまで二桁得点者なしでリーグ優勝を果たしたチームはなく、J2で史上初の記録となっている。

2位の横浜FCは、エースの小川 航基が26得点を挙げ、チームを1年でのJ1復帰に導いた。得点ランキング2位で16ゴールのファジアーノ岡山のチアゴ アウベスを大きく上回ってJ2得点王を受賞。J2の最優秀選手賞も受賞し、チーム躍進の原動力となった。

J3からの昇格組として今シーズンJ2に挑戦したロアッソ熊本といわてグルージャ盛岡は、明暗が分かれる結果となった。4月から5月にかけて7連敗を喫するなど苦しんだいわてグルージャ盛岡は、最後まで守備を安定させることができずリーグ最多の失点80を許して最下位となり、1年でのJ3降格が決定した。一方のロアッソ熊本は、タックル数でリーグ3位の764を記録するなど、大木 武監督の下で徹底してきたハードワークを持ち味にJ2を席巻し、4位でフィニッシュ。J1参入プレーオフでも快進撃を続けたが、決定戦では勝ち切れずに惜しくも初のJ1昇格を逃した。



● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	アルビレックス新潟	84	25	9	8	73	35	38
2	横浜FC	80	23	11	8	66	49	17
3	ファジアーノ岡山	72	20	12	10	61	42	19
4	ロアッソ熊本	67	18	13	11	58	48	10
5	大分トリニータ	66	17	15	10	62	52	10
6	モンテディオ山形	64	17	13	12	62	40	22
7	ベガルタ仙台	63	18	9	15	67	59	8
8	徳島ヴォルティス	62	13	23	6	48	35	13
9	東京ヴェルディ	61	16	13	13	62	55	7
10	ジェフユナイテッド千葉	61	17	10	15	44	42	2
11	V・ファーレン長崎	56	15	11	16	50	54	-4
12	ブラウブリッツ秋田	56	15	11	16	39	46	-7
13	水戸ホーリーホック	54	14	12	16	47	46	1
14	ツエーゲン金沢	52	13	13	16	56	69	-13
15	FC町田ゼルビア	51	14	9	19	51	50	1
16	レノファ山口FC	50	13	11	18	51	54	-3
17	栃木SC	49	11	16	15	32	40	-8
18	ヴァンフォーレ甲府	48	11	15	16	47	54	-7
19	大宮アルディージャ	43	10	13	19	48	64	-16
20	ザスパクサツ群馬	42	11	9	22	36	57	-21
21	FC琉球	37	8	13	21	41	65	-24
22	いわてグルージャ盛岡	34	9	7	26	35	80	-45

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	小川 航基	横浜FC	26
2	チアゴ アウベス	岡山	16
3	中山 仁斗	仙台	14
3	高橋 利樹	熊本	14
5	佐藤 凌我	東京V	13
5	林 誠道	金沢	13

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	河原 創	熊本	12
2	長谷川 竜也	横浜FC	11
2	伊藤 涼太郎	新潟	11
4	平戸 太貴	町田	10
4	河野 諒祐	岡山	10

J3リーグ総括

今シーズンのJ3は、参入1年目のいわきFCが勝点76を獲得し、2位に勝点差9をつけ圧倒的な強さで優勝を果たした。1試合平均勝点は2.24で、これはJ3歴代2位の数字である。得点数72は、2位の藤枝MYFCの58を大きく上回り、平均ゴール数2.12はJ3歴代3位と、圧倒的な攻撃力でリーグを席巻した。また守備面でも、5秒未満でのリゲインと相手陣でのボールゲインがリーグ最多となっており、昨シーズンのJ3優勝チームであるロアッソ熊本と同じく即時奪回と高い位置でのボール奪取の多いチームが優勝を遂げた。得点王を獲得した有田 稜は、先発の座を確かなものとした夏場以降でゴールを量産。全17ゴールのうち10ゴールを最後の9試合で決めた。

2位でJ2昇格を果たした藤枝MYFCは、第14節から第19節まで6連勝を飾り、今シーズンのリーグ最多タイとなる連勝記録をつくった。また、第23節から第31節まで11試合連続無敗記録を達成し、こちらも今シーズンのリーグ最多記録を残している。

昨シーズンJ2から降格した4チームは軒並み苦戦を強いられた。松本山雅FCは最後まで昇格争いに加わりながらも、2位の藤枝MYFCと勝点差1の4位に終わり、愛媛FCは早々に昇格争いから脱落して7位、ギラヴァンツ北九州は13位、SC相模原は最下位の18位という結果となった。

今シーズンのリーグで最も遠い距離からのゴールは、第19節にカタレ富山の林堂 真が記録した64.3m。自陣からの直接FKでキッカーを務めると、右足で大きく浮かせた弾道のシュートを放ち見事にゴールネットを揺らした。その他の記録としては、愛媛FCが第20節に7ゴールを記録して今シーズンのリーグ最多得点試合となったほか、ガイナレ鳥取が第18節から第24節まで7試合連続で複数得点を決め、今シーズンのリーグ最多連続複数得点となった。

また、今シーズンJ3で特徴的だったデータとしてゴールキックが挙げられる。GKが短いパスを蹴る回数はJリーグ全体で増加傾向となっているが、今シーズンのJ3はそれが顕著で、ゴールキックの到達地点がディフェンスサイドである割合は40.8%となった。いずれも20%台だった2019シーズンから2021シーズンまでと比較して、その割合は顕著に高くなっている。



● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	いわきFC	76	23	7	4	72	23	49
2	藤枝MYFC	67	20	7	7	58	29	29
3	鹿児島ユナイテッドFC	66	21	3	10	55	39	16
4	松本山雅FC	66	20	6	8	46	33	13
5	FC今治	60	18	6	10	55	40	15
6	カタレ富山	60	19	3	12	55	48	7
7	愛媛FC	52	14	10	10	51	41	10
8	AC長野パルセイロ	52	14	10	10	42	41	1
9	テゲバジャーロ宮崎	46	12	10	12	45	47	-2
10	ヴァンラーレ八戸	43	14	1	19	32	46	-14
11	福島ユナイテッドFC	42	11	9	14	37	45	-8
12	ガイナレ鳥取	41	12	5	17	55	56	-1
13	ギラヴァンツ北九州	40	11	7	16	41	45	-4
14	FC岐阜	37	10	7	17	43	53	-10
15	アスクラロ沼津	31	8	7	19	27	46	-19
16	Y.S.C.C.横浜	28	8	4	22	25	66	-41
17	カマタマーレ讃岐	27	6	9	19	27	49	-22
18	SC相模原	25	6	7	21	31	50	-19

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	有田 稜	いわき	17
2	藤岡 浩介	岐阜	16
3	石川 大地	鳥取	15
3	有田 光希	鹿児島	15
5	岡田 優希	宮崎	14

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	徳永 裕大	宮崎	13
2	嵯峨 理久	いわき	9
3	横山 暁之	藤枝	8
3	近藤 貴司	愛媛	8
5	川崎 一輝	讃岐	7
5	木村 祐志	鹿児島	7

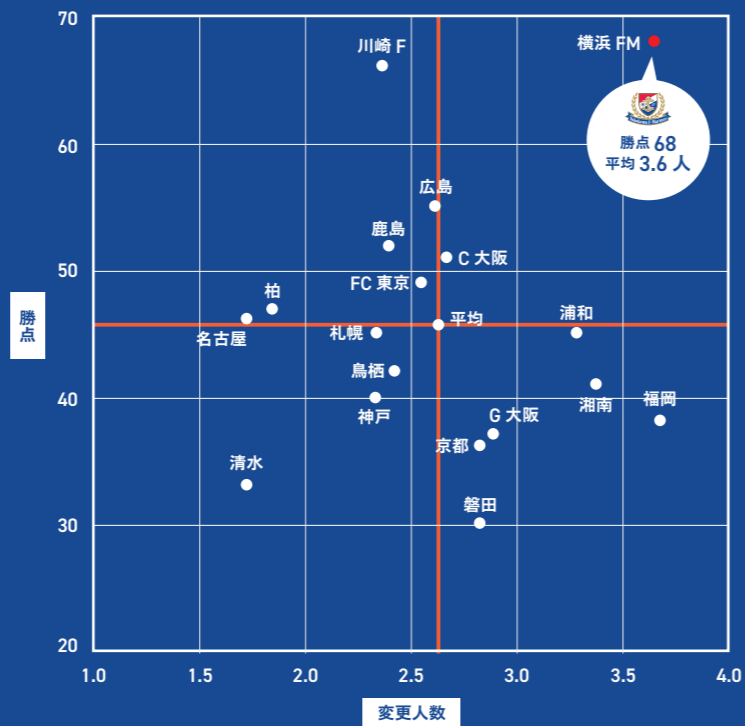
▶ J1 優勝チーム：
横浜 F・マリノス



見事に2022明治安田生命J1リーグで優勝を果たした横浜F・マリノス。最も特徴的なのは、選手層の厚さである。前節からの先発変更人数の平均はリーグ2位となる3.6人、25試合以上先発した選手数はリーグ最少タイの2選手といった数字の通り、毎試合スターティングメンバーを大きく入れ替えながらも一つのチームとして意思統一されていたことで強さを維持していたのがわかる。また、途中出場選手のゴール数+アシスト数はリーグ2位タイの19で、切り札として登場する選手たちも途中出場から結果を残していた。終盤は負傷者が目立つ局面も多かったが、チーム全体で乗り切って3シーズンぶりの優勝を遂げたといえる。そのチームにおいて、替えのきかない存在としてチームから信頼を得ていた岩田 智輝は31試合で先発起用され、今シーズンの最優秀選手賞を受賞した。

また、得点数は70でリーグ1位、失点数も35でリーグ最少タイとなっており、今シーズンの横浜F・マリノスは攻守がかみ合った結果、強さを発揮していたことがうかがえる。最終ラインの平均的な高さがリーグで最も高い45.6m、奪ったオフサイド数も最多の96、さらにはハイプレスの守備成功率も1位の51.1%となっている。攻撃時の裏抜け回数も2052とリーグ最多を誇っており、ボールゲイン後のゴール率も1位の1.4%を記録。高い位置からのコンパクトな守備のみならず、そこから効果的にゴールを奪っていることがわかる。

● 勝点×前節からの平均先発変更人数



● 25試合以上先発した選手が少ないチーム

順位	チーム	選手数
1	横浜 FM	2
1	G大阪	2
3	湘南	4
3	C大阪	4
	J1 平均	5.4

● 途中出場選手のゴール数とアシスト数

順位	チーム	合計	ゴール	アシスト
1	C大阪	20	14	6
2	FC東京	19	12	7
2	横浜 FM	19	9	10
4	柏	18	12	6
4	磐田	18	11	7
6	鳥栖	17	11	6
7	札幌	16	9	7
7	広島	16	12	4
9	鹿島	15	11	4
10	G大阪	14	8	6
11	川崎 F	13	7	6
12	湘南	12	6	6
13	浦和	10	5	5
13	清水	10	6	4
13	神戸	10	6	4
16	京都	6	6	0
16	福岡	6	4	2
18	名古屋	4	2	2

● 横浜 FM リーグ戦結果

日付	節	H/A	相手	結果	順位	出来事
2/19	1	H	C大阪	2△2	6	-
2/23	9	H	川崎 F	4○2	1	前年王者の川崎 F に逆転勝利
2/27	2	A	柏	1●3	5	-
3/2	10	H	神戸	2○0	2	-
3/6	3	H	清水	2○0	1	-
3/12	4	A	札幌	1△1	2	-
3/18	5	H	鳥栖	0△0	2	-
4/2	6	H	FC東京	2○1	2	-
4/6	7	A	広島	0●2	4	-
4/10	8	A	鹿島	3○0	2	ACL グループステージによるリーグ戦中断前を2位で終える
5/7	12	H	名古屋	2○1	3	-
5/14	13	A	湘南	4○1	3	-
5/18	11	A	浦和	3△3	3	-
5/21	14	A	福岡	0●1	3	-
5/25	15	H	京都	2○0	3	-
5/29	16	A	磐田	2○0	1	鹿島、川崎 F を抜いて1位に
6/18	17	A	G大阪	2○1	1	-
6/25	18	H	柏	4○0	1	-
7/2	19	A	清水	5○3	1	レオセアラがハットトリックを達成
7/6	20	H	広島	3○0	1	今シーズン最長の6連勝を達成
7/10	21	A	C大阪	2△2	1	-
7/16	22	A	鳥栖	2△2	1	-
7/30	23	H	鹿島	2○0	1	9戦負けなしで2位鹿島との勝ち点差を8とする
8/7	24	A	川崎 F	1●2	1	-
9/3	28	A	FC東京	2△2	2	消化試合数の影響もあり広島が1位となる
9/7	25	H	湘南	3○0	1	-
9/10	29	H	福岡	1○0	1	-
9/14	26	A	京都	2○1	1	-
9/18	30	H	札幌	0△0	1	-
10/1	31	A	名古屋	4○0	1	2位川崎 F との勝ち点差を8とする
10/8	32	H	G大阪	0●2	1	ホームで今シーズン初の敗戦
10/12	27	H	磐田	0●1	1	今シーズン初の連敗を喫して2位川崎 F との勝ち点差が2まで縮まる
10/29	33	H	浦和	4○1	1	-
11/5	34	A	神戸	3○1	1	最終節で勝利し3シーズンぶり5回目の優勝を達成

PLAYER OF THE YEAR



岩田 智輝

TOMOKI IWATA

DF		横浜F・マリノス			
出場試合	出場時間	ゴール	パス	パス成功率	警告/退場
32	2715	2	2790	88.4%	2/1

▶ KEY STATS

2715 出場時間 (チーム2位)	2619 プレー数 (リーグ1位)	1442 MTプレー数 (リーグ1位)
2113 パス成功率 (リーグ1位)	51 タックル数 (チーム1位)	

▶ COMMENT

J1全34試合のうち32試合に出場。出場時間2715分は、GK高丘陽平に次ぐチーム2位。センターバック・サイドバック・センターハーフと、チーム状況に合わせて複数のポジションをこなした。全体のプレー数とミドルサードでのプレー数でリーグ1位を記録し、豊富な運動量で多くのプレーに関与して攻守両面でチームに大きく貢献したことを物語っている。ビルドアップにも積極的に絡み、パス成功率リーグ1位と攻撃の起点として活躍。守備面でもタックル数でチーム1位となり、特にセンターバックが主戦場になったシーズン後半ではボール奪取の場面を数多く見せた。



▶ 試合別成績

日付	対戦相手	結果	出場時間	ゴール	パス	パス成功率	警告/退場
2/19	C大阪	分 2-2	90	0	99	90.9%	0/0
2/23	川崎F	勝 4-2	90	0	88	90.9%	0/0
2/27	柏	負 1-3	87	0	70	82.9%	0/1
3/6	清水	勝 2-0	90	0	87	93.1%	0/0
3/12	札幌	分 1-1	90	0	61	86.9%	1/0
3/18	鳥栖	分 0-0	90	0	36	52.8%	0/0
4/2	FC東京	勝 2-1	90	0	118	85.6%	0/0
4/6	広島	負 0-2	90	0	98	91.8%	0/0
4/10	鹿島	勝 3-0	90	0	90	83.3%	0/0
5/7	名古屋	勝 2-1	30	0	19	94.7%	0/0
5/18	浦和	分 3-3	21	0	22	90.9%	0/0
5/21	福岡	負 0-1	90	0	93	87.1%	0/0
5/25	京都	勝 2-0	90	0	55	87.3%	1/0
5/29	磐田	勝 2-0	90	0	116	94.8%	0/0
6/18	G大阪	勝 2-1	90	0	57	87.7%	0/0
6/25	柏	勝 4-0	57	0	59	91.5%	0/0
7/2	清水	勝 5-3	90	0	78	88.5%	0/0
7/6	広島	勝 3-0	90	0	49	69.4%	0/0
7/10	C大阪	分 2-2	90	0	90	93.3%	0/0
7/16	鳥栖	分 2-2	90	0	88	92.0%	0/0
7/30	鹿島	勝 2-0	90	1	49	85.7%	0/0
8/7	川崎F	負 1-2	90	0	45	88.9%	0/0
9/3	FC東京	分 2-2	90	1	70	90.0%	0/0
9/7	湘南	勝 3-0	90	0	65	87.7%	0/0
9/10	福岡	勝 1-0	90	0	83	78.3%	0/0
9/14	京都	勝 2-1	90	0	62	83.9%	0/0
9/18	札幌	分 0-0	90	0	61	93.4%	0/0
10/1	名古屋	勝 4-0	90	0	93	90.3%	0/0
10/8	G大阪	負 0-2	90	0	125	96.0%	0/0
10/12	磐田	負 0-1	90	0	130	92.3%	0/0
10/29	浦和	勝 4-1	90	0	71	94.4%	0/0
11/5	神戸	勝 3-1	90	0	63	79.4%	0/0

BEST ELEVEN PLAYERS




<p>高丘 陽平 YOHEI TAKAOKA</p> <p>GK 横浜F・マリノス</p> <p>出場試合 34 / クリーンシート 13</p> <p>初受賞</p> <p>1</p> <p>PA外失点数 リーグ1位タイ</p>	<p>谷口 彰悟 SHOGO TANIGUCHI</p> <p>DF 川崎フロンターレ</p> <p>出場試合 34 / ゴール 3</p> <p>4回目</p> <p>77</p> <p>ヘディングクリア数 リーグ2位</p>	<p>山根 視来 MIKI YAMANE</p> <p>DF 川崎フロンターレ</p> <p>出場試合 32 / ゴール 3</p> <p>3回目</p> <p>60</p> <p>PA進入数 リーグ1位 (DF登録選手)</p>	<p>小池 龍太 RYUTA KOIKE</p> <p>DF 横浜F・マリノス</p> <p>出場試合 26 / ゴール 3</p> <p>初受賞</p> <p>29.1</p> <p>1試合平均相手陣へのパス成功率 リーグ1位 (DF登録選手)</p>	<p>家長 昭博 AKIHIRO IENAGA</p> <p>MF 川崎フロンターレ</p> <p>出場試合 34 / ゴール 12</p> <p>4回目</p> <p>1074</p> <p>ATプレー数 リーグ1位</p>
<p>水沼 宏太 KOTA MIZUNUMA</p> <p>MF 横浜F・マリノス</p> <p>出場試合 31 / ゴール 7</p> <p>初受賞</p> <p>5</p> <p>クロスアシスト数 リーグ2位</p>	<p>脇坂 泰斗 YASUTO WAKIZAKA</p> <p>MF 川崎フロンターレ</p> <p>出場試合 32 / ゴール 5</p> <p>2回目</p> <p>9</p> <p>アシスト数 リーグ1位タイ</p>	<p>チアゴサンタナ THIAGO SANTANA</p> <p>FW 清水エスパルス</p> <p>出場試合 27 / ゴール 14</p> <p>初受賞</p> <p>14</p> <p>ゴール数 リーグ1位</p>	<p>エウベル ELBER</p> <p>FW 横浜F・マリノス</p> <p>出場試合 29 / ゴール 8</p> <p>初受賞</p> <p>84</p> <p>PA進入数 リーグ1位 (FW登録選手)</p>	<p>マルシーニョ MARCINHO</p> <p>FW 川崎フロンターレ</p> <p>出場試合 30 / ゴール 12</p> <p>初受賞</p> <p>12</p> <p>ゴール数 リーグ3位タイ</p>

BEST GOALS

GOAL OF THE YEAR (BEST GOAL OF SEPTEMBER)

	サンフレッチェ広島	MF	川村 拓夢 TAKUMU KAWAMURA	第28節 2022年9月3日 対清水 勝 2-0 HOME (90+5分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
15	サブ	2	2	0/0


試合終了間際、5連勝を決定づける自陣ハーフウェイライン付近から約68.5mのスーパーロングシュート。15分以内で2得点以上は今シーズン唯一。



BEST GOAL OF JUNE

	サンフレッチェ広島	MF	野津田 岳人 GAKUTO NOTSUDA	第17節 2022年6月18日 対C大阪 勝 2-1 HOME (78分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
90	先発	1	1	0/0


思い切り振り抜いた左足からの強烈なミドルシュートは、チームを救う貴重な同点ゴール。リーグ戦3連勝に大きく貢献。



BEST GOAL OF FEBRUARY MARCH

	横浜F・マリノス	DF	實藤 友紀 YUKI SANETO	第4節 2022年3月12日 対札幌 分 1-1 AWAY (90+5分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
90	先発	1	1	1/0

1点ビハインドの試合終了目前、土壇場で繰り出したオーバーヘッドシュート。横浜F・マリノスが後半アディショナルタイムに追いついたのは第4節、第21節の2試合



BEST GOAL OF JULY

	鹿島アントラーズ	FW	エヴェラウド EVERALDO	第20節 2022年7月6日 対C大阪 分 3-3 HOME (89分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
24	サブ	1	1	0/0


ゴールまで約16.3m、角度のないところから逆サイドへねじ込んだ豪快なオーバーヘッドシュート。今シーズン途中交代からの通算5ゴールは、リーグ2位タイ。



BEST GOAL OF APRIL

	ガンバ大阪	MF	ダワン DAWHAN	第7節 2022年4月6日 対京都 分 1-1 HOME (58分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
90	先発	1	3	0/0


相手のクリアボールの落ち際を右足で鮮やかに捉えた同点ゴール。スーパーボレーでJリーグでの初ゴールを記録。



BEST GOAL OF AUGUST

	名古屋グランパス	FW	マテウス カストロ MATEUS CASTRO	第26節 2022年8月19日 対磐田 勝 1-0 HOME (19分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
89	先発	1	2	0/0


第10節の前回対戦に続く先制ゴール。こぼれ球を収め、左足を振り抜いた約38mの豪快なミドルシュート。



BEST GOAL OF MAY

	柏レイソル	MF	マテウス サヴィオ MATHEUS SAVIO	第16節 2022年5月29日 対清水 勝 3-1 HOME (13分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
79	先発	1	2	0/0


左足の強烈なミドルシュートを左隅にたたき込んだ先制ゴール。今シーズン、マテウス サヴィオがゴールを決めた試合は6戦6勝。



BEST GOAL OF OCTOBER NOVEMBER

	ヴィッセル神戸	MF	小林 祐希 YUKI KOBAYASHI	第33節 2022年10月29日 対川崎F 負 1-2 AWAY (51分)
出場時間	出場	ゴール	シュート	警告/退場
74	先発	1	1	0/0

苦しい試合展開の中で追いつく同点ゴール。約28.3mの距離から、直接フリーキックでゴールネットを揺らした。



分析

ANALYSIS



RESULT 結果

● J 1 シーズン別の試合結果



明治安田生命
J1 LEAGUE

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率	スコアレスドロー率
2014	40.8%	25.2%	34.0%	8.2%
2015	38.6%	24.5%	36.9%	7.5%
2016	38.2%	22.9%	38.9%	6.2%
2017	41.2%	23.9%	35.0%	5.9%
2018	41.8%	22.5%	35.6%	8.8%
2019	41.8%	23.5%	34.6%	5.6%
2020	38.6%	22.2%	39.2%	6.5%
2021	42.1%	24.7%	33.2%	8.9%
2022	39.9%	31.7%	28.4%	11.8%

▶ 2022シーズンのJ 1は引き分け率が31.7%、スコアレスドロー率（全試合数に対する割合）が11.8%と、2014シーズン以降で最も高かった。特に開幕節から第5節までの45試合中、44.4%にあたる20試合が引き分けとなっており、序盤に引き分けが続いたことが特徴的であった。またアウェイチームの勝率は28.4%で、ホームチームの勝率39.9%に対してマイナス11.5%とホームチーム優位の結果となっている。

● J 2 シーズン別の試合結果



明治安田生命
J2 LEAGUE

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率	スコアレスドロー率
2014	38.5%	29.2%	32.3%	9.5%
2015	37.4%	29.4%	33.1%	10.0%
2016	37.7%	30.1%	32.3%	8.9%
2017	40.7%	26.4%	32.9%	6.5%
2018	38.1%	25.1%	36.8%	9.5%
2019	42.6%	25.8%	31.6%	9.1%
2020	39.8%	26.6%	33.5%	9.1%
2021	35.1%	29.7%	35.3%	10.2%
2022	36.6%	29.0%	34.4%	8.2%

▶ J 2ではホームチームとアウェイチームの勝率に大きな差はなかったが、2021シーズンはアウェイチームの勝率の方が高かったことを考えると、ややホームチームが持ち直している。10月にはホームチームとアウェイチームが19勝ずつを挙げるなど、45試合中の84.4%にあたる38試合で勝敗が決まり、シーズンの終盤戦を盛り上げた。

● J 3 シーズン別の試合結果

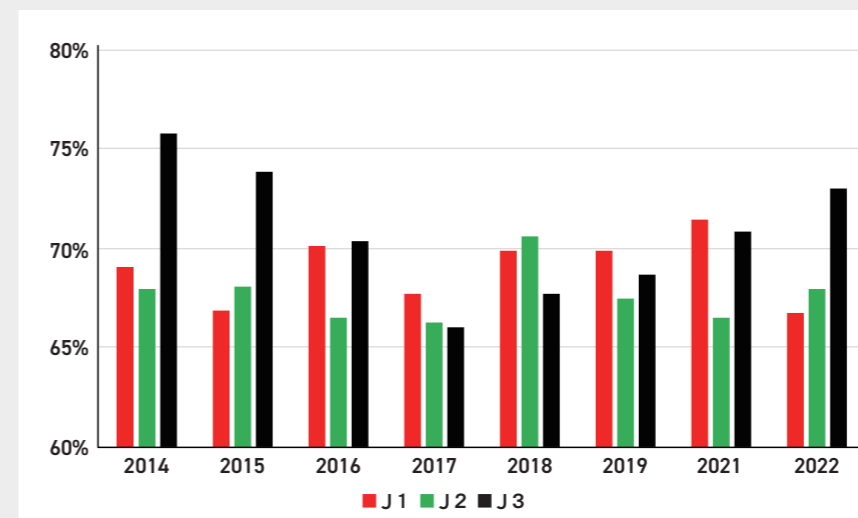


明治安田生命
J3 LEAGUE

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率	スコアレスドロー率
2014	40.9%	25.3%	33.8%	10.6%
2015	44.0%	21.4%	34.6%	6.8%
2016	45.8%	24.6%	29.6%	5.8%
2017	40.1%	26.8%	33.1%	9.2%
2018	44.1%	23.9%	32.0%	6.6%
2019	41.8%	22.2%	35.9%	6.2%
2020	39.9%	23.9%	36.3%	9.5%
2021	40.5%	25.7%	33.8%	8.6%
2022	47.4%	19.3%	33.3%	6.9%

▶ J 3では2014シーズン以降一貫してホームチームの勝率がアウェイチームの勝率を大きく上回っている。また2022シーズンの引き分け率は19.3%で、J 3発足以降初めて20%を切る結果となった。

● シーズン別の先制したチームの勝率



▶ 先制したチームの勝率について2014シーズン以降のデータを見てみると、常に70%前後を推移している。先制したチームの勝率は非常に高く、1点の重みを感じさせるデータとなっている。



● 2点差以上／3点差以上を追いついた試合数

シーズン	試合数 (J1~J3)	2点差以上を 追いついた試合数	3点差以上を 追いついた試合数
2014	929	31	1
2015	966	41	2
2016	983	45	4
2017	1021	47	1
2018	1017	42	1
2019	1059	38	0
2020	1010	35	6
2021	1016	25	1
2022	1043	51	6

※試合中に1度でも追いついた場合にカウント、試合結果は問わない。

▶ 一方で、2022シーズンは2点差以上を追いついた試合が非常に多く、2021シーズンの2倍以上の51を記録した。これはJリーグが開業してから最多となる。さらに、3点差以上を追いついた試合も6となり、これは2020シーズンと並んで最多タイ。うち5試合をホームチームが記録しており、これは単独最多となった。

● 2022シーズン 3点差を追いついた試合

試合日	リーグ	ホームチーム	スコア	アウェイチーム
5/1	J 2	群馬	3-3	横浜FC
5/8	J 2	新潟	4-3	東京V
5/18	J 1	浦和	3-3	横浜FM
5/21	J 2	秋田	3-3	東京V
5/25	J 1	鹿島	4-4	鳥栖
9/6	J 2	金沢	3-3	長崎

▶ 3点差を追いついた試合を見ると、ザスパクサツ群馬と浦和レッズは前半終了時点で0-3の状態から後半に追いつく展開。東京ヴェルディはアルビレックス新潟戦では前半終了時点で0-3から追いつくも勝ち越しを許し、ブラウブリッツ秋田戦では3-0のリードから追いつかれる結果となった。鹿島アントラーズとサガン鳥栖の試合では、鹿島アントラーズが0-3から逆転したが、サガン鳥栖が終了間際に追いつく劇的な展開となった。また、ツエーゲン金沢は79分から88分までの9分間に3得点を挙げて追いついた。3点差を追いついた6試合のうち5試合が5月に集中しているのも目を引くところだ。



OFFENSE

GOAL/SHOOT ゴール/シュート



● シーズン別の得点数とホーム/アウェイ別得点数

シーズン	得点数	ホームチーム得点数	アウェイチーム得点数
2005	873	469	404
2006	976	532	444
2007	867	474	393
2008	783	433	350
2009	791	437	354
2010	813	436	377
2011	869	474	395
2012	855	460	395
2013	879	479	400
2014	774	413	361
2015	820	432	388
2016	805	413	392
2017	793	419	374
2018	813	434	379
2019	797	418	379
2020	866	445	421
2021*	920	494	426
2022	771	424	347

*2021シーズンは380試合

● 前後半別の得点数

	得点	割合
前半	306	39.7%
後半	465	60.3%

● 時間帯別の得点数

時間帯	得点	割合
0-15分	91	11.8%
16-30分	104	13.5%
31-45分	111	14.4%
46-60分	143	18.5%
61-75分	133	17.3%
76-90分	189	24.5%

▶ 2022シーズンに生まれた得点数は771。2005シーズン以降で最も少なかった2014シーズンの774をわずかに下回り最少の記録となった。1試合平均得点数では、380試合だった2021シーズンの2.42に次いで2番目に少ない2.52となっている。ホーム/アウェイ別の得点数を見ると、アウェイチームの得点数が2005シーズン以降で最も少ない347となっている。また2022シーズンの時間帯別得点数では、前半の得点が39.7%、後半の得点が60.3%となっており、後半でも特に終盤にあたる76分以降に多くの得点が生まれていることがわかる。

14

途中出場選手が決めたゴールが最も多かったのはセレッソ大阪の14。ジェアンパトリッキが5、加藤 陸次樹が3、上門 知樹が2、他4選手が1。



● チーム別のゴール数とゴール期待値

チーム	シュート	ゴール (O.G.を除く)	ゴール期待値	期待値との差
札幌	459	45	46.0	-1.0
鹿島	440	46	38.6	7.4
浦和	464	47	53.5	-6.5
柏	400	41	39.3	1.7
FC東京	396	46	39.8	6.2
川崎F	434	63	49.0	14.0
横浜FM	552	69	62.8	6.2
湘南	429	30	38.3	-8.3
清水	426	43	40.8	2.2
磐田	337	31	36.6	-5.6
名古屋	409	27	40.3	-13.3
京都	382	29	38.7	-9.7
G大阪	376	32	32.8	-0.8
C大阪	459	44	44.3	-0.3
神戸	417	34	45.2	-11.2
広島	500	51	45.8	5.2
福岡	328	28	32.9	-4.9
鳥栖	376	45	36.4	8.6

▶ ゴール期待値とは、シュートが得点に結びつく確率を予測した数値であり、ゴール数と比較することでどれくらい得点機会をものにできたかを推測することができる。シュート数、ゴール数、ゴール期待値はいずれも横浜F・マリノスがトップとなった。

ゴール数とゴール期待値の差を見ると、川崎フロンターレがプラス14.0となっており、極めて高い決定力を発揮していたことがわかる。一方、名古屋グランパスとヴィッセル神戸は期待値との差がマイナス10以上になっており、ゴール期待値からすればあと10ゴールを決めていてもおかしくなかったと考えられる。

● ゴール期待値が高かったシュートシーン



▶ ゴール前でこぼれ球を詰めるシーン以外では、サイドからのクロスがGKの横を抜けたところを決める形が、ゴール期待値の高いシュートとなっている。

● ゴール期待値が低かったシュートシーン



▶ ゴール期待値の低いシュートは、基本的にゴールまでの距離が遠いミドルシュートやロングシュートであり、シュート軌道上に相手選手が多いほど期待値は低くなる。



OFFENSE

GOAL/SHOOT ゴール/シュート

● 得点ランキング上位選手のゴール期待値

チーム	選手	シュート	ゴール	ゴール期待値	期待値との差
清水	チアゴ サンタナ	72	14	8.6	5.4
湘南	町野 修斗	64	13	7.5	5.5
FC東京	アダウトン	83	12	8.3	3.7
川崎F	家長 昭博	46	12	7.9	4.1
川崎F	マルシーニョ	48	12	7.4	4.6
横浜FM	レオ セアラ	63	11	9.8	1.2
横浜FM	アンデルソン ロベス	73	11	11.9	-0.9
鹿島	上田 綺世	56	10	7.0	3.0
横浜FM	西村 拓真	59	10	7.1	2.9
福岡	山岸 祐也	52	10	5.8	4.2

▶ 得点ランキング上位選手のデータを見ると、ゴール期待値以上のゴール数を決めている選手がほとんどである。横浜F・マリノスのアンデルソン ロベスが最大のゴール期待値11.9を記録し、ほぼ同じ11ゴールを決めている。得点王に輝いた清水エスパルスのチアゴ サンタナは、ゴール期待値を5.4上回る14ゴールを決め、高い決定力を発揮した。また、湘南ベルマーレの町野 修斗はゴール数がゴール期待値を5.5上回り、リーグ最多の記録となっている。特に最後の3試合で4ゴールを決めるなど、ゴールによるチームへの貢献度が非常に高かったといえる。



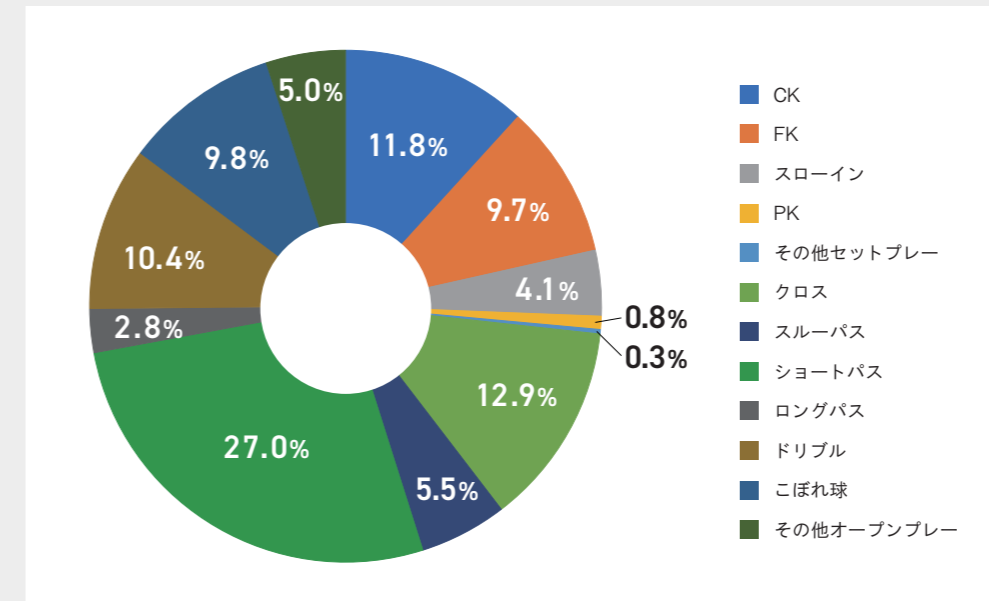
● チアゴ サンタナのゴール動画



● 町野 修斗のゴール動画



● リーグ全体のシュートパターン割合



▶ 2022シーズンの全シュートに対するシュートパターン別の割合を見ると、ショートパスからが27.0%、セットプレーからが26.7%と並び抗している。2021シーズンはショートパスからが26.4%、セットプレーからが27.8%だったため順位が入れ替わっているが、その他のパターンの割合には大きな変化はなかった。

● チーム別のシュートパターン割合

チーム	セットプレー	クロス	スルーパス	ショートパス	ロングパス	ドリブル	こぼれ球	その他
札幌	26.3%	13.2%	4.6%	25.8%	3.8%	13.4%	9.4%	3.5%
鹿島	27.7%	11.8%	5.2%	28.0%	3.5%	10.4%	10.1%	3.5%
浦和	27.8%	11.1%	7.0%	26.2%	1.9%	11.9%	9.5%	4.6%
柏	21.5%	11.5%	10.3%	30.5%	2.2%	8.7%	12.1%	3.1%
FC東京	23.5%	9.8%	9.8%	22.2%	2.9%	12.1%	10.5%	9.2%
川崎F	24.8%	14.2%	4.1%	28.9%	2.7%	9.5%	9.5%	6.3%
横浜FM	26.2%	13.9%	4.9%	27.0%	2.8%	11.4%	8.4%	5.4%
湘南	27.6%	10.9%	6.1%	28.1%	1.9%	8.6%	9.7%	7.0%
清水	22.9%	14.1%	7.6%	26.3%	3.7%	8.9%	11.9%	4.6%
磐田	26.7%	13.6%	2.7%	25.2%	5.0%	7.4%	11.2%	8.1%
名古屋	31.8%	10.7%	3.6%	27.3%	1.2%	10.7%	11.3%	3.6%
京都	26.4%	12.3%	5.4%	28.4%	1.9%	10.7%	9.6%	5.4%
G大阪	31.0%	9.7%	3.2%	29.2%	4.0%	13.0%	6.9%	2.9%
C大阪	29.0%	13.4%	7.0%	24.1%	3.7%	7.9%	10.7%	4.3%
神戸	28.0%	15.1%	5.2%	25.8%	1.2%	9.5%	8.9%	6.2%
広島	25.4%	12.6%	4.7%	30.3%	2.4%	11.6%	8.5%	4.5%
福岡	33.2%	17.4%	2.4%	23.7%	4.0%	6.3%	7.9%	5.1%
鳥栖	22.7%	17.7%	4.6%	26.2%	1.9%	12.7%	10.4%	3.8%

▶ 各チームのシュートパターン割合を見ることで、チームスタイルの違いを推測することができる。どのチームでもセットプレーとショートパスからのシュートの割合が高く、ロングパスの割合が低い。

特筆すべきはアビスパ福岡のセットプレーからのシュート割合。33.2%と全体のほぼ3分の1を占めており、チームのスタイルにおいて非常に重要であるといえる。クロスからのシュートの割合が高いのはサガン鳥栖とアビスパ福岡の2チームで17%以上、スルーパスからのシュートの割合では柏レイソルが唯一10%を超え、FC東京も9.8%という高い割合になっている。また、ドリブルからのシュートの割合が高かったのは北海道コンサドーレ札幌、ガンバ大阪、サガン鳥栖、FC東京となっており、個の力を生かしたシュートシーンが多かったことがうかがえる。



OFFENSE

CROSS クロス



● チームクロス数

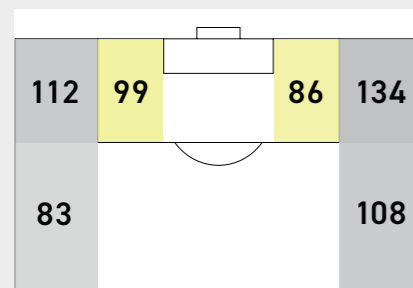
チーム	クロス	成功数	成功率
横浜FM	622	142	22.8%
福岡	590	131	22.2%
広島	570	125	21.9%
鹿島	569	131	23.0%
C大阪	533	109	20.5%
浦和	498	109	21.9%
湘南	490	112	22.9%
鳥栖	485	117	24.1%
神戸	484	110	22.7%
磐田	483	105	21.7%
名古屋	473	98	20.7%
京都	448	82	18.3%
柏	446	98	22.0%
清水	430	121	28.1%
札幌	428	112	26.2%
FC東京	417	88	21.1%
川崎F	402	120	29.9%
G大阪	362	89	24.6%

▶ クロスを最も多く上げていたのは622本の横浜F・マリノスで1試合平均18.3本であった。2020シーズンが1試合平均23.2本、2021シーズンが21.3本であり、2022シーズンはわずかに減少したものの3年連続トップとなった。どのエリアからもゴール前にボールを供給していたが、特にペナルティーエリア内から上げたクロスはリーグ最多の185本と非常に多く、同エリア内まで切り込んでからチャンスをつくっていたことがわかる。

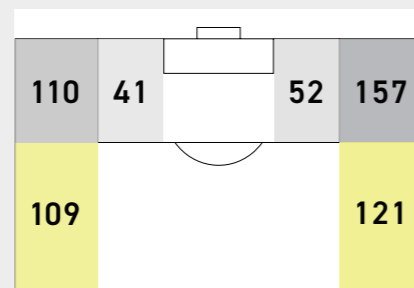
2番目に多かったのはアビスパ福岡。ペナルティーエリア手前からのクロスが多いことが特徴で、230本はリーグ最多だった。競り合いに強い前線の選手にシンプルにボールを送っていたことがうかがえる。

3番目に多かったのはサンフレッチェ広島であった。左サイドと比較して右サイドからのクロスが多く、右サイドからの比率が60.4%とリーグで最も高い数値であった。特に、右のペナルティーエリア脇からのクロスが非常に多く、攻撃の特徴を表している。

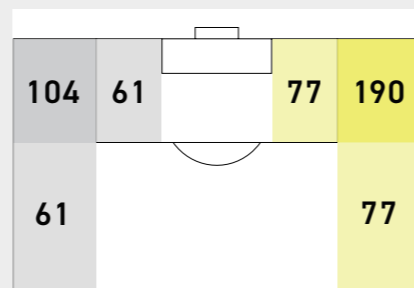
● 横浜FMクロスエリア



● 福岡クロスエリア



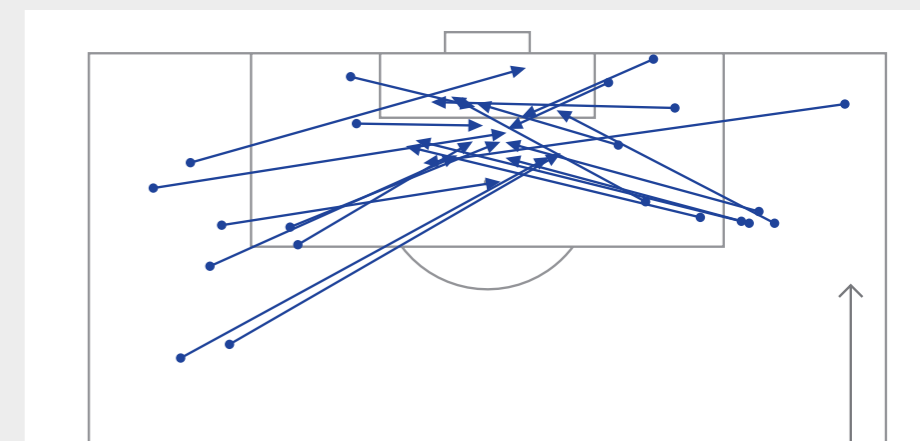
● 広島クロスエリア



● クロスからのゴール数

チーム	ゴール
横浜FM	29
鳥栖	22
清水	21
川崎F	19
鹿島	18
柏	16
FC東京	16
G大阪	16
広島	15
京都	15
C大阪	13
札幌	13
浦和	12
神戸	12
名古屋	12
福岡	11
磐田	11
湘南	9

● 横浜FMのクロスによるアシストの軌跡



● 横浜FMのクロスアシスト動画



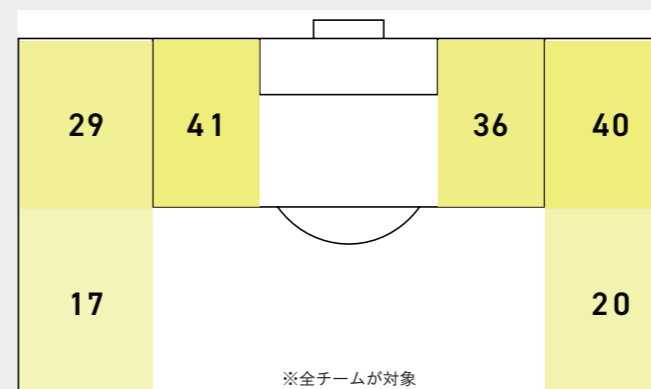
9

水沼 宏太のクロスから3プレー以内に奪ったゴール数は9

44

横浜F・マリノスが第32節のガンバ大阪戦で記録したクロス数44は今シーズン最多

● クロスによるアシストエリア



▶ クロスからのゴール数は横浜F・マリノスの29が最多で、総得点70に対して41.4%を占めており、サイドからの攻撃が横浜F・マリノスの得点力の一翼を担っていた。アシストの軌跡を見ると、右サイドはペナルティーエリア内からのパスが多いのに対し、左サイドは同エリア外からのクロスによるアシストが多かったことがわかる。

2番目に多いゴール数を記録したのはサガン鳥栖。ジエゴのクロスから3点を奪っており、その全てがペナルティーエリア内からであった。一方、クロス数がリーグで2番目に多いアビスパ福岡は、クロスから奪ったゴール数は11とリーグで2番目に少ない結果となった。

全チームのクロスによるアシストのエリアを見ると、左サイドから87本に対して右サイドから96本と、右サイドからのクロスによるアシストが多いことがわかる。また、ペナルティーエリア内から送ったものが多い。同エリア外からゴール前へ上げるよりも守備側の対処が難しく、チャンスになりやすいことが見て取れるだろう。



OFFENSE

CROSS クロス

● 選手別クロス数

選手	チーム	クロス	成功率
藤井 智也	広島	162	22.2%
ジョルディ クルークス	福岡	144	18.1%
水沼 宏太	横浜FM	134	21.6%
白井 康介	京都	121	15.7%
松田 陸	C大阪	112	16.1%
志知 孝明	福岡	106	22.6%
相馬 勇紀	名古屋	105	18.1%
鈴木 雄斗	磐田	104	29.8%
三丸 拓	柏	100	23.0%
石原 広教	湘南	97	21.6%



3

山原 怜音からチアゴ サンタナへのクロスによるアシスト数はリーグ最多の関係

9

ジョルディ クルークスから山岸 祐也へのクロス成功率9はリーグ最多の関係

162

藤井 智也のクロス数162は直近5シーズンで3番目の多さ

● 選手別クロス成功率



選手	チーム	成功率	クロス
バンゲーナガンデ 佳史扶	FC東京	40.0%	45
家長 昭博	川崎F	37.7%	77
原 輝綺	清水	37.5%	48
大津 祐樹	磐田	34.9%	43
柏 好文	広島	34.1%	41
山原 怜音	清水	34.1%	88
黒川 圭介	G大阪	34.0%	50
常本 佳吾	鹿島	32.9%	70
江坂 任	浦和	32.1%	53
マテウス サヴィオ	柏	30.6%	72

※クロス40本以上の選手が対象

● 選手別クロスによるアシスト数

選手	チーム	アシスト
山原 怜音	清水	7
水沼 宏太	横浜FM	5
仲川 輝人	横浜FM	4
家長 昭博	川崎F	3
酒井 高德	神戸	3
金子 拓郎	札幌	3
山中 亮輔	C大阪	3
鈴木 優磨	鹿島	3
石原 広教	湘南	3
山根 視来	川崎F	3

● 山原 怜音のクロスアシスト動画



● 選手別ペナルティーエリア内からのクロス数

選手	チーム	クロス	成功率
金子 拓郎	札幌	48	25.0%
エウベル	横浜FM	34	26.5%
相馬 勇紀	名古屋	29	20.7%
鈴木 優磨	鹿島	28	25.0%
藤井 智也	広島	28	21.4%
満田 誠	広島	27	18.5%
山根 視来	川崎F	24	25.0%
マルシーニョ	川崎F	23	17.4%
水沼 宏太	横浜FM	23	21.7%
森下 龍矢	名古屋	21	23.8%

▶ 選手別で見ると、サンフレッチェ広島の藤井 智也がリーグ最多となる162本のクロスを提供。スプリント回数はリーグ3位の847回で、スピードを生かしてサイドを駆け上がりチャンスをつくり続けた。

成功率ではFC東京のバンゲーナガンデ 佳史扶が40.0%でトップ。後半戦に入り最終ラインで出場を続けると、正確な左足で攻撃を支えた。

ペナルティーエリア内からのクロス数が最も多かったのは北海道コンサドーレ札幌の金子 拓郎。90本のクロスのうち、53.3%にあたる48本を同エリア内から上げていた。

● 選手別クロスからのゴール数

選手	チーム	ゴール	クロス受け数
チアゴ サンタナ	清水	5	24
武藤 嘉紀	神戸	4	29
マルシーニョ	川崎F	4	26
アルトゥール カイキ	鹿島	4	23
ピーター ウタカ	京都	4	21
仲川 輝人	横浜FM	4	20
宮代 大聖	鳥栖	4	18
山岸 祐也	福岡	3	28
アンデルソン ロベス	横浜FM	3	25
レアンドロ ダミアン	川崎F	3	23

※ゴール数=クロスを受けた後のゴール数

▶ クロスから最も多くアシストを記録したのは、清水エスパルスの山原 怜音。特筆すべきは両足からチャンスをつくり出せる点で、左サイドを主戦場としながら右足で3アシスト、左足で4アシストを記録している。縦への突破と切り返してからのクロスと、どちらでも決定機を生み出しており、中でも3アシストを記録したチアゴ サンタナとのコンビはまさにホットラインといえるだろう。そのチアゴ サンタナは、クロスからのゴール数が5とリーグ最多であった。

2位是水沼 宏太、3位は仲川 輝人と横浜F・マリノスの2人が並ぶ。特に、仲川 輝人はクロスからのゴール数を見ても4と、クロスを上げる側と受ける側のどちらでもゴールに絡んでいたことがわかる。

クロスからのゴール数が4であったヴィッセル神戸の武藤 嘉紀はクロスを受けた回数でリーグで2番目に多い29（1位はガンバ大阪のパトリックで32回）。武藤 嘉紀へ最も多くクロスを送ったのは酒井 高徳の7回であった。



OFFENSE

DRIBBLE ドリブル



● チーム別ドリブル数

チーム	ドリブル
広島	451
札幌	450
浦和	433
FC東京	410
名古屋	398
神戸	390
鹿島	383
京都	375
福岡	369
横浜FM	363
清水	358
鳥栖	332
柏	313
川崎F	313
G大阪	311
湘南	304
C大阪	285
磐田	280

● 選手別ドリブル数

選手	チーム	ドリブル
藤井 智也	広島	137
金子 拓郎	札幌	126
ルーカス フェルナンデス	札幌	108
アダイウトン	FC東京	108
マテウス カストロ	名古屋	108
相馬 勇紀	名古屋	102
安西 幸輝	鹿島	94
汰木 康也	神戸	92
ジョルディ クルークス	福岡	87
白井 康介	京都	86

● ドリブルによるペナルティーエリア進入回数

チーム	ドリブル
浦和	73
札幌	71
FC東京	56
横浜FM	55
名古屋	52
広島	46
神戸	42

33

金子 拓郎のドリブルによるペナルティーエリア進入回数33はリーグ最多

12

相馬 勇紀がドリブルを仕掛けて受けたファウル数12はリーグ最多

● 藤井 智也のドリブル動画



▶ 北海道コンサドーレ札幌の金子 拓郎はドリブルからのシュートが23回と最多で、加えてドリブルからのクロスが51回。シャドーやウイングバックで起用される中で、仕掛けた後に自らフィニッシュをするだけでなく、味方へのチャンスメイクも行っていた。また、ドリブルからシュートを打った選手の上位は、彼以外はブラジル国籍の選手であった。

ドリブルからのクロスを見ると、最多はサンフレッチェ広島の藤井 智也、次がアビスパ福岡のジョルディ クルークスであった。

● 選手別ドリブルシュート数

選手	チーム	ドリブルシュート
金子 拓郎	札幌	23
アダイウトン	FC東京	20
ジュニオール サントス	広島	15
ピーター ウタカ	京都	14
アンデルソン ロベス	横浜FM	14

● 選手別ドリブルクロス数

選手	チーム	ドリブルクロス
藤井 智也	広島	75
ジョルディ クルークス	福岡	68
相馬 勇紀	名古屋	54
金子 拓郎	札幌	51
安西 幸輝	鹿島	44
白井 康介	京都	44

● チーム別キャリア数

選手	キャリア
浦和	369
鳥栖	317
札幌	290
柏	286
横浜FM	274
FC東京	266
広島	260

▶ 20m以上ボールを持ち運んだ回数を示すキャリア数では、浦和レッズが最大の369回を記録し、2位のサガン鳥栖は317回であった。

選手別で見ると浦和レッズのアレクサンダー ショルツが65回で最多。センターバックのアレクサンダー ショルツが最終ラインから前へボールを持ち運んで味方へリリースする場面は、今シーズン何度も見られた。上位に名を連ねる選手はアタッカーやサイドバックが多く、同じセンターバックの選手でキャリア数を多く記録した選手が他にいないことから、その特徴は際立っていたといえる。

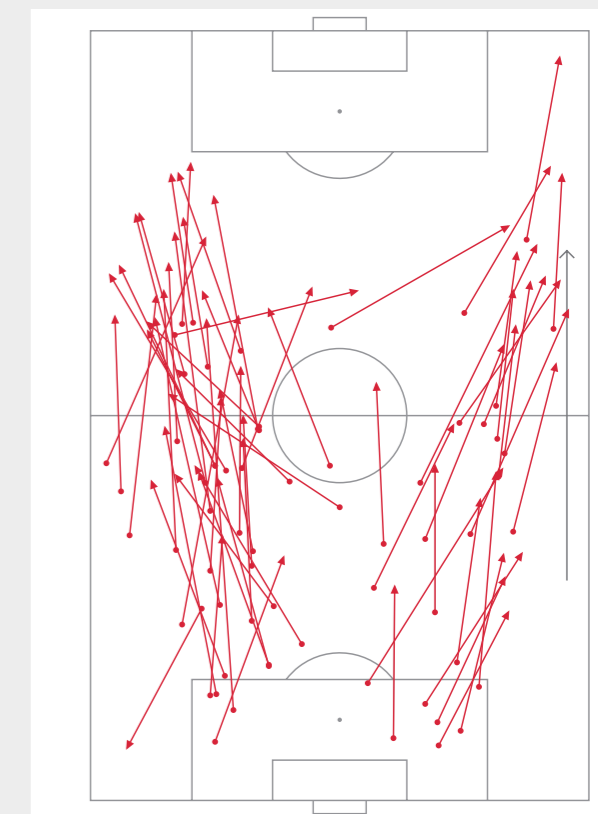
● 選手別キャリア数

選手	ポジション	チーム	キャリア
アレクサンダー ショルツ	DF	浦和	65
藤井 智也	MF	広島	62
家長 昭博	MF	川崎F	51
白井 康介	DF	京都	51
マテウス サヴィオ	MF	柏	50
相馬 勇紀	FW	名古屋	49
岩崎 悠人	FW	鳥栖	48
三丸 拓	DF	柏	47
エウベル	FW	横浜FM	40
金子 拓郎	MF	札幌	39
小泉 慶	MF	鳥栖	39

● アレクサンダー ショルツのキャリア動画



● アレクサンダー ショルツのキャリア軌跡



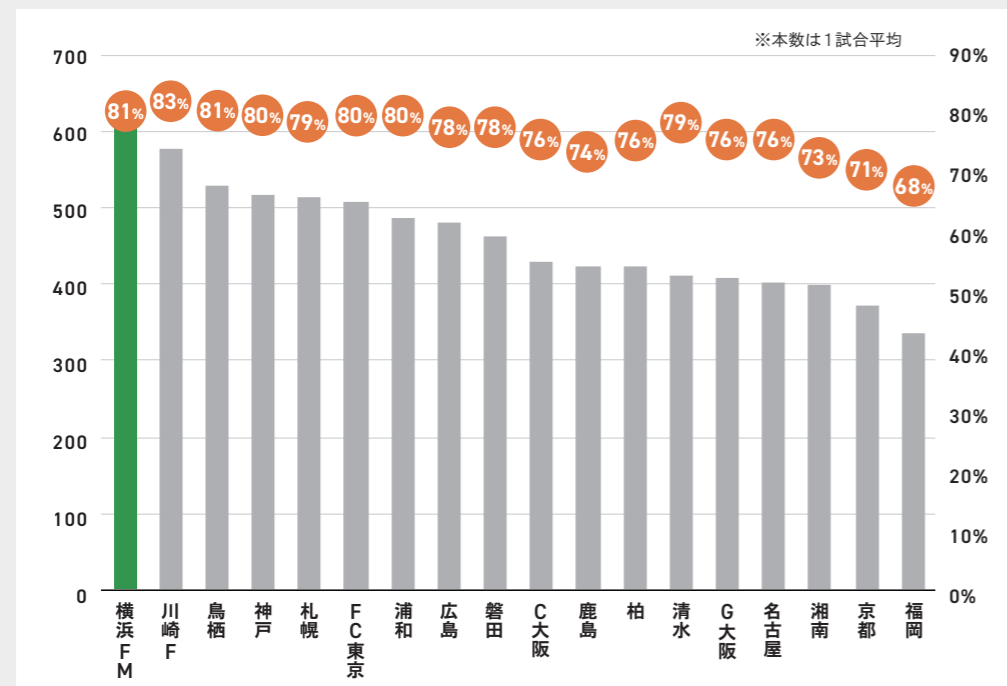
▶ ドリブル数が最も多かったチームはサンフレッチェ広島で451回であった。チーム内トップは藤井 智也の137回で、リーグでも最多となった。1人でチーム総数の30%以上を記録し、クロス数でもリーグ1位となるなど、今シーズンのサンフレッチェ広島を象徴する選手の1人であったといえる。

2位の北海道コンサドーレ札幌は450回。選手別ドリブル数を見ると、金子 拓郎とルーカス フェルナンデスが共に積極的に仕掛けていたことがわかる。3位の浦和レッズは、ドリブルによるペナルティーエリア進入回数が73回と、とりわけ多かった。

また、ドリブル数で上位のFC東京ではアダイウトン、名古屋グランパスではマテウス カストロと相馬 勇紀が100回以上のドリブルを記録した。

OFFENSE
PASS パス

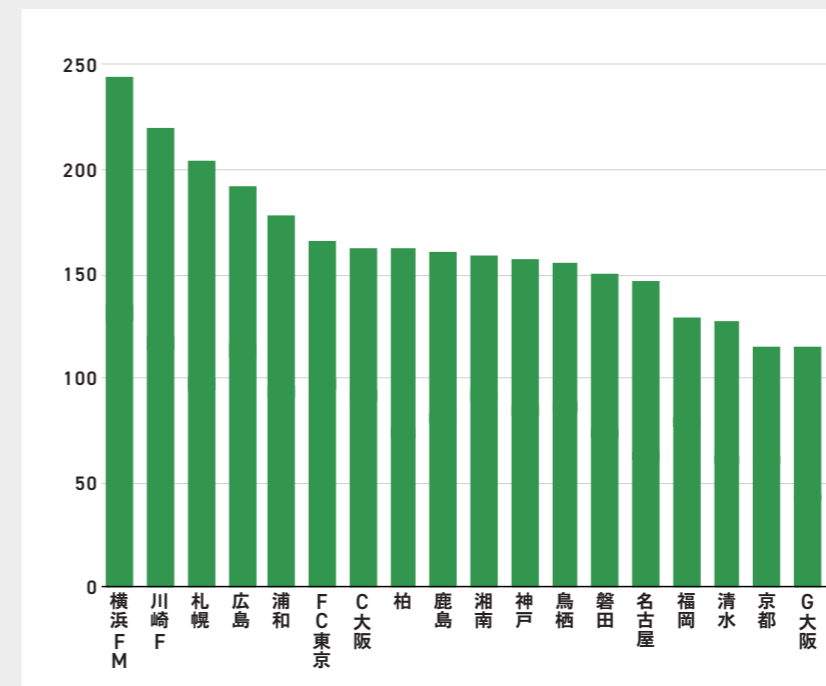
● チーム別パス数



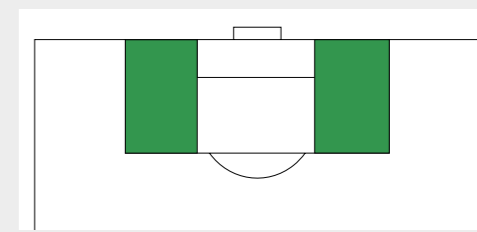
● リーグ平均



● ニアゾーンへのパス成功数

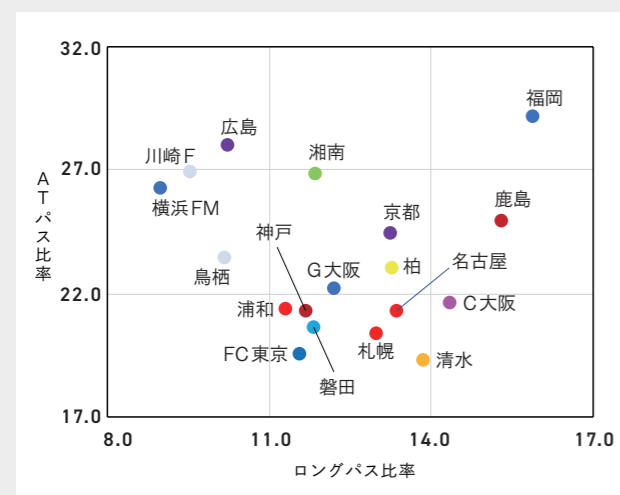


● ニアゾーン説明

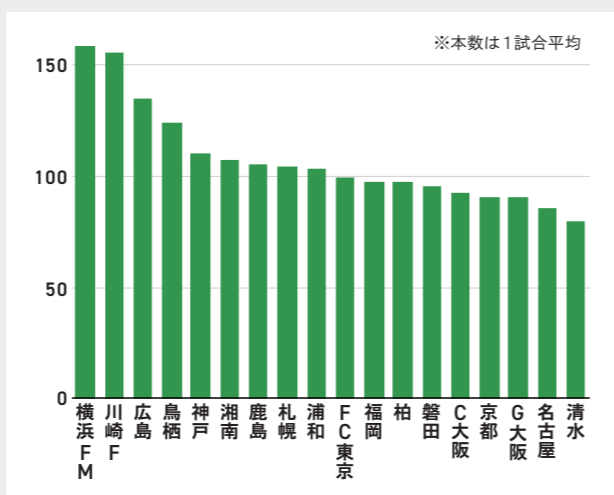


▶ チャンスが生まれやすいペナルティエリア内のニアゾーンへ送ったパスが最も多かったのは横浜F・マリノス。2番目は川崎フロンターレであった。両チームに加えて北海道コンサドーレ札幌、サンフレッチェ広島、浦和レッズが名を連ねるなど、得点数が多かったチームが上位に上がることがわかる。このエリアへボールを送り込むことで決定機を生み出していたといえる。

● ロングパス比率とATパス比率



● ATからのパス数



● 選手別パス数

選手	チーム	パス	成功率
岩田 智輝	横浜FM	2390	88.4%
谷口 彰悟	川崎F	2220	87.3%
木本 恭生	FC東京	2091	86.7%
佐々木 翔	広島	2052	81.2%
酒井 高德	神戸	2043	78.8%
古賀 太陽	柏	1997	83.2%
橋田 健人	川崎F	1976	88.2%
アレクサンダー ショルツ	浦和	1975	87.4%
家長 昭博	川崎F	1972	87.4%
岩波 拓也	浦和	1934	86.2%



▶ パス数が最多であったのは横浜F・マリノス。成功率も81.5%と2番目の高さであった。成功率が最高だったのは83.3%の川崎フロンターレで、パス数も2番目の多さであった。互いにアタッキングサードから出したパス本数も多く、パスをつないで攻め込み、相手ゴールに近いエリアでパスを回せていたことがわかる。

一方、パス数が最も少なかったのはアビスパ福岡。ロングパスの比率が15.9%、アタッキングサードパス比率が29.1%で共に最も高く、シンプルに前へ供給することで攻撃を仕掛けていたことがうかがえる。

パス数とパス成功率のリーグ平均をシーズン別に比較すると、2022シーズンは直近5シーズンでどちらも最も低い数値を記録した。

821本

横浜F・マリノスは第32節のガンバ大阪戦で今シーズン最多となる821本のパスを記録

91.0%

川崎フロンターレは第32節の清水エスパルス戦で今シーズン唯一となる90%台のパス成功率を記録

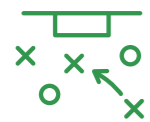
▶ パス数が最多だった選手は横浜F・マリノスの岩田 智輝で、パス数上位10人の中でパス成功率も最高値を記録している。2位は川崎フロンターレの谷口 彰悟で2220本。また、最終ラインや中盤の選手が多い中で、前線でプレーする川崎フロンターレの家長 昭博が1972本で9位となっている。味方からパスを受けた回数はリーグ最多の1824回で、山根 視来から331回、脇坂 泰斗から272回のパスを受けていた。

1824回

川崎フロンターレの家長 昭博は味方からパスを受けた回数が1824回でリーグ最多

371回

浦和レッズのアレクサンダー ショルツから岩波 拓也へ渡ったパスは371本でリーグ最多



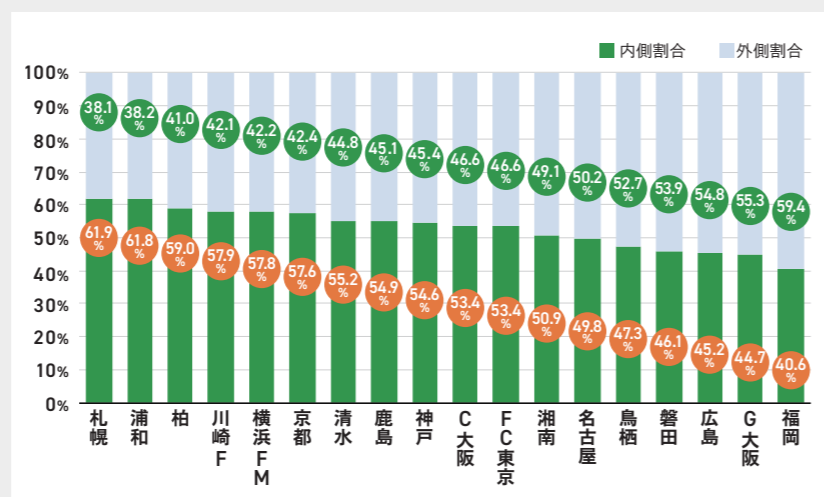
OFFENSE
PASS パス



● チーム別スルーパス数とスルーパスからのゴール

チーム	スルーパス	ゴール
横浜FM	585	19
浦和	508	12
広島	500	13
柏	497	14
FC東京	474	13
川崎F	473	10
鳥栖	467	13
湘南	438	7
C大阪	429	12
神戸	425	6
鹿島	417	10
名古屋	416	5
京都	389	7
札幌	357	13
清水	355	15
磐田	345	12
福岡	345	3
G大阪	333	3

● 到達エリア別スルーパス数と割合



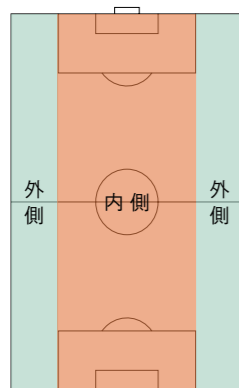
38

柏レイソルが第15節の北海道コンサドーレ札幌戦で記録したスルーパス数38は今シーズン最多

5

鹿島アントラーズのディエゴピトゥカのスルーパスから今シーズン最多の5得点が生まれた

● 到達エリア



▶ スルーパス数は横浜F・マリノスが最多の585本で、成功率は6番目の高さを記録。加えてスルーパスから奪った得点数は19と最多で、スルーパスから多くのチャンスをつくっていたといえる。チーム内ではエウベルが59本、永戸勝也が56本のスルーパスを出していた。2番目に多かったのは浦和レッズの508本。内側エリアへ出したスルーパスの割合が北海道コンサドーレ札幌に次ぐ61.8%の高さとなっている。

対照的に、外側エリアへのスルーパスが多かったチームはアビスパ福岡とガンバ大阪で、攻撃スタイルの差が見て取れる。清水エスパルスのスルーパス数は355本と4番目に少ないが、2番目に多い15点をスルーパスから記録。神谷優太のスルーパスから4点を奪っている。

● 選手別スルーパス数

選手	チーム	スルーパス
マテウス サヴィオ	柏	126
江坂 任	浦和	113
森島 司	広島	90
山岸 祐也	福岡	85
鈴木 優磨	鹿島	79
マテウス カストロ	名古屋	77
アンドレス イニエスタ	神戸	68
山根 視来	川崎F	66
ディエゴ オリヴェイラ	FC東京	66
小野瀬 康介	G大阪	65



52

柏レイソルの細谷 真大はスルーパスを受けた回数が52回でリーグ最多

18

浦和レッズのキャスパー ユンカーはバイタルエリアでスルーパスを18回を受けた

▶ スルーパス数、ラストパス数ともに最多を記録したのは、柏レイソルのマテウス サヴィオ。マテウス サヴィオのラストパスから小屋松 知哉が12本、細谷 真大が9本のシュートを打っており、さらに自身のシュート数51はチーム内最多。出し手としてもフィニッシャーとしてもチームの攻撃を支えていたといえる。スルーパス数が2番目に多かったのは浦和レッズの江坂 任。特にバイタルエリアへのスルーパス数、成功数がリーグ最多であった。

ラストパス39本を供給した鹿島アントラーズの鈴木 優磨は、オープンプレーによるアシストがリーグで最多の9と、特筆すべき数字を残した。得点ランキング2位となった湘南ベルマーレの町野 修斗は、瀬川 祐輔 へ10回のラストパスを供給しており、チームのホットラインであったことがわかる。

● 選手別ラストパス数

選手	チーム	ラストパス
マテウス サヴィオ	柏	49
鈴木 優磨	鹿島	39
江坂 任	浦和	39
満田 誠	広島	35
ルucas フェルナンデス	札幌	35
水沼 宏太	横浜FM	34
森島 司	広島	32
マテウス カストロ	名古屋	31
家長 昭博	川崎F	30

● ラストパスの出し手と受け手の関係

チーム	出し手	受け手	ラストパス
柏	マテウス サヴィオ	小屋松 知哉	12
湘南	町野 修斗	瀬川 祐輔	10
柏	マテウス サヴィオ	細谷 真大	9
横浜FM	水沼 宏太	アンデルソン ロベス	9
広島	佐々木 翔	満田 誠	9
横浜FM	仲川 輝人	レオ セアラ	8
浦和	松尾 佑介	小泉 佳穂	8
柏	小屋松 知哉	マテウス サヴィオ	8
浦和	明本 考浩	江坂 任	8

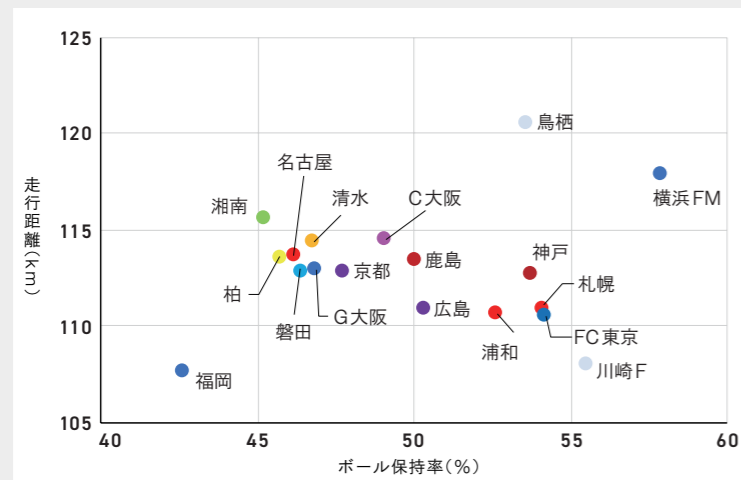
※オープンプレーのみ



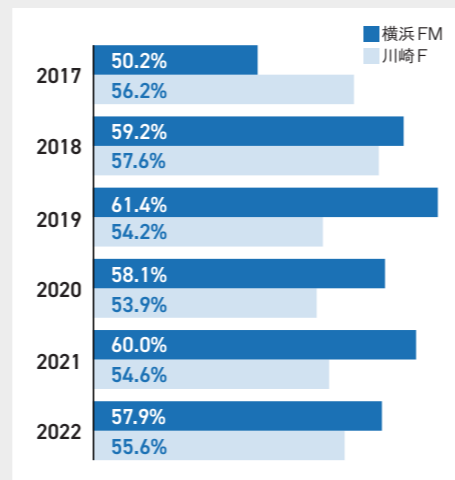
OFFENSE

POSSESSION ポゼッション

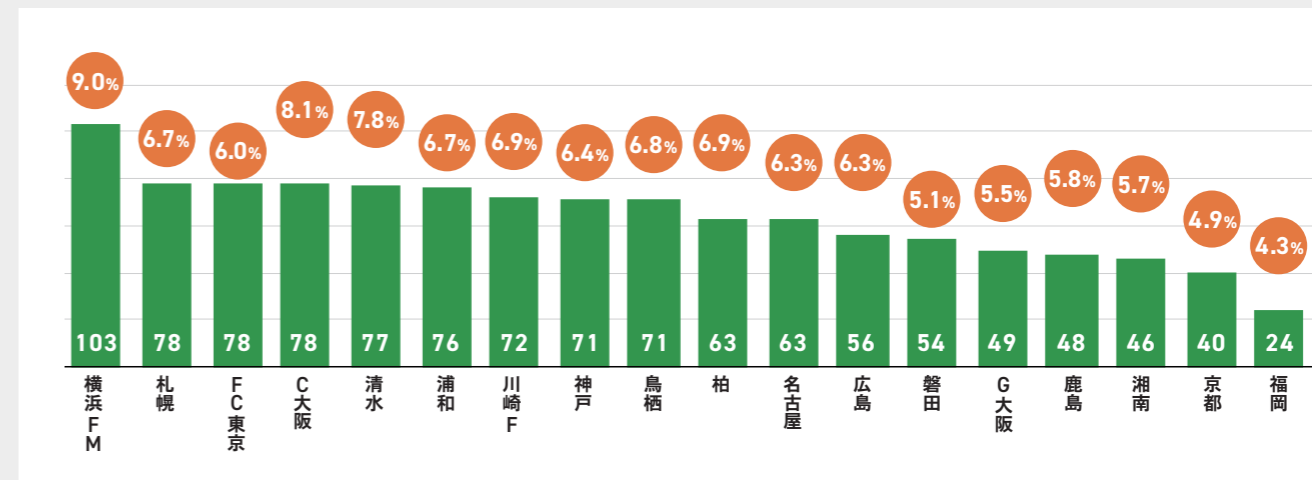
● ボール保持率と走行距離



● 横浜FMと川崎Fのボール保持率推移



● ハイプレスを受けた状況でシュートにつなげた回数と割合



● 相手陣内でのボール保持割合と保持時間

チーム	保持割合	保持時間
川崎F	46.9%	14:23
広島	45.9%	12:09
横浜FM	44.5%	13:54
鹿島	43.8%	11:00
福岡	43.8%	09:14
湘南	42.9%	10:00
鳥栖	40.3%	11:42
柏	39.9%	10:06
神戸	38.8%	11:32
京都	38.7%	09:09
FC東京	37.1%	10:29
名古屋	36.9%	09:06
札幌	36.8%	10:37
浦和	36.7%	10:45
G大阪	36.3%	09:05
磐田	36.2%	09:27
C大阪	35.8%	09:34
清水	34.7%	08:53

▶ ボール保持率が最も高かったのは横浜F・マリノスで57.9%。チームとしては2018シーズン以降で一番低い数字であったものの、ボール保持率が50%を超えた試合は32試合を記録した。2位は55.6%の川崎フロンターレで、相手陣内でのボール保持割合と保持時間では共にリーグトップであった。

ボール保持率と走行距離の散布図を見ると、右上に位置する横浜F・マリノスやサガン鳥栖はボールを保持しつつ走る傾向のチームであるのに対して、川崎フロンターレのように走行距離は短いボールを保持しているチームや、湘南ベルマーレのようにボール保持率が低く走行距離が長いチームもあり、ここからチームスタイルの違いが見て取れる。

ボールゲインからを除いた自陣から始まる攻撃で得点まで至った回数は横浜F・マリノスが17と圧倒的に多く、鹿島アントラーズが8、浦和レッズと北海道コンサドーレ札幌が7であった。

● ハイプレスを受けた状況で得点まで至った場面



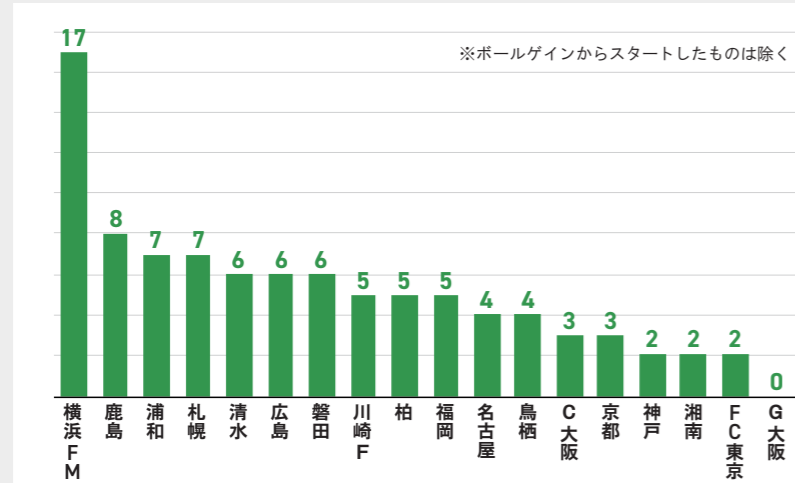
▶ 相手のハイプレスを回避してシュートまでつなげた回数が最も多いチームは横浜F・マリノスで103回、北海道コンサドーレ札幌、FC東京、セレッソ大阪が78回で続いた。シュート到達割合で見ると、横浜F・マリノスの9.0%、セレッソ大阪の8.1%に対して、北海道コンサドーレ札幌、FC東京は6%台とやや低くなっている。

● コンパクトな守備から得点まで至った場面



ボール保持時に相手がコンパクトな守備ブロックを構築した際に、シュートまで到達した回数も横浜F・マリノスが最多で174回。相手がハイプレスに来た場合でも、ブロックを構築した際のどちらでも相手守備を攻略できていたことが読み取れる。

● 自陣から始まる攻撃で得点まで至った回数



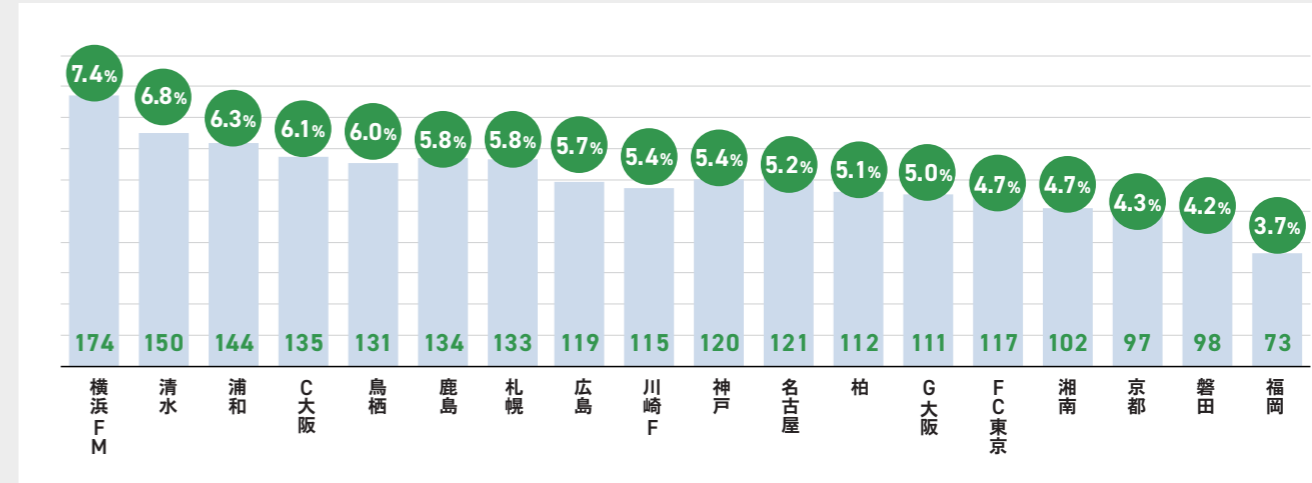
32

横浜F・マリノスはボール保持率50%を超えた試合が32でリーグ最多。ボール保持率50%以下に終わった2試合は、第10節のヴィッセル神戸戦と第24節の川崎フロンターレ戦。

70.8%

サンフレッチェ広島は第26節のガンバ大阪戦で70.8%のボール保持率を記録

● 相手がコンパクトな守備ブロックを構築した際にシュートにつなげた回数と割合





DEFENSE

DEFENSE 守備

● チーム別のハイプレス数と守備成功数

チーム	ハイプレス	試行率	守備成功	守備成功率
鳥栖	1147	56.7%	531	46.3%
柏	1121	53.5%	464	41.4%
湘南	1117	53.3%	528	47.3%
広島	1096	53.4%	539	49.2%
C大阪	1035	53.1%	472	45.6%
横浜FM	1011	53.4%	517	51.1%
札幌	996	52.7%	482	48.4%
磐田	973	50.8%	389	40.0%
名古屋	970	51.4%	410	42.3%
川崎F	962	52.1%	428	44.5%
清水	946	50.0%	373	39.4%
京都	946	51.3%	423	44.7%
浦和	940	53.2%	418	44.5%
福岡	919	46.8%	359	39.1%
FC東京	905	50.6%	423	46.7%
G大阪	884	47.9%	362	41.0%
神戸	859	48.8%	395	46.0%
鹿島	837	46.7%	358	42.8%

▶相手の攻撃機会に対してハイプレスを行った割合であるハイプレス試行率を見ると、サガン鳥栖が最高の56.7%を記録し、柏レイソル、横浜F・マリノス、サンフレッチェ広島と続いている。

また守備成功率を見ると、横浜F・マリノスが唯一50%を超えてトップ。2位のサンフレッチェ広島、3位の北海道コンサドーレ札幌と共に前から奪いに行くケースが多く、かつボールを奪えているといえる。

● 鳥栖のハイプレス動画



● チーム別のハイプレス数と被シュート数

チーム	ハイプレス	試行率	被シュート	被シュート率
札幌	996	52.7%	45	4.5%
横浜FM	1011	53.4%	51	5.0%
福岡	919	46.8%	47	5.1%
神戸	859	48.8%	44	5.1%
湘南	1117	53.3%	62	5.6%
柏	1121	53.5%	65	5.8%
広島	1096	53.4%	64	5.8%
川崎F	962	52.1%	61	6.3%
名古屋	970	51.4%	62	6.4%
鳥栖	1147	56.7%	74	6.5%
浦和	940	53.2%	62	6.6%
鹿島	837	46.7%	58	6.9%
C大阪	1035	53.1%	73	7.1%
FC東京	905	50.6%	67	7.4%
清水	946	50.0%	71	7.5%
京都	946	51.3%	71	7.5%
磐田	973	50.8%	75	7.7%
G大阪	884	47.9%	95	10.7%

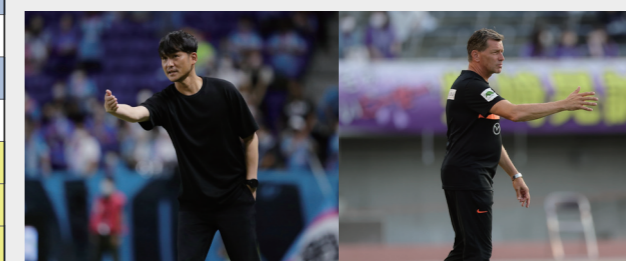
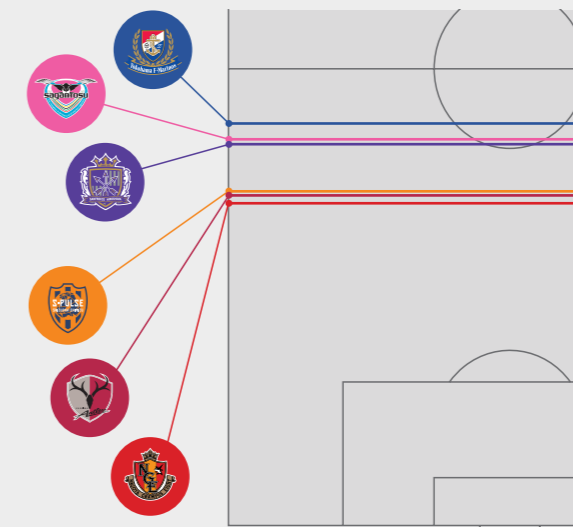
▶ハイプレスをかけて相手ゴールに近い位置でボールを奪うことができれば、自陣でボールを奪って攻めるよりも高い確率でシュートチャンスを生み出すことができる。一方で、前線から複数の選手が連動してプレスをかけるため、相手に突破されてしまった場合には大きなピンチを招くリスクも伴う。

ハイプレスを試行した際の被シュート率が最も低かったのは北海道コンサドーレ札幌の4.5%。北海道コンサドーレ札幌は守備成功率も48.4%と高く、ハイプレスが成功しなかった場合でもシュートを打たれる確率が低くなっており、効果的なハイプレスを行っていることがデータに表れている。

これに対し、ガンバ大阪はハイプレスの試行率は他チームと比較して高くはなかったものの、ハイプレスをかけた際の被シュート率が10.7%と高く、リスクの方が大きく出てしまったといえる。

● チーム別のタックルライン

チーム	タックルライン(m)
横浜FM	45.55
鳥栖	44.12
広島	44.04
京都	43.13
湘南	42.75
C大阪	41.49
FC東京	41.26
浦和	40.98
神戸	40.79
福岡	40.70
札幌	40.39
川崎F	40.34
柏	40.24
磐田	39.80
G大阪	39.56
清水	38.90
鹿島	38.89
名古屋	37.06



▶タックル位置の平均ライン(自ゴールからの距離m)からは、前線でボールを奪う意図があるか、自陣に引いて守備をする意図があるかといった、チームの守備スタイルを読み取ることができる。

ハイプレスのデータと同様に、横浜F・マリノス、サガン鳥栖、サンフレッチェ広島は高いタックルラインを示しており、前線から積極的にボールを奪いに行っていることがわかる。また、清水エスパルス、鹿島アントラーズ、名古屋グランパスはタックルラインが低く、自陣で守備ブロックを築いてからボールを奪うチームスタイルであるといえる。

● チーム別のハイプレス数とタックルラインのシーズン比較

チーム	1試合平均のハイプレス数			タックルライン(m)		
	2022	2021	22-21 差分	2022	2021	22-21 差分
札幌	29.3	30.6	-1.3	40.39	41.65	-1.26
鹿島	24.6	30.3	-5.7	38.89	40.60	-1.72
浦和	27.6	29.2	-1.5	40.98	40.91	0.07
柏	33.0	27.8	5.2	40.24	40.22	0.02
FC東京	26.6	26.3	0.4	41.26	41.79	-0.53
川崎F	28.3	32.0	-3.7	40.34	44.20	-3.86
横浜FM	29.7	28.3	1.4	45.55	44.60	0.95
湘南	32.9	32.5	0.3	42.75	42.72	0.03
清水	27.8	30.0	-2.2	38.90	39.12	-0.23
磐田	28.6	—	—	39.80	41.53	-1.73
名古屋	28.5	26.2	2.3	37.06	38.91	-1.85
京都	27.8	—	—	43.13	46.84	-3.72
G大阪	26.0	28.9	-2.9	39.56	37.60	1.96
C大阪	30.4	27.9	2.5	41.49	40.98	0.51
神戸	25.3	31.2	-5.9	40.79	40.24	0.55
広島	32.2	30.2	2.0	44.04	42.26	1.78
福岡	27.0	29.3	-2.3	40.70	39.85	0.85
鳥栖	33.7	33.1	0.6	44.12	42.22	1.90

※ジュビロ磐田、京都サンガF.C.は2021シーズンJ2リーグ所属のためハイプレスのデータはなし

▶ハイプレスとタックルラインのデータを昨シーズンと比較している。サンフレッチェ広島とサガン鳥栖は、今シーズンからそれぞれミハエル スキッペ、川井 健太を新たに監督として迎え、1試合平均のハイプレス回数とタックルラインのどちらも昨シーズンより高くなっており、よりアグレッシブな守備を行うチームスタイルへと変化したことがうかがえる。

ヴィッセル神戸と鹿島アントラーズはハイプレス回数が5回以上減少。また、川崎フロンターレは昨シーズンに比べてハイプレス回数が約3.7回減少、タックルラインも3.86m低くなっていることが目を引くデータとなっている。



DEFENSE

DEFENSE 守備

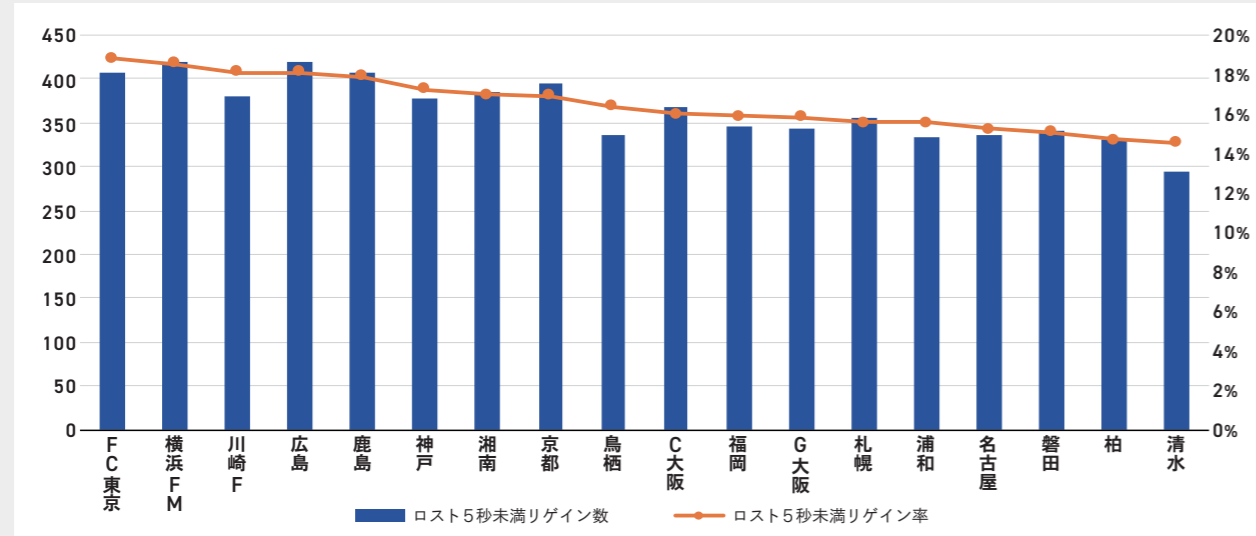
● 選手別のタックル数とタックル奪取率

チーム	選手	出場試合数	タックル	タックル奪取率
名古屋	稲垣 祥	34	105	71.4%
広島	野津田 岳人	28	104	63.5%
鳥栖	小泉 慶	30	102	62.7%
京都	川崎 颯太	28	93	66.7%
鹿島	三竿 健斗	33	90	71.1%
川崎F	橋田 健人	32	85	67.1%
広島	佐々木 翔	34	85	70.6%
C大阪	奥壘 博亮	31	84	75.0%
柏	三丸 拓	31	78	51.3%
福岡	前 寛之	34	78	78.2%

▶ 選手別のタックル数1位は、全34試合に出場した名古屋グランパスの稲垣 祥で105回。タックルの多さもさることながら、タックルによるボール奪取率も71.4%と非常に高い。2021シーズンもタックル数114回を記録しており、2年連続でトップとなった。また、サンフレッチェ広島の野津田 岳人は28試合の出場ながらタックル数が104回で2位となっている。



● チーム別のロスト5秒未満リゲイン数とリゲイン率



▶ ロストしたボールを5秒未満に奪い返したリゲインの割合が高かったのはFC東京、横浜F・マリノス、サンフレッチェ広島、川崎フロンターレ、鹿島アントラーズ。ボールを失った後すぐに奪い返すことができればチャンスをつくる回数が増やすことができる一方で、奪い切れずに大きなピンチを招くよりも下がって守備陣形を整えたほうが守りやすい場合もある。点差や時間帯といった試合状況にも左右されるため、あくまでチームの全体的なスタイルを見るための指標である。

● チーム別のディフェンシブサイドでのファウル数と失点数

チーム	ファウル	DTでのファウル	DTでのファウル率	DTでのFKからの被シュート	DTでのFKからの失点
C大阪	295	54	18.3%	15	1
浦和	303	56	18.5%	19	3
神戸	311	69	22.2%	31	4
川崎F	333	53	15.9%	24	3
清水	340	72	21.2%	29	2
名古屋	346	63	18.2%	29	2
FC東京	365	86	23.6%	40	3
磐田	366	79	21.6%	39	4
G大阪	393	74	18.8%	27	1
広島	403	56	13.9%	22	2
横浜FM	405	55	13.6%	21	1
鹿島	413	66	16.0%	23	3
柏	419	73	17.4%	32	5
札幌	428	89	20.8%	30	5
湘南	438	58	13.2%	23	0
京都	449	69	15.4%	23	2
鳥栖	453	66	14.6%	23	0
福岡	496	74	14.9%	24	2

※プレー開始から5プレー以内の被シュート、失点が対象

▶ 失点につながる可能性の高いディフェンシブサイドでのファウルと、そこで与えたFKから5プレー以内の被シュートおよび失点に関するデータを示している。ディフェンシブサイドでのファウルが多いほど被シュートや失点が多くなっており、自陣ゴールに近い危険な位置でのファウルを減らすことが重要であると思われる。

シーズンを通して失点を0に抑えたのは湘南ベルマーレとサガン鳥栖の2チーム。特に湘南ベルマーレはディフェンシブサイドでのファウル数が58と少なく、ファウル全体に対するディフェンシブサイドでの割合は13.2%と最も低かった。

● 選手別の自陣での空中戦数と勝率

チーム	選手	出場試合数	自陣での空中戦	勝率
広島	荒木 隼人	31	155	69.7%
札幌	岡村 大八	26	125	60.8%
G大阪	三浦 弦太	33	122	63.9%
清水	鈴木 義宜	33	114	52.6%
名古屋	藤井 陽也	31	107	66.4%
柏	高橋 祐治	29	103	66.0%
柏	古賀 太陽	32	102	45.1%
川崎F	谷口 彰悟	33	101	76.2%
鹿島	三竿 健斗	33	100	66.0%
福岡	宮 大樹	27	96	66.7%
鳥栖	ジエゴ	32	91	58.2%
札幌	田中 駿汰	32	90	46.7%
鹿島	関川 郁万	32	88	61.4%
FC東京	木本 恭生	33	86	67.4%
京都	麻田 将吾	32	86	66.3%
神戸	小林 友希	32	86	75.6%
柏	上島 拓巳	24	82	68.3%

▶ 守備において、ロングボールやクロスボールをはね返す空中戦も非常に重要なプレーである。自陣での空中戦と勝率のデータを見ると、サンフレッチェ広島の荒木 隼人が最多の155回と69.7%という高い勝率を記録。また、勝率の高さでは川崎フロンターレの谷口 彰悟が76.2%、ヴィッセル神戸の小林 友希が75.6%と圧倒的な強さを発揮していたことがわかる。





DEFENSE

GOALKEEPING ゴールキーピング

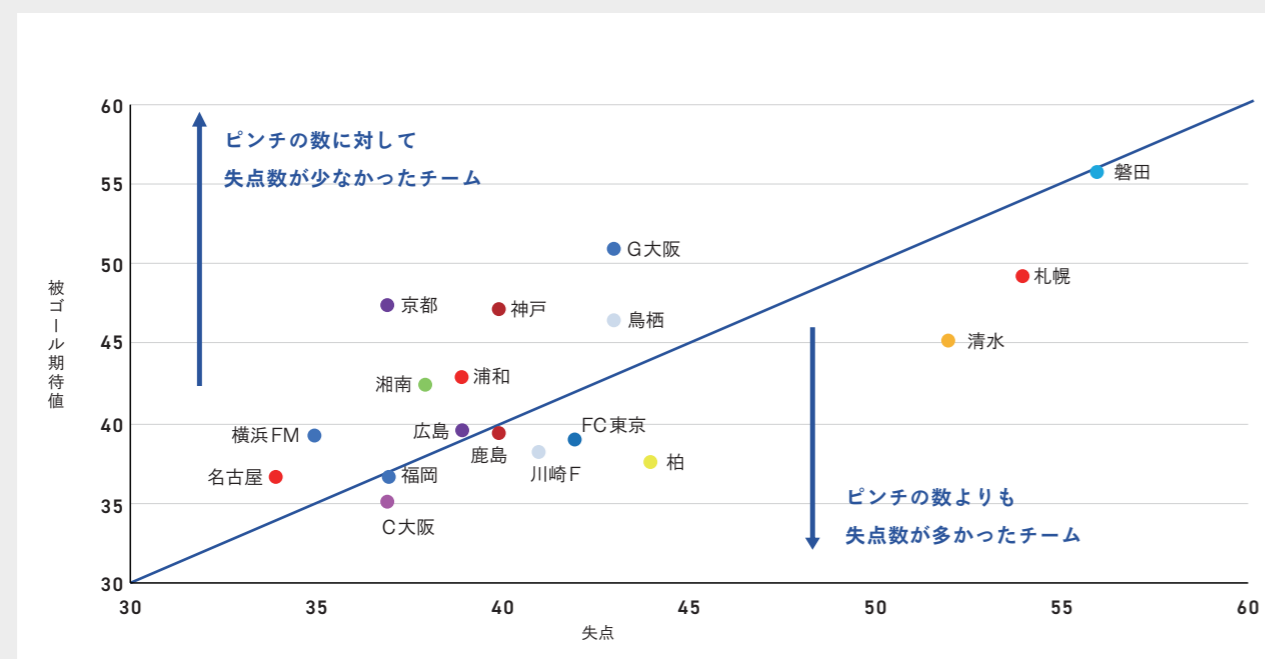
● チーム別の失点数とクリーンシート数

順位	チーム	失点	失点 (PA内)	失点 (PA外)	クリーンシート
1	横浜FM	35	34	1	13
8	名古屋	35	30	5	13
16	京都	38	29	9	8
14	福岡	38	32	6	11
12	湘南	39	33	6	12
9	浦和	39	35	4	10
5	C大阪	40	37	3	9
13	神戸	41	36	5	11
3	広島	41	38	3	12
2	川崎F	42	34	8	12
4	鹿島	42	35	7	10
6	FC東京	43	35	8	14
7	柏	44	36	8	11
11	鳥栖	44	41	3	12
15	G大阪	44	41	3	12
17	清水	54	45	9	7
10	札幌	55	45	10	10
18	磐田	57	50	7	5

▶ 失点数は横浜F・マリノスと名古屋グランパスが最少の35。特に横浜F・マリノスはペナルティーエリア外からのシュートによる失点がわずか1と、シーズンを通しての堅守が光った。クリーンシート(無失点試合)数はFC東京が14試合と最も多かった。FC東京がJ1で最多クリーンシートを記録したのは2015シーズン以来。



● チーム別の被ゴール期待値と失点数



▶ 基準線の上にプロットされているチームは被ゴール期待値よりも失点数が少なく、失点機会に対して実際の失点数が少なかったチームを示している。一方、基準線の下にプロットされているチームは被ゴール期待値よりも失点数が多く、失点機会よりも実際の失点数が多かったチームを示している。

基準線よりも上にプロットされている京都サンガF.C.、ガンバ大阪、ヴィッセル神戸は、失点機会が多かった中でも失点数を抑えることができ、残留争いを制した要因の一つといえる。

● 選手別のセーブ数とセーブ率

チーム	選手	出場試合数	セーブ	セーブ率
G大阪	東口 順昭	19	80	76.9%
京都	上福元 直人	31	95	75.4%
広島	大迫 敬介	28	74	70.5%
横浜FM	高丘 陽平	34	83	70.3%
磐田	三浦 龍輝	28	97	70.3%
C大阪	キム ジンヒョン	33	87	70.2%
名古屋	ランゲラック	33	72	69.9%
札幌	菅野 孝憲	27	69	69.7%
清水	権田 修一	33	111	69.4%
湘南	谷 晃生	31	79	69.3%
浦和	西川 周作	32	81	69.2%
神戸	前川 黛也	18	47	68.1%
鳥栖	朴 一圭	34	86	66.2%
鹿島	クオン スンテ	27	66	66.0%
福岡	村上 昌謙	27	56	64.4%
FC東京	ヤクブ スウォビク	33	72	63.2%
柏	佐々木 雅士	20	50	61.7%
川崎F	チョン ソンリョン	31	56	60.9%

▶ 上表は、全試合数の半分にあたる17試合以上に出場したゴールキーパーのセーブ率ランキングである。75%以上の高いセーブ率を記録したのはガンバ大阪の東口 順昭と京都サンガF.C.の上福元 直人の2人であった。特に東口 順昭は、けがの影響もあり他のゴールキーパーと比べても少ない19試合の出場にもかかわらずセーブ数80を記録、セーブ率は76.9%と最も高い数値を残した。上福元 直人もセーブ数95、セーブ率75.4%と他のゴールキーパーと比較しても非常に高い数値を記録し、昇格初年度でのJ1残留に大きく貢献したといえる。またクリーンシート数では、FC東京への移籍1年目から33試合でゴールを守ったヤクブ スウォビクが最多の14試合を記録した。

● 選手別のクリーンシート数

チーム	選手	出場試合数	クリーンシート
FC東京	ヤクブ スウォビク	33	14
横浜FM	高丘 陽平	34	13
名古屋	ランゲラック	33	13
鳥栖	朴 一圭	34	12
川崎F	チョン ソンリョン	31	12
広島	大迫 敬介	28	11
浦和	西川 周作	32	10
湘南	谷 晃生	31	10
札幌	菅野 孝憲	27	10
C大阪	キム ジンヒョン	33	9
京都	上福元 直人	31	8
G大阪	東口 順昭	19	8
鹿島	クオン スンテ	27	8
福岡	村上 昌謙	27	8
清水	権田 修一	33	7
柏	佐々木 雅士	20	6
神戸	前川 黛也	18	6
磐田	三浦 龍輝	28	4

● 選手別の相手クロスキャッチ数

チーム	選手	出場試合数	相手クロスキャッチ
湘南	谷 晃生	31	56
京都	上福元 直人	31	52
浦和	西川 周作	32	48
C大阪	キム ジンヒョン	33	47
清水	権田 修一	33	44
G大阪	東口 順昭	19	42
鳥栖	朴 一圭	34	41
広島	大迫 敬介	28	35
磐田	三浦 龍輝	28	34
名古屋	ランゲラック	33	29
札幌	菅野 孝憲	27	29
横浜FM	高丘 陽平	34	28
FC東京	ヤクブ スウォビク	33	27
川崎F	チョン ソンリョン	31	23
福岡	村上 昌謙	27	23
鹿島	クオン スンテ	27	22
神戸	前川 黛也	18	22
柏	佐々木 雅士	20	13

▶ 相手クロスをキャッチした回数は、湘南ベルマーレの谷 晃生が56と最も多かった。ゴールキーパーがクロスをキャッチすることで、確実にマイボールとすることができ、相手チームの二次攻撃を防ぐだけでなく攻撃機会を得ることができる。クロスに対してチャレンジしてキャッチを成功させることは、チームにとって攻守両面で大きなプレーだといえる。

● 谷 晃生のクロスキャッチ動画





DEFENSE

GOALKEEPING ゴールキーピング

● チーム別のゴールキックエリア比率

チーム	DTへの ゴールキック比率	MTへの ゴールキック比率	ATへの ゴールキック比率
横浜FM	78.4%	17.0%	4.6%
FC東京	70.5%	26.3%	3.2%
鳥栖	68.0%	30.5%	1.6%
C大阪	59.1%	37.4%	3.5%
浦和	55.2%	35.8%	9.0%
札幌	53.0%	45.9%	1.1%
柏	51.7%	40.3%	8.0%
神戸	48.9%	47.9%	3.2%
清水	47.7%	48.0%	4.3%
名古屋	46.3%	52.2%	1.5%
広島	45.9%	48.4%	5.7%
鹿島	30.5%	65.8%	3.7%
湘南	30.2%	55.2%	14.7%
G大阪	27.9%	62.8%	9.3%
磐田	27.2%	57.8%	15.0%
川崎F	24.8%	67.3%	8.0%
京都	17.2%	78.9%	3.8%
福岡	6.0%	83.5%	10.4%

● シーズン別のゴールキックエリア比率

シーズン	DTへの ゴールキック比率	MTへの ゴールキック比率	ATへの ゴールキック比率
2018	19.8%	72.8%	7.4%
2019	32.4%	62.0%	5.6%
2020	46.5%	49.9%	3.6%
2021	35.8%	58.5%	5.7%
2022	44.3%	49.6%	6.2%

● 選手別のGKの1試合平均パス受け数

チーム	選手	出場 試合数	パス受け
鳥栖	朴一圭	34	31.9
札幌	菅野孝憲	27	31.1
横浜FM	高丘陽平	34	29.9
神戸	前川 篤也	18	24.7
FC東京	ヤクブ スウォビィク	33	22.6

▶ ゴールキーパーの1試合平均パス受け数では、サガン鳥栖の朴一圭、北海道コンサドーレ札幌の菅野孝憲、横浜F・マリノスの高丘陽平の回数が多く、これらのチームはゴールキーパーを使ったビルドアップをチーム戦術として志向していたことがわかる。

また、リーグ全体でのゴールキーパーの1試合平均パス受け数を2018シーズンから2022シーズンまで比較すると、パス受け数は年々多くなっており、ゴールキーパーもビルドアップに参加することを求められるチームが増えていると考えられる。シュートセーブだけでなく、攻撃面での役割も着実に広がっているといえる。

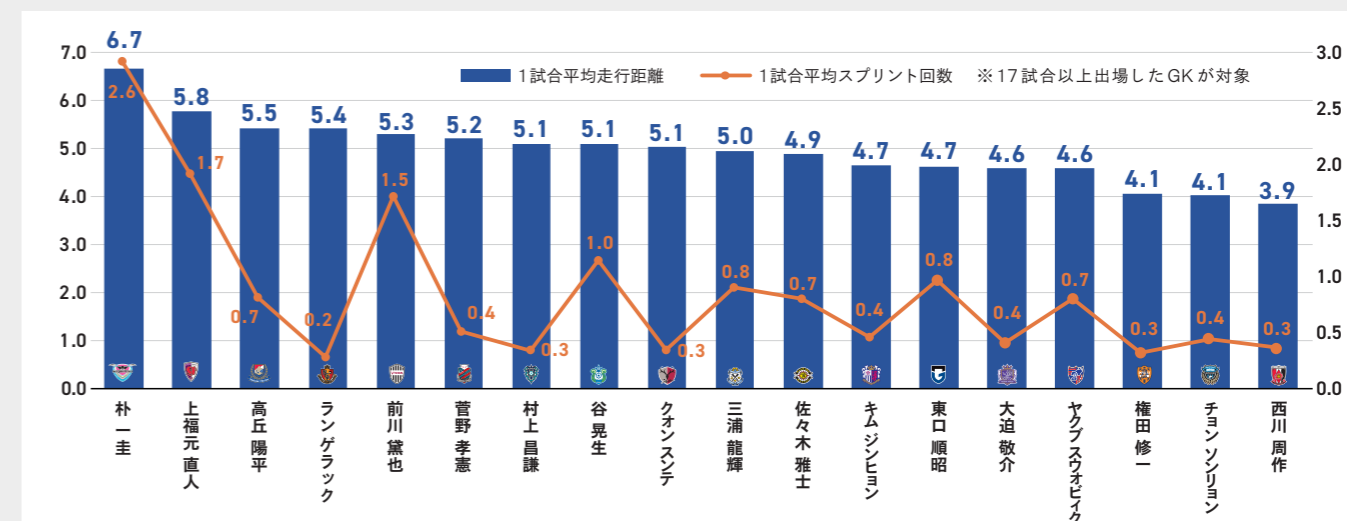
▶ 左表は、ピッチを攻撃方向に3分割したエリアに対してのゴールキック比率を示している。横浜F・マリノスやFC東京がゴールキックの70%以上をディフェンスサイドに蹴っている一方で、アビスパ福岡のように90%以上をミドルサイドやアタッキングサイドへ蹴るチームもあり、各チームの攻撃スタイルを表している。

またリーグ全体の傾向をシーズン別に比較してみると、ディフェンスサイドへのゴールキック比率が2018シーズンは19.8%だったのに対し、2022シーズンは44.3%と増大していることがわかる。戦術の変化とともに、2019年8月からのルール改正でゴールキックの際に攻撃側チームの選手がペナルティーエリア内でボールを受けることが可能になったことが影響していると考えられる。最終ラインからパスをつなぐことで、意図を持って相手の守備陣形を動かすことができる。また、相手のプレッシングを突破すれば有利な状況で相手陣内に進入することができるというメリットがある。一方で、危険な位置でボールを奪われるリスクも増えるため、チームスタイルや試合状況に応じた選択が求められる。

● シーズン別のGKの1試合平均パス受け数

シーズン	パス受け
2018	11.1
2019	14.4
2020	17.0
2021	16.9
2022	17.7

● 選手別のGKの1試合平均走行距離とスプリント回数



▶ 上図は、17試合以上出場したゴールキーパーの1試合平均走行距離とスプリント回数を示している。数値が高いほど、ディフェンスラインの裏を広くカバーする役割を求められている傾向にあると考えられる。特筆すべきはサガン鳥栖の朴一圭で、1試合平均走行距離6.7kmは他のゴールキーパーを大きく上回っている。

● 選手別のGKの1試合走行距離

チーム	選手	日付	節	対戦相手	走行距離
鳥栖	朴一圭	2022/2/19	1	広島	7.73
鳥栖	朴一圭	2022/3/6	3	名古屋	7.70
鳥栖	朴一圭	2022/6/18	17	磐田	7.69
鳥栖	朴一圭	2022/4/6	7	札幌	7.68
鳥栖	朴一圭	2022/2/26	2	湘南	7.61

▶ 上表は、2022シーズンにゴールキーパーが1試合で記録した走行距離のランキングである。トップ5の全てをサガン鳥栖の朴一圭が独占する結果となった。この運動量がサガン鳥栖のアグレッシブなスタイルを支えているといえる。

● 朴一圭のPA外パス動画



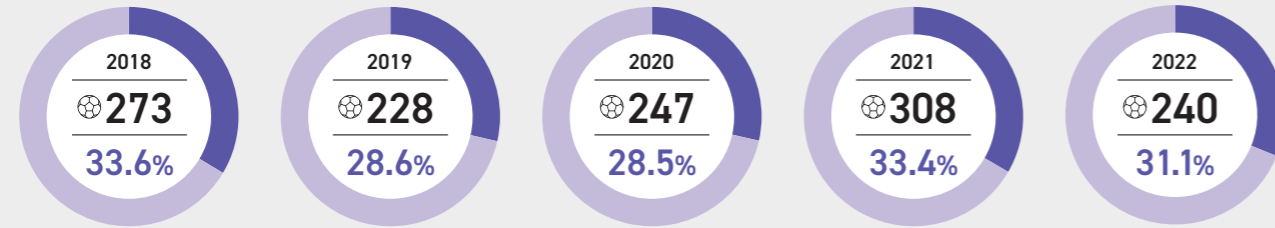
● 朴一圭のPA外クリア動画





SET PLAY セットプレー

● シーズン別のセットプレー得点数と全得点に占める割合 ※2021シーズンのみ380試合。その他のシーズンは306試合。



● シーズン別のセットプレーからの得点内訳

シーズン	合計	PK	FK	CK	スローイン	その他
2018	273	56	68	97	33	19
2019	228	50	64	78	28	8
2020	247	42	66	104	29	6
2021	308	57	79	129	36	7
2022	240	41	55	93	40	11

※「その他」にはゴールキックとPKのこぼれ球を含む
※PKは直接、それ以外はプレー開始から5プレー以内の得点が対象

● チーム別のCKとFKからの得失点数

チーム	CK			FK		
	得点	失点	得失点	得点	失点	得失点
札幌	7	3	4	2	5	-3
鹿島	5	7	-2	3	3	0
浦和	6	6	0	6	4	2
柏	1	4	-3	0	7	-7
FC東京	3	4	-1	3	3	0
川崎F	14	4	10	1	4	-3
横浜FM	6	8	-2	6	1	5
湘南	5	8	-3	1	0	1
清水	5	6	-1	2	2	0
磐田	4	4	0	2	6	-4
名古屋	4	5	-1	4	4	0
京都	4	8	-4	2	4	-2
G大阪	6	2	4	2	1	1
C大阪	6	6	0	5	2	3
神戸	4	7	-3	4	4	0
広島	5	3	2	7	2	5
福岡	3	2	1	1	3	-2
鳥栖	5	6	-1	4	0	4

※プレー開始から5プレー以内の得点が対象

● CKのインスイング率とアウトスイング率

左CK	右CK
インスイング率	インスイング率
65.9% (シュート率20.5%)	37.8% (シュート率25.9%)
アウトスイング率	アウトスイング率
34.1% (シュート率34.2%)	62.2% (シュート率33.6%)

▶ 近年、セットプレーからの得点数は全体得点数の30%前後となっており、2022シーズンは31.1%であった。内訳を見ると、例年に比べてFKからの得点が少なく、スローインからの得点が多かったといえる。

また、チーム別にCKとFKからの得点数と失点数を比較すると、ガンバ大阪とサンフレッチェ広島はどちらも得失点差がプラスになっている一方で、柏レイソルと京都サンガF.C.はどちらも得失点差がマイナスとなった。

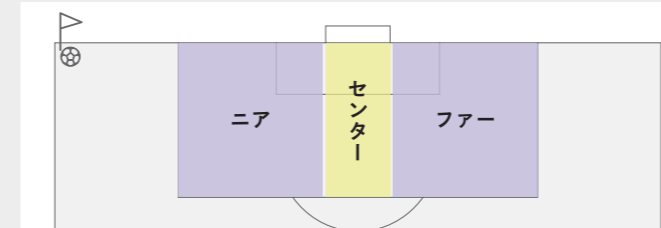
CKとFK両方の得失点差を合計すると、川崎フロンターレとサンフレッチェ広島がプラス7となっており、セットプレーを強みにしていたことがわかる。特に川崎フロンターレはCKから14得点を奪っており、2016シーズン以降では2017シーズンにセレッソ大阪が記録した18得点に次ぐ数字となった。

● 川崎FのCK得点シーン



▶ CKからのクロスを左右別および軌道別に見ると、左CKではインスイング率、右CKではアウトスイング率が60%を超える結果となっており、右足でのキックが多いことがわかる。CKからのシュート到達率を比較すると、左右にかかわらずアウトスイングの方が高く、特に左CKではアウトスイングのシュート到達率がインスイングの1.5倍以上の数値となっている。

● 左CKのニア/センター/ファー位置



● CKクロスのニア/センター/ファーへの割合

	割合	シュート率	ゴール率
ニアへ	39.8%	23.2%	3.9%
センターへ	45.1%	30.9%	4.5%
ファーへ	15.0%	32.8%	3.5%

▶ ゴールエリア幅を境にCK位置に近い側からニア、センター、ファーとして、CKからのクロスの到達位置を分けると、センターへのクロスが45.1%と最も多く、ゴール率も4.5%と最も高い。ファーへは15.0%しか蹴られておらず、シュート率は32.8%と最も高いがゴール率は3.5%と最も低い結果となっている。



● シーズン別の直接FKによるシュート数と決定率

シーズン	シュート	ゴール	決定率
2016	296	15	5.1%
2017	302	24	7.9%
2018	261	13	5.0%
2019	256	18	7.0%
2020	265	15	5.7%
2021	291	18	6.2%
2022	232	10	4.3%

▶ 直接FKからのシュート数は例年1試合1本に満たないが、2022シーズンは232本と非常に少なかった。また、決定率とゴール数も2016シーズン以降で最も低い数字になっている。

2

今シーズン直接FKで複数のゴールを決めたのは、サガン鳥栖とサンフレッチェ広島の2チームのみ

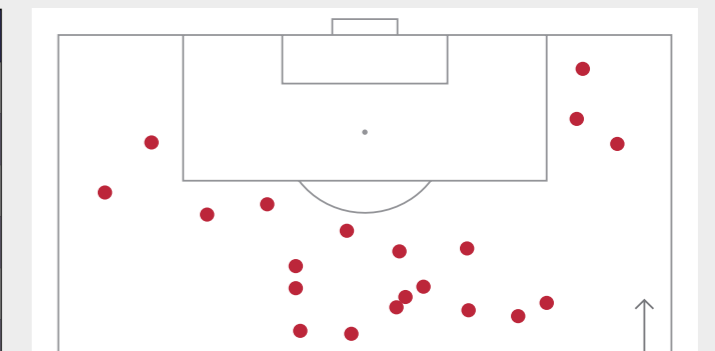
● 鳥栖、広島の直接FK得点シーン



● 直接FKからゴールを決めた選手とシュート数

チーム	選手	シュート	ゴール
名古屋	マテウス カストロ	20	1
川崎F	脇坂 泰斗	10	1
札幌	福森 晃斗	10	1
広島	野津田 岳人	9	1
浦和	ダヴィド モーベルグ	5	1
広島	満田 誠	4	1
神戸	小林 祐希	4	1
鳥栖	堀米 勇輝	3	1
鳥栖	藤田 直之	2	1
福岡	中村 駿	1	1

● マテウス カストロの直接FKシュート位置



▶ 選手別の直接FKシュート数を見ると、10本以上打ったのは3人のみで、名古屋グランパスのマテウス カストロが20本、川崎フロンターレの脇坂 泰斗と北海道コンサドーレ札幌の福森 晃斗が10本であった。



SET PLAY セットプレー

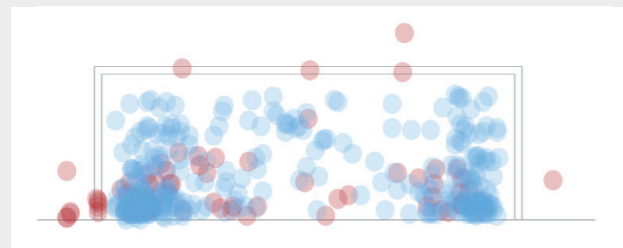
● シーズン別のPK数と決定率

シーズン	PK	決定率
2016	58	80.0%
2017	54	85.2%
2018	70	80.0%
2019	58	86.2%
2020	51	82.4%
2021	71	80.3%
2022	50	82.0%

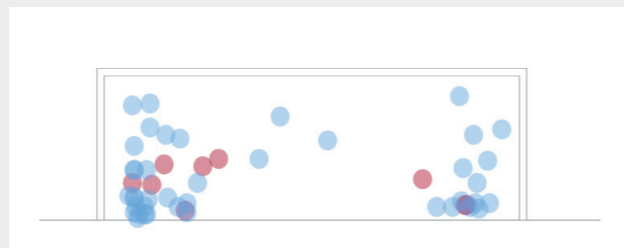


▶ PKの決定率は例年80%強となっており、2022シーズンも82.0%を記録している。特筆すべきはPKシュート枠内率で、2022シーズンのPKシュートで枠外(ポスト・バーを含む)による失敗は1本もなかった。

● 2016-2022シーズンのPKのコース



● 2022シーズンのPKのコース



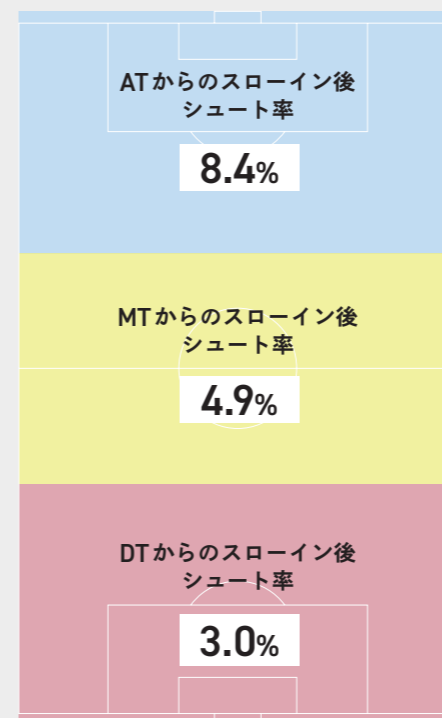
● PKを獲得した数と与えた数



チーム	獲得したPK数	与えたPK数	差分
札幌	3	8	-5
鹿島	2	5	-3
浦和	9	3	6
柏	3	2	1
FC東京	3	1	2
川崎F	6	2	4
横浜FM	4	0	4
湘南	1	5	-4
清水	1	2	-1
磐田	1	2	-1
名古屋	2	1	1
京都	2	3	-1
G大阪	0	4	-4
C大阪	3	3	0
神戸	3	2	1
広島	3	1	2
福岡	2	4	-2
鳥栖	2	2	0

▶ PKを獲得した数と相手に与えた数の差が最も大きかったのは浦和レッズのプラス6。横浜F・マリノスは相手に1回もPKを与えなかった一方で、ガンバ大阪は1回もPKを獲得することがなかった。

● スローインからのシュート率とロスト率



● ATからのスローイン後シュート率

横浜FM	11.4%
鹿島	10.8%
福岡	10.2%
...	
鳥栖	5.7%
FC東京	5.0%
京都	4.9%

● DTからのスローイン後5秒未満でのロスト率

鹿島	18.6%
川崎F	21.5%
浦和	25.5%
...	
福岡	35.9%
G大阪	37.7%
C大阪	38.5%

▶ スローインは位置の分布が非常に広いので、位置によってその後の展開が大きく異なるセットプレーである。より相手ゴールに近い位置ほどシュート率は高く、アタッキングサードからのスローインでは8.4%。チーム別では横浜F・マリノスが最も高い11.4%を記録している。

また、ディフェンシブサードからのスローインはシュート率が低くだけでなく、奪われると大きなピンチになりやすいため、無理をしてつながらないケースもある。そのため、ロスト率の高いチームは5秒以内にスローインの3分の1以上が相手ボールに変わっている。

● シーズン別のロングスローからのシュート率とゴール率

シーズン	ロングスロー	シュート率	ゴール率
2016	190	31.6%	3.7%
2017	202	29.7%	2.0%
2018	65	35.4%	4.6%
2019	109	34.9%	3.7%
2020	52	32.7%	0.0%
2021	153	31.4%	2.0%
2022	59	30.5%	1.7%

▶ ロングスローからのシュート率は約30%で、CK並み(2022シーズンのCKからのシュート率は27.5%)にシュートにつながるプレーである。しかし、2022シーズンのロングスロー回数は59回のみで、2021シーズンの約3分の1程度にとどまっており、シーズンによって大きな差がある。2022シーズンにロングスローを10回以上行ったのは、サガン鳥栖の17回、清水エスパルスの14回、湘南ベルマーレの12回と3チームのみとなった。

● チーム別のセットプレーリスタート時間(秒)

チーム	CK	順位	FK	順位	スローイン	順位	ゴールキック	順位
札幌	43.3	15	35.9	7	12.3	2	25.8	4
鹿島	39.9	10	36.8	10	13.2	5	29.2	12
浦和	40.6	11	36.4	9	13.3	6	26.3	7
柏	36.4	6	37.9	13	13.3	7	26.6	8
FC東京	36.6	7	34.5	2	14.4	13	25.9	5
川崎F	32.7	3	35.6	6	12.1	1	32.8	15
横浜FM	32.3	2	29.2	1	12.8	4	17.6	1
湘南	41.8	13	40.4	16	15.0	14	30.8	14
清水	42.0	14	39.2	15	14.2	12	25.8	3
磐田	38.4	9	35.6	5	13.8	11	29.8	13
名古屋	32.2	1	36.4	8	13.4	10	27.6	9
京都	46.4	18	43.4	17	17.8	18	36.6	18
G大阪	40.6	12	39.2	14	13.3	8	32.8	16
C大阪	44.0	16	37.3	12	15.2	15	25.9	6
神戸	35.1	5	37.3	11	13.4	9	28.0	11
広島	36.9	8	35.1	3	12.6	3	27.9	10
福岡	45.6	17	49.0	18	16.0	17	36.0	17
鳥栖	34.0	4	35.4	4	15.6	16	20.7	2

▶ セットプレーを獲得してからリスタートまでの時間をチーム別に比較すると、横浜F・マリノスは全体的に早いことがわかる。川崎フロンターレはゴールキック、サガン鳥栖はスローインに比較的時間をかけているが、それ以外は早い傾向が見られる。全体的に時間をかけてリスタートしているのは京都サンガF.C.とアビスパ福岡で、清水エスパルスとセレッソ大阪もゴールキック以外は時間をかけている。

FITNESS フィットネス

● チーム別の1試合平均走行距離

チーム	走行距離 (km)
鳥栖	120.5
横浜FM	117.9
湘南	115.5
C大阪	114.5
清水	114.3
名古屋	113.6
柏	113.5
鹿島	113.4
G大阪	112.9
京都	112.8
磐田	112.8
神戸	112.7
広島	110.9
札幌	110.9
浦和	110.6
FC東京	110.5
川崎F	108.0
福岡	107.6

● チーム別の1試合平均スプリント回数

チーム	スプリント回数
鳥栖	207.6
京都	190.0
名古屋	187.9
湘南	186.7
横浜FM	186.1
鹿島	184.5
FC東京	182.8
広島	182.1
C大阪	181.0
柏	179.2
浦和	178.3
福岡	173.4
清水	169.4
札幌	168.7
神戸	162.9
川崎F	160.1
G大阪	156.7
磐田	151.2

● 選手別の総走行距離

チーム	選手	走行距離 (km)
名古屋	稲垣 祥	398.6
神戸	酒井 高德	369.9
神戸	山口 蛍	368.6
C大阪	奥埜 博亮	363.4
福岡	前 寛之	358.1

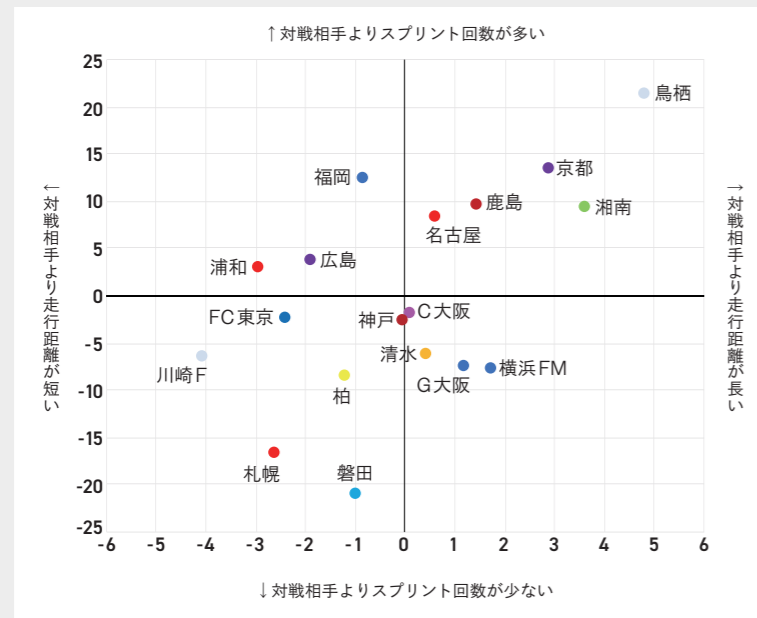
● 選手別の総スプリント回数

チーム	選手	スプリント回数
京都	白井 康介	897
鳥栖	岩崎 悠人	884
広島	藤井 智也	847
柏	細谷 真大	815
名古屋	森下 龍矢	773

▶ チームとしては、サガン鳥栖が1試合平均のチーム走行距離およびスプリント回数の両方で最高値を記録した。1試合平均で「走行距離120km以上かつスプリント回数200回以上」を達成したのは、昨シーズンの横浜F・マリノスに続いて2例目(トラッキングデータの取得を開始した2015年以降)となった。

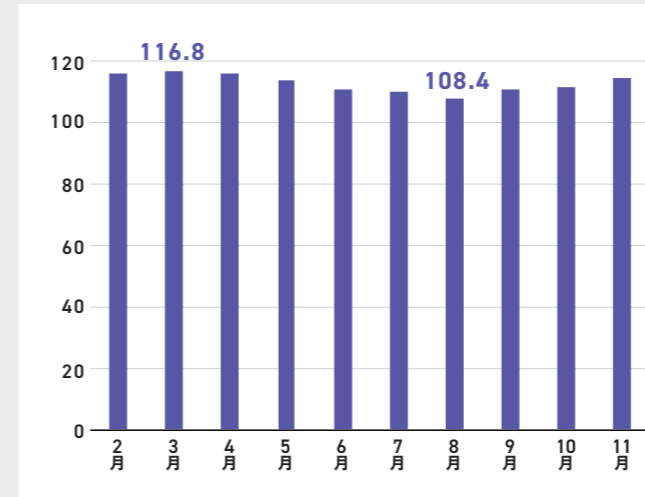
選手別の総走行距離では、名古屋グランパスの稲垣 祥が398.6kmで1位、ヴィッセル神戸の酒井 高德が369.9kmで2位となり、昨シーズンと全く同じ順位となった。総スプリント回数では、京都サンガF.C.の白井 康介が897回で1位。こちらは上位5人が全て昨シーズンと入れ替わる結果となっている。

● 1試合あたりの相手との走行距離とスプリント回数の差

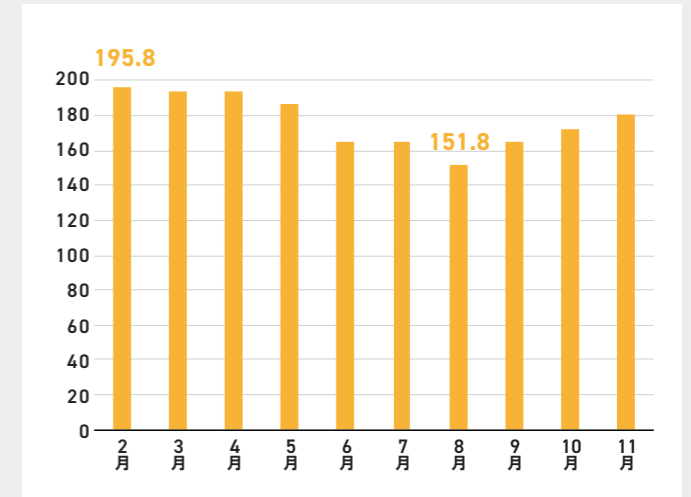


▶ また、1試合あたりの数値を相手と比較したデータでもサガン鳥栖が際立っており、走行距離で4.8km、スプリント回数で21.5回、相手を上回っている。一方で相手よりも少なかったチームを見ると、走行距離では川崎フロンターレがマイナス4.1km、スプリント回数ではジュビロ磐田がマイナス21.0回となった。アビスパ福岡は1試合平均の走行距離が最も少なく、1試合平均のスプリント回数も平均以下だが、対戦相手との差分を見ると走行距離はマイナス0.8km、スプリント回数はプラス12.5回となっており、走り合わない試合展開に持ち込み、スプリントでは相手を上回っていたことがわかる。

● 月別の1試合平均走行距離

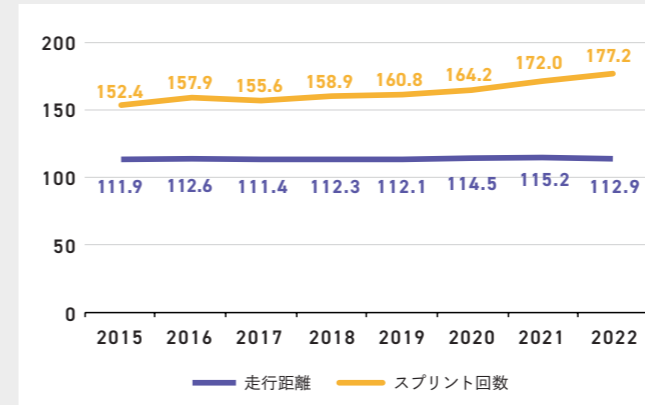


● 月別の1試合平均スプリント回数

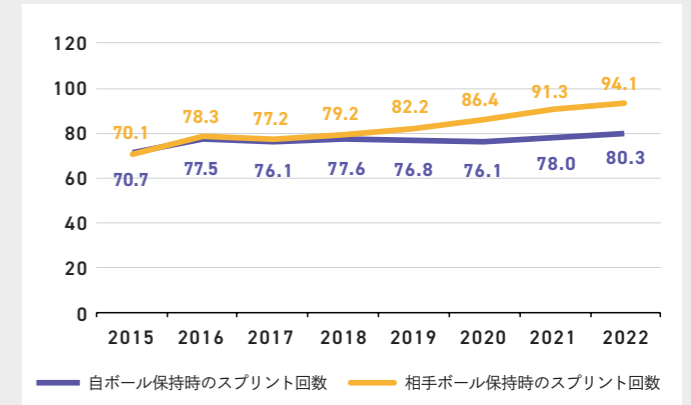


▶ 1試合平均の走行距離とスプリント回数を月別に見ると、どちらも5月あたりから減少し始めて、8月は108.4km、151.8回と最も少なくなり、そこからシーズン終りまで増加傾向にあることがわかる。また、最も多い3月と最も少ない8月の差は8.4kmだった。2022シーズンで1試合平均のスプリント回数が最も多かったのは2月の195.8回で、これは2021シーズンの同月を15回ほど上回るとともに、2015シーズン以降で最も高い数値となった。また、最も多い2月と最も少ない8月の差は44回だった。

● シーズン別の1試合平均走行距離とスプリント回数



● シーズン別のボール保持状況における1試合平均スプリント回数



● 鹿島の相手ボール保持時のスプリントシーン



▶ シーズン別の変化に目を向けると、1試合平均の走行距離は増減を繰り返しているが、スプリント回数は増加の一途をたどっている。特に相手がボールを保持している際のスプリント回数が大きく伸びており、2015シーズンではボールを保持している際とほぼ同じだったが、2022シーズンでは大きく上回っている。

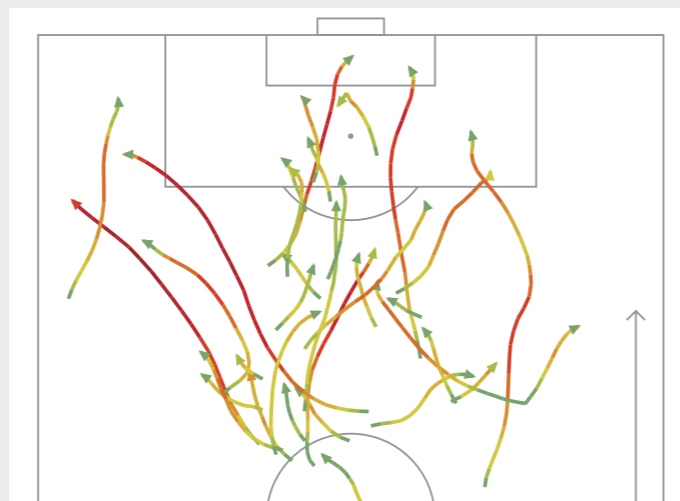


▶ トラッキングデータからは試合中の走行距離やスプリント回数を集計するだけでなく、全選手の位置情報から戦術的な動きやより細かい動きを知ることができる。ここでは裏抜け回数を取り上げる。裏抜けとは、攻撃側の選手が相手最終ラインの裏のスペースへ走る動きのことを指す。チーム別の裏抜け回数では、横浜F・マリノスが最多の2052回を記録。2番目に多い北海道コンサドーレ札幌に100回以上の差をつけており、チームとして積極的に相手の裏を狙っていたことがわかる。

選手別の裏抜け回数を見ると、ヴィッセル神戸の武藤 嘉紀がトップとなっている。26試合の出場で383回、1試合平均約15回の裏抜けを行っていた。

武藤 嘉紀が1試合で34回の裏抜けを記録した第17節の柏レイソル戦における裏抜けの軌跡を見ると、ゴールに向かって直線的に走るだけでなく、斜めに走ってボールを引き出していることが見て取れる。

● 武藤 嘉紀の裏抜けの軌跡(第17節)



● 武藤 嘉紀の裏抜けシーン



● チーム別の裏抜け回数

チーム	裏抜け
横浜FM	2052
札幌	1942
C大阪	1936
鳥栖	1889
鹿島	1745
名古屋	1733
神戸	1715
川崎F	1697
FC東京	1612
浦和	1611
広島	1550
磐田	1514
湘南	1491
清水	1483
柏	1472
京都	1405
G大阪	1358
福岡	1041

● 選手別の裏抜け回数

チーム	選手	出場試合数	裏抜け
神戸	武藤 嘉紀	26	383
名古屋	マテウス カストロ	30	374
柏	細谷 真大	33	357
鳥栖	岩崎 悠人	32	343
横浜FM	仲川 輝人	31	309



● チーム別の加速回数

チーム	急加速回数	順位	加速回数	順位
鳥栖	7669	1	50211	1
湘南	7083	2	47307	3
横浜FM	6727	3	48964	2
FC東京	6572	4	45441	7
広島	6570	5	45751	5
京都	6562	6	46087	4
名古屋	6492	7	44897	8
福岡	6316	8	42745	15
川崎F	6217	9	42285	17
浦和	6117	10	43500	13
清水	6087	11	45730	6
札幌	5999	12	44337	10
柏	5883	13	43251	14
鹿島	5839	14	44021	11
神戸	5712	15	43558	12
G大阪	5644	16	42657	16
C大阪	5629	17	44541	9
磐田	4976	18	42113	18

● 守備から攻撃への切り替わり後3秒間の加速回数のトップ3チーム

チーム	加速回数
広島	6009
鹿島	5996
名古屋	5859

● 攻撃から守備への切り替わり後3秒間の加速回数のトップ3チーム

チーム	加速回数
横浜FM	6594
札幌	6445
広島	6395

● 選手別の自ボール保持時の加速回数

チーム	選手	ポジション	加速回数
名古屋	マテウス カストロ	FW	2223
鳥栖	ジェゴ	DF	2163
鹿島	鈴木 優磨	FW	2146
鳥栖	福田 晃斗	MF	2144
広島	森島 司	MF	2121
鳥栖	朴 一圭	GK	2068
鳥栖	岩崎 悠人	FW	2042
横浜FM	岩田 智輝	MF	2030
名古屋	稲垣 祥	MF	2012
神戸	山口 蛍	MF	1974

● 選手別の相手ボール保持時の加速回数

チーム	選手	ポジション	加速回数
京都	麻田 将吾	DF	2770
名古屋	稲垣 祥	MF	2740
G大阪	三浦 弦太	DF	2596
清水	鈴木 義宜	DF	2576
福岡	志知 孝明	DF	2535
神戸	山口 蛍	MF	2508
名古屋	中谷 進之介	DF	2468
広島	佐々木 翔	DF	2407
柏	三丸 拓	DF	2402
福岡	前 寛之	MF	2377

▶ 自ボール保持時と相手ボール保持時の加速回数のランキングを見ると、自ボール保持時は攻撃の選手が多く、相手ボール保持時は守備の選手が多い傾向が見られる。名古屋グランパスの稲垣 祥とヴィッセル神戸の山口 蛍は両方でトップ10に入っており、攻守にわたるハードワークがここにも表れているといえる。

また、サガン鳥栖の朴 一圭が自ボール保持時の加速回数で2068回を記録し、ゴールキーパーにもかかわらず6位となっている点は特筆すべきである。頻繁な加速でポジショニングを行い、ボール保持時のプレーに関与していることがわかる。



TOPICS 年齢

● 1試合以上出場した選手の平均年齢

	J1	J2	J3	全体
1993	26.2			26.2
1994	25.7			25.7
1995	25.5			25.5
1996	25.7			25.7
1997	25.5			25.5
1998	25.5			25.5
1999	25.1	24.9		25.0
2000	25.5	24.8		25.2
2001	25.7	25.1		25.5
2002	25.8	25.3		25.5
2003	25.7	25.5		25.6
2004	25.7	25.2		25.5
2005	25.9	25.0		25.6
2006	26.1	25.3		25.8
2007	26.1	25.4		25.8
2008	26.2	25.6		25.9
2009	25.9	25.8		25.8
2010	26.1	25.8		26.0
2011	26.5	25.9		26.2
2012	26.5	26.4		26.4
2013	26.8	26.2		26.5
2014	27.1	26.5	25.8	26.5
2015	27.3	26.9	25.8	26.8
2016	27.2	27.3	26.3	27.1
2017	27.6	27.1	26.4	27.1
2018	27.3	27.3	26.7	27.2
2019	27.3	27.1	26.4	27.0
2020	27.0	26.9	26.5	26.8
2021	27.3	26.9	26.2	26.8
2022	27.3	26.5	26.3	26.7
全期間	26.4	26.2	26.3	26.3

● 1試合以上出場した選手のうち、21歳以下の選手が占める割合

シーズン	J1	J2	J3
2018	12.2%	9.0%	20.0%
2019	11.2%	10.8%	23.6%
2020	14.4%	13.4%	18.1%
2021	11.3%	12.8%	12.3%
2022	11.5%	14.4%	11.1%

▶ 1試合以上出場した選手の平均年齢をシーズン別に見ると、Jリーグが開幕してから徐々に上がってきたことがわかる。一方で、全体平均では2018シーズンの27.2歳をピークに、やや年齢が下がっている傾向が見られる。また、多くのシーズンで平均年齢の高い順にJ1、J2、J3となっている。

直近の5シーズンで試合に出場した選手のうち21歳以下の選手が占める割合は、J1では2020シーズンに増加し、2021シーズンからは以前の水準に戻っている。J2では21歳以下の選手が占める割合が増加傾向にあり、2021シーズンからはトップとなっている。J3では2019シーズンまでは20%以上だったが、その後に急減して2022シーズンは最も低くなっていることがわかる。

また、J1における年齢別の出場試合数をシーズン別に見ると、2020シーズンに19歳の出場試合数が321と急増している。同じく2020シーズンには23歳の出場試合数も880と急増しており、その世代の選手は翌2021シーズンには1348とさらに数字を伸ばしている点が目を引く。

● J1における年齢別の合計試合出場数

シーズン	~18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40~
2018	44	147	174	215	343	563	539	740	609	681	721	759	692	705	497	349	301	70	117	58	97	33	38
2019	42	77	147	277	285	470	688	666	751	613	811	789	760	553	606	348	251	149	25	91	39	62	6
2020	108	321	267	273	394	880	557	718	719	675	675	858	674	557	508	435	307	200	126	8	63	6	52
2021	44	187	320	297	379	804	1348	1000	893	751	969	882	792	839	673	475	396	316	158	109	0	71	38
2022	29	125	184	304	341	494	642	963	821	771	618	861	863	501	481	517	261	222	180	85	162	0	37



● チーム別の登録選手数データ

リーグ	チーム	登録選手数	HG選手数	21歳以下選手数	平均年齢
J1	北海道コンサドーレ札幌	34	10	5	26.6
J1	鹿島アントラーズ	33	8	10	24.5
J1	浦和レッズ	33	5	8	25.5
J1	柏レイソル	37	14	10	25.2
J1	FC東京	39	9	14	25.2
J1	川崎フロンターレ	32	7	6	26.9
J1	横浜F・マリノス	34	6	8	25.3
J1	湘南ベルマーレ	35	6	9	26.3
J1	清水エスパルス	38	9	6	25.9
J1	ジュビロ磐田	31	10	4	28.2
J1	名古屋グランパス	37	6	13	25.7
J1	京都サンガF.C.	40	7	9	25.3
J1	ガンバ大阪	36	8	8	25.9
J1	セレッソ大阪	32	7	6	26.3
J1	ヴィッセル神戸	40	8	10	26.0
J1	サンフレッチェ広島	34	13	8	26.3
J1	アビスパ福岡	33	8	3	27.5
J1	サガン鳥栖	34	3	11	25.4
J2	いわてグルージャ盛岡	38	0	5	25.3
J2	ベガルタ仙台	34	2	4	27.0
J2	ブラウブリッツ秋田	34	2	2	27.7
J2	モンテディオ山形	34	3	6	25.4
J2	水戸ホーリーホック	38	0	14	23.8
J2	栃木SC	31	4	7	25.3
J2	ザスパクサツ群馬	34	0	3	26.8
J2	大宮アルディージャ	42	9	15	24.4
J2	ジェフユナイテッド千葉	35	5	12	25.1
J2	東京ヴェルディ	34	10	9	24.8
J2	FC町田ゼルビア	31	1	8	26.4
J2	横浜FC	40	3	14	25.2
J2	ヴァンフォーレ甲府	33	3	3	25.9
J2	アルビレックス新潟	29	6	5	26.3
J2	ツエーゲン金沢	29	2	6	25.4
J2	ファジアーノ岡山	37	1	9	25.9
J2	レノファ山口FC	38	1	10	25.8
J2	徳島ヴォルティス	35	4	8	25.5
J2	V・ファーレン長崎	34	2	9	26.6
J2	ロアッソ熊本	30	3	5	24.7
J2	大分トリニータ	42	6	8	26.4
J2	FC琉球	37	1	5	27.2
J3	ヴァンラーレ八戸	31	1	0	27.2
J3	福島ユナイテッドFC	28	0	8	24.4
J3	いわきFC	30	1	1	24.2
J3	Y.S.C.C.横浜	37	3	3	26.4
J3	SC相模原	33	0	6	27.2
J3	松本山雅FC	35	5	8	25.9
J3	AC長野パルセイロ	30	2	1	26.0
J3	カターレ富山	34	1	3	26.8
J3	藤枝MYFC	33	0	3	26.2
J3	アスルクラロ沼津	28	2	9	25.2
J3	FC岐阜	32	1	1	29.4
J3	ガイナレ鳥取	29	2	4	24.9
J3	カマタマーレ讃岐	33	3	6	24.6
J3	愛媛FC	33	5	7	26.4
J3	FC今治	35	1	8	25.6
J3	ギラヴァンツ北九州	30	2	3	24.9
J3	テゲバジャーロ宮崎	30	0	2	26.9
J3	鹿児島ユナイテッドFC	31	1	3	26.7

▶ 2022シーズンでホームグロウン(HG)選手が最も多かったのは柏レイソルの14人。J2では東京ヴェルディの10人、J3では松本山雅FCと愛媛FCの5人が最も多かった。

2022シーズンで21歳以下の選手数が最も多かったのは大宮アルディージャの15人。J1ではFC東京の14人、J3ではアスルクラロ沼津の9人が最も多かった。

2022シーズンで平均年齢が最も若かったのは水戸ホーリーホックの23.8歳で、唯一の23歳台。J1では鹿島アントラーズの24.5歳、J3ではいわきFCの24.2歳が最も低かった。





56131人

今シーズンの最多入場者数。国立競技場で行われたJ1第19節の清水エスパルスvs横浜F・マリノスで記録。

53分22秒

J1の1試合平均アクチュアルプレーイングタイム。直近5シーズンのJ1で最短。

38.5%

ボール支配率が30%未満だったチームの勝率。Jリーグ全体で13試合あり、5勝5分3敗。

1702人

試合に出場した選手数。Jリーグのシーズン最多記録を更新。

849人

得点を決めた選手数。Jリーグのシーズン最多記録を更新。

4.55人

J2の平均交代人数。最多は横浜FCの4.98人、最少はアルビレックス新潟の4.00人。

38得点

今シーズンの1節あたり最多合計得点。J2第31節の11試合で記録。

17秒

今シーズンのJリーグで試合開始から最も早い時間で決まったゴールの秒数。ロアッソ熊本の田辺 圭佑が第16節の大分トリニータ戦で記録。

15試合

今シーズンのJリーグ最多連続得点試合。カタレ富山が第1節から記録。

34本

ベガルタ仙台が攻撃開始からゴールまでの間につないだパスの本数。今シーズンのJリーグで最多。第17節の大宮アルディージャ戦で記録。

25本

鹿島アントラーズが第1節のガンバ大阪戦で記録したラストパスの本数。1試合では直近5シーズンのJ1で最多。

86.5%

アルビレックス新潟のオープンプレーでのパス成功率。直近5シーズンのJリーグで最も高い。

1002回

J1でのオフサイド数。直近5シーズンのJ1で最少。

24回

ガンバ大阪の東口 順昭が失点せずに連続でシュートセーブした回数。第31節から第34節にかけて記録。

16049回

J2での空中戦の回数。2011シーズン以降で最少。

36.3%

J1で試合開始時に4バックだったチームの勝率。直近5シーズンのJ1で最低。

280回

J1での1試合最多スプリント回数。サガン鳥栖が第7節の北海道コンサドーレ札幌戦で記録。

34得点

いわきFCの前半と後半の得点数の差。前半は19得点、後半は53得点。J3最多記録を更新。

チームスタッツ

TEAM STATS





HOKKAIDO CONSADOLE SAPPORO

北海道コンサドーレ札幌

成績

順位	10位	勝点	45
総合	11勝12分11敗	45得点	55失点
ホーム	7勝6分4敗	25得点	24失点
アウェイ	4勝6分7敗	20得点	31失点

監督

ペトロヴィッチ 2018/1/10 ~

出場選手

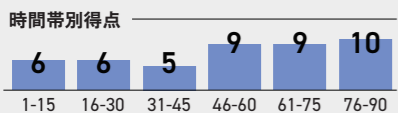
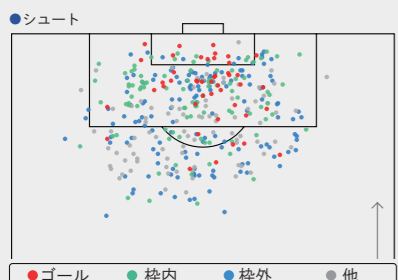
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	菅野 孝憲	27	2354	0
22	大谷 幸輝	4	267	0
34	中野 小次郎	6	434	0
2	田中 駿汰	32	2847	1
3	柳 貴博	3	59	0
5	福森 晃斗	29	1715	1
20	西 大伍	13	345	0
24	中村 桐耶	12	358	0
50	岡村 大八	26	1998	1
6	高嶺 朋樹	26	2244	2
7	ルーカス フェルナンデス	28	2261	3
8	深井 一希	23	1164	2
9	金子 拓郎	27	2165	1
10	宮澤 裕樹	25	1744	3
11	青木 亮太	31	1968	8
14	駒井 善成	31	2555	3
27	荒野 拓馬	29	1785	1
30	田中 宏武	1	25	0
44	小野 伸二	1	2	0
49	スパチョーク	7	93	0
4	菅 大輝	31	2459	4
18	ガブリエル シャビエル	26	1332	3
19	小柏 剛	13	880	2
23	興梠 慎三	21	1348	5
32	ミラントウチッチ	14	392	0
33	ドウグラス オリヴェイラ	7	175	1
37	キム ゴンヒ	8	247	2
45	中島 大嘉	15	262	2

平均年齢 | 27.9 カード | 48 | 4

キースタッツ

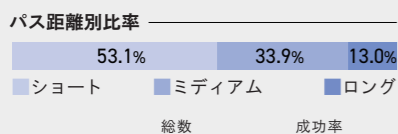
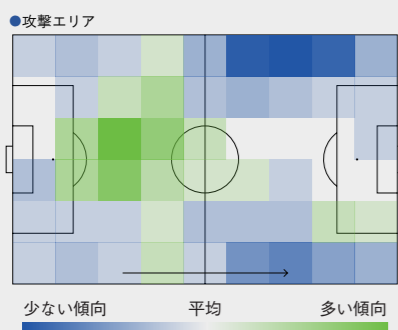
478	ペナルティーエリア進入数2位
26	ペナルティーエリア内右からのクロス成功数1位
7.2	ゲインから得点までの平均パス数最多
87	インターセプト数2位
36	後半の失点数最多
89	DTでのファウル数最多
93.4%	スローイン成功率1位

ゴール



得点	45	8位
シュート	372	3位
シュート枠内率	38.2%	11位

攻撃プレー



クロス	482	15位	26.2%	3位
スルーパス	357	14位	51.0%	3位
ドリブル	450	2位	48.9%	6位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 青木 亮太 8(52)	1 金子 拓郎 5	1 ルーカスフェルナンデス 46
2 興梠 慎三 5(19)	2 福森 晃斗 4	2 ガブリエルシャビエル 31
3 菅 大輝 4(44)	2 ルーカスフェルナンデス 4	3 金子 拓郎 28
ドリブル	パス成功	タックル
1 金子 拓郎 126	1 田中 駿汰 1364	1 ルーカスフェルナンデス 73
2 ルーカスフェルナンデス 108	2 岡村 大八 1257	2 田中 駿汰 72
3 菅 大輝 39	3 高嶺 朋樹 1243	3 岡村 大八 69

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



KASHIMA ANTLERS

鹿島アントラーズ

成績

順位	4位	勝点	52
総合	13勝3分8敗	47得点	42失点
ホーム	7勝6分4敗	25得点	22失点
アウェイ	6勝7分4敗	22得点	20失点

監督

レネ ヴァイラー 2021/12/10 ~ 2022/8/8
岩政 大樹 2022/8/8 ~

出場選手

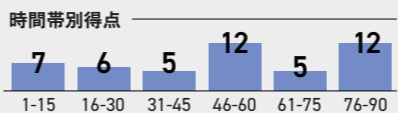
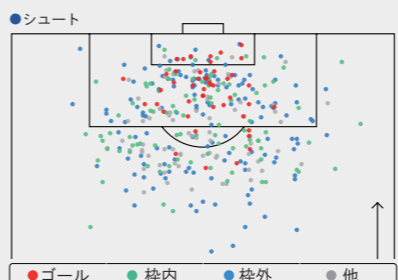
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	クオン スンテ	27	2430	0
29	早川 友基	5	450	0
31	沖 悠哉	2	180	0
2	安西 幸輝	33	2490	0
5	関川 郁万	32	2383	0
15	ブエノ	7	304	0
16	小田 逸稀	2	71	0
20	キム ミンテ	21	1278	1
22	広瀬 陸斗	20	1294	0
23	林 尚輝	1	9	0
32	常本 佳吾	28	2170	0
6	三竿 健斗	33	2823	2
7	ファンアラノ	12	463	1
8	土居 聖真	23	863	1
10	荒木 遼太郎	13	530	1
11	和泉 竜司	30	2060	1
14	樋口 雄太	32	2412	2
17	アルトゥール カイキ	29	2059	9
21	ディエゴ ビトゥカ	28	2110	1
27	松村 優太	12	499	1
30	名古 新太郎	5	191	0
33	仲間 隼斗	19	878	2
34	船橋 佑	13	386	0
35	中村 亮太郎	12	350	0
9	エヴェラウド	19	542	5
18	上田 綺世	18	1464	10
19	染野 唯月	12	99	1
19	エレケ	4	141	1
40	鈴木 優磨	32	2701	7

平均年齢 | 26.0 カード | 48 | 2

キースタッツ

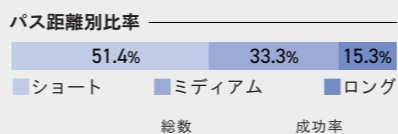
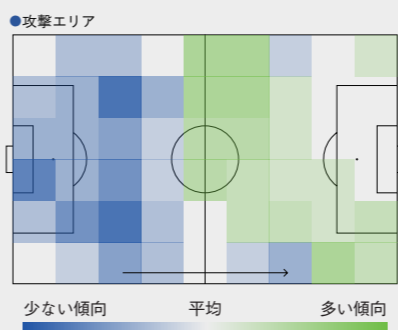
21.2%	途中出場選手のシュート決定率1位
732	空中戦勝利かつその後のボール保持数1位
473	前方へのロングパス成功数1位
119	ATでの被タックル時のボール保持数1位
685	タックル数1位
1173	こぼれ球奪取数1位
312	MTでのスローイン成功数1位

ゴール



得点	47 (O.G. 1)	5位
シュート	347	7位
シュート枠内率	40.1%	8位

攻撃プレー



クロス	569	4位	23.0%	6位
スルーパス	417	11位	44.8%	14位
ドリブル	383	7位	48.6%	7位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 上田 綺世 10(44)	1 鈴木 優磨 9	1 鈴木 優磨 40
2 アルトゥールカイキ 9(56)	2 樋口 雄太 8	2 樋口 雄太 38
3 鈴木 優磨 7(44)	3 和泉 竜司 4	3 ディエゴビトゥカ 25
ドリブル	パス成功	タックル
1 安西 幸輝 94	1 三竿 健斗 1246	1 三竿 健斗 90
2 鈴木 優磨 65	2 ディエゴビトゥカ 982	2 常本 佳吾 75
3 アルトゥールカイキ 25	3 樋口 雄太 955	3 樋口 雄太 71

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



URAWA REDS

浦和レッズ

成績

順位	9位	勝点	45
総合	10勝15分9敗	48得点	39失点
ホーム	7勝8分2敗	32得点	17失点
アウェイ	3勝7分7敗	16得点	22失点

監督

リカルド ロドリゲス 2020/12/22 ~

出場選手

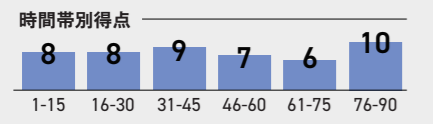
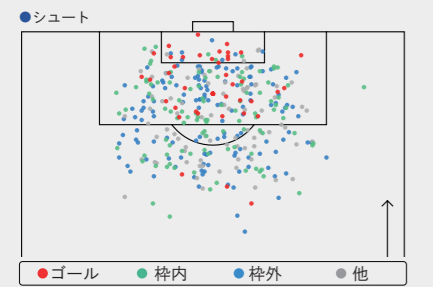
順位	名前	出場	出場時間	得点
1	西川 周作	32	2880	0
12	鈴木 彩艶	2	180	0
2	酒井 宏樹	20	1534	0
4	岩波 拓也	31	2666	3
6	馬渡 和彰	19	982	1
13	犬飼 智也	6	290	1
20	知念 哲矢	9	384	1
24	宮本 優太	15	956	0
28	アレクサンダー・ショルツ	32	2775	6
44	大畑 歩夢	22	1422	0
3	伊藤 敦樹	28	2112	4
8	小泉 佳穂	27	1662	3
10	ダヴィド モーベルグ	20	1050	8
11	松尾 佑介	25	1342	4
14	関根 貴大	30	1609	1
15	明本 考浩	31	2099	0
19	岩尾 憲	29	2396	1
21	大久保 智明	23	1333	1
22	柴戸 海	24	1166	2
25	安居 海渡	6	127	0
27	松崎 快	11	369	1
33	江坂 任	30	1939	2
40	平野 佑一	9	475	0
7	キャスパー ユンカー	21	1100	7
9	ブライアン リンセン	3	159	0
17	アレックス シャルク	12	575	1

平均年齢	27.2	カード	25	3
------	------	-----	----	---

キースタッツ

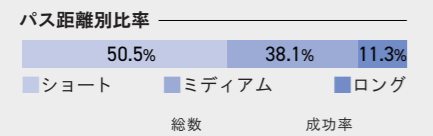
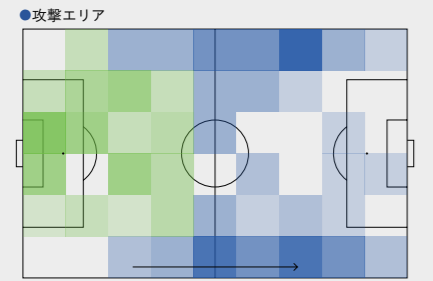
15	引き分け数1位タイ、チーム歴代1位
0	先制された試合での勝利数0
8	1-15分の得点数1位
73	ドリブルからのシュート数1位
346	ボールキャリア成功数1位
67.1%	タックル奪取率2位
9	ペナルティーキック獲得数1位

ゴール



得点	48 (O.G.1)	4位
シュート	370	4位
シュート枠内率	41.1%	7位

攻撃プレー



クロス	498	6位	21.9%	13位
スルーパス	508	2位	47.4%	11位
ドリブル	433	3位	49.4%	5位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 ダヴィド モーベルグ 8(28)	1 岩尾 憲 6	1 江坂 任 39
2 キャスパー ユンカー 7(34)	2 大久保 智明 5	2 岩尾 憲 36
3 アレクサンダー・ショルツ 6(15)	2 明本 考浩 5	3 大久保 智明 20
ドリブル	パス成功	タックル
1 大久保 智明 70	1 アレクサンダー・ショルツ 1726	1 伊藤 敦樹 66
2 ダヴィド モーベルグ 59	2 岩波 拓也 1668	2 柴戸 海 53
3 関根 貴大 57	3 岩尾 憲 1486	3 岩尾 憲 49

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



KASHIWA REYSOL

柏レイソル

成績

順位	7位	勝点	47
総合	13勝8分13敗	43得点	44失点
ホーム	6勝3分8敗	22得点	25失点
アウェイ	7勝5分5敗	21得点	19失点

監督

ネルシーニョ 2018/12/13 ~

出場選手

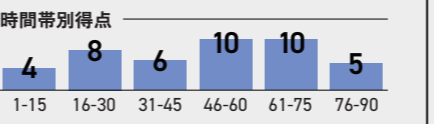
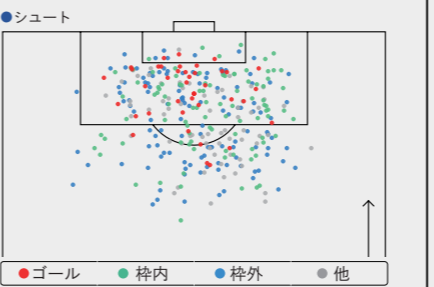
順位	名前	出場	出場時間	得点
18	キム スングユ	13	1170	0
21	佐々木 雅士	20	1800	0
46	松本 健太	1	90	0
2	三丸 拓	31	2737	1
3	高橋 祐治	29	2552	1
4	古賀 太陽	32	2880	0
13	北爪 健吾	8	368	0
15	染谷 悠太	2	157	0
23	岩下 航	3	96	0
24	川口 尚紀	21	1079	0
25	大南 拓磨	26	2143	2
32	田中 隼人	4	360	0
44	上島 拓巳	24	1906	0
6	椎橋 慧也	31	2291	1
7	大谷 秀和	4	61	0
8	中村 慶太	12	642	0
10	マテウス サヴィオ	32	2540	6
14	小屋松 知哉	33	2025	4
22	トッジ	29	1724	1
27	三原 雅俊	4	72	0
28	戸嶋 祥郎	26	1487	2
29	アンジェロ ヲッティ	13	294	0
30	加藤 匠人	11	177	0
34	土屋 巧	3	161	0
36	山田 雄士	9	418	0
9	武藤 雄樹	19	702	7
19	細谷 真大	33	2384	8
35	真家 英嵩	5	154	0
37	鷲木 郁哉	4	89	0
38	升掛 友護	10	115	0
39	森 海渡	15	311	4
49	ドウグラス	10	666	4

平均年齢	26.1	カード	54	1
------	------	-----	----	---

キースタッツ

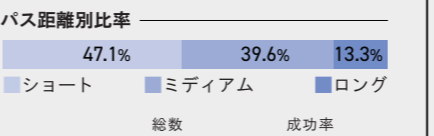
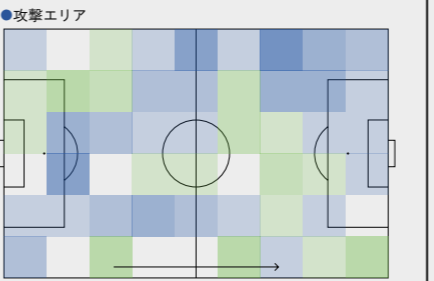
4	先制された試合での勝利数1位
12	途中出場選手の得点数2位
9	スルーパスからの得点数1位
4	クロスからの失点数最少
9	1-15分の失点数最多
20.9	ロストから被シュートまでの平均時間(秒)最長
54	警告数最多

ゴール



得点	43 (O.G.2)	11位
シュート	321	12位
シュート枠内率	42.1%	6位

攻撃プレー



クロス	446	13位	22.0%	11位
スルーパス	497	4位	51.3%	2位
ドリブル	313	13位	44.4%	14位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 細谷 真大 8(41)	1 小屋松 知哉 5	1 マテウス サヴィオ 55
2 武藤 雄樹 7(35)	1 マテウス サヴィオ 5	2 小屋松 知哉 29
3 マテウス サヴィオ 6(51)	3 細谷 真大 4	3 三丸 拓 22
ドリブル	パス成功	タックル
1 マテウス サヴィオ 81	1 古賀 太陽 1661	1 三丸 拓 78
2 細谷 真大 49	2 高橋 祐治 960	2 上島 拓巳 57
3 三丸 拓 40	3 椎橋 慧也 863	3 高橋 祐治 53

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



F.C. TOKYO

FC東京

▶ 成績

順位	6位	勝点	49
総合	14勝7分13敗 46得点 43失点		
ホーム	8勝5分4敗 27得点 15失点		
アウェイ	6勝2分9敗 19得点 28失点		

▶ 監督
アルベル 2021/12/10～

▶ 出場選手

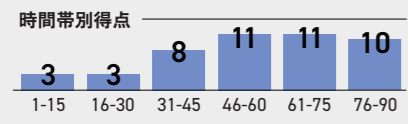
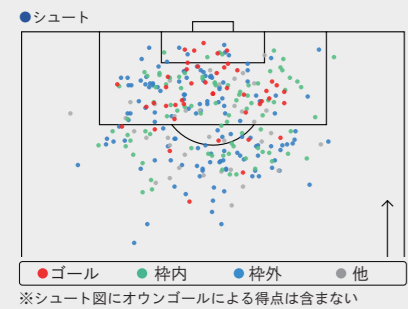
	出場	出場時間	得点
13 波多野 豪	1	90	0
24 ヤクブ スウォビク	33	2970	0
3 森重 真人	28	2513	2
5 長友 佑都	30	2223	0
6 小川 諒也	15	1268	2
28 鈴木 準弥	4	33	0
29 岡崎 慎	5	169	0
30 木本 恭生	33	2954	2
37 中村 帆高	22	983	0
47 木村 誠二	6	141	0
49 バンブーナガンデ 佳史扶	17	1253	1
50 エンリケトレヴィザン	6	415	0
7 三田 啓貴	16	343	0
8 高萩 洋次郎	3	63	0
10 東 慶悟	24	1603	0
15 アダイウトン	31	1680	12
16 青木 拓矢	18	1328	0
17 紺野 和也	30	1119	2
18 品田 愛斗	2	27	0
20 レアンドロ	20	1090	5
23 渡邊 凌磨	30	1948	6
31 安部 柊斗	30	2133	4
35 塚川 孝輝	12	772	2
43 梶浦 勇輝	3	144	0
44 松本 玖生	31	2433	2
45 安田 虎士朗	1	7	0
9 ディエゴオリヴェイラ	30	2178	4
11 永井 謙佑	20	1057	0
19 山下 敬大	15	228	0
22 ルイス フェリッピ	12	451	2

平均年齢 | 27.3 カード | 42 2

▶ キースタッツ

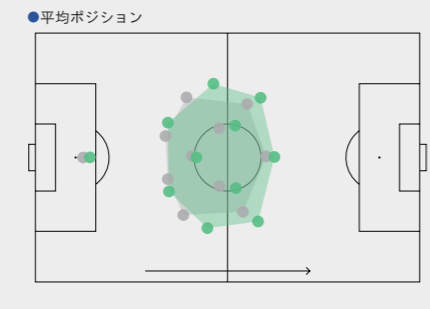
100%	先制した試合での勝率1位
7.1%	ペナルティーエリア外からのシュート決定率1位
14	ポスト・バーに当たったシュート数1位
39.6%	被タックル時のボール保持率1位
14	クリーンシート試合数1位
18.8%	ロスト後5秒未満でのリゲイン率1位
181	DTでのスローイン成功数1位

▶ ゴール



得点	46	6位
シュート	306	13位
シュート枠内率	43.8%	2位

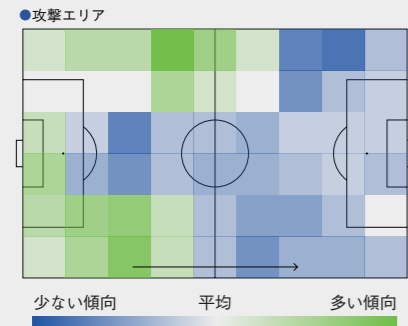
▶ スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 52:11 | 14位

ボール支配率	54.2%	3位
走行距離	110.46km	16位
スプリント	182	7位

▶ 攻撃プレー



パス距離別比率

ショート	53.1%
ミディアム	35.3%
ロング	11.6%

総数 成功率

クロス	417	16位	21.1%	15位
スルーパス	474	5位	45.6%	13位
ドリブル	410	4位	47.3%	10位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 アダイウトン 12(66)	1 ディエゴオリヴェイラ 5	1 松本 玖生 25
2 渡邊 凌磨 6(26)	2 渡邊 凌磨 3	2 渡邊 凌磨 23
3 レアンドロ 5(34)	2 安部 柊斗 3	3 ディエゴオリヴェイラ 16

ドリブル	パス成功	タックル
1 アダイウトン 108	1 木本 恭生 1813	1 安部 柊斗 63
2 紺野 和也 80	2 森重 真人 1554	2 松本 玖生 52
3 レアンドロ 43	3 安部 柊斗 963	3 東 慶悟 49

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



KAWASAKI FRONTALE

川崎フロンターレ

▶ 成績

順位	2位	勝点	66
総合	20勝6分6敗 65得点 42失点		
ホーム	14勝1分2敗 38得点 18失点		
アウェイ	6勝5分6敗 27得点 24失点		

▶ 監督
鬼木 達 2016/11/7～

▶ 出場選手

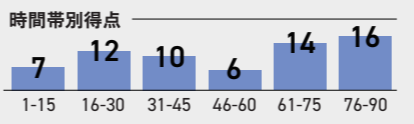
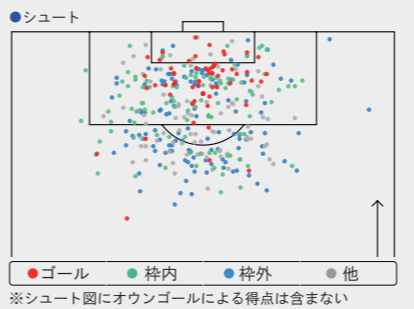
	出場	出場時間	得点
1 チョン ソンリョン	31	2729	0
27 丹野 研太	4	327	0
2 登里 享平	12	714	0
4 ジェジェウ	12	939	1
5 谷口 彰悟	33	2903	3
7 車屋 紳太郎	19	1455	1
13 山根 視来	32	2815	3
15 佐々木 旭	21	1551	1
3 塚川 孝輝	9	190	0
6 ジョアン シミッチ	22	1354	1
8 橋田 健人	32	2742	2
10 大島 僚太	11	559	1
14 脇坂 泰斗	32	2311	5
16 瀬古 樹	13	299	0
17 小塚 和季	12	276	0
18 チャナティップ	16	956	0
31 山村 和也	23	1110	1
41 家長 昭博	34	2737	12
9 レアンドロ ダミアン	23	1353	5
11 小林 悠	30	1295	5
19 遠野 大弥	31	1319	2
20 知念 慶	27	1213	7
23 マルシーニョ	30	1980	12
24 宮城 天	20	458	1

平均年齢 | 29.1 カード | 39 3

▶ キースタッツ

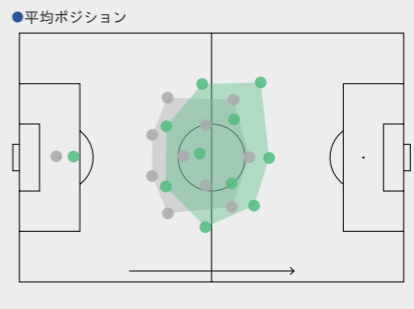
18	先制した試合の勝利数1位
3	無得点の試合数最少
13	コーナーキック3プレー以内のゴール数1位
9860	ショートパス成功数1位
134	相手のドリブル成功数最少
95	インターセプト数1位
24	出場選手数最少

▶ ゴール



得点	65 (O.G. 2)	2位
シュート	367	5位
シュート枠内率	44.7%	1位

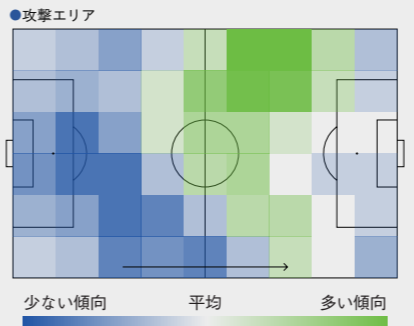
▶ スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 55:10 | 5位

ボール支配率	55.6%	2位
走行距離	108.00km	17位
スプリント	160	16位

▶ 攻撃プレー



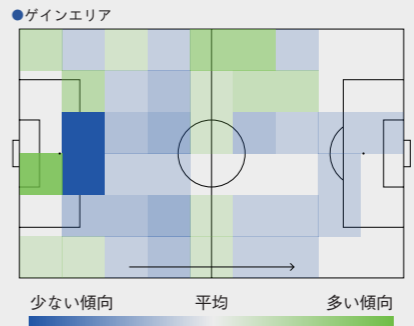
パス距離別比率

ショート	58.0%
ミディアム	32.4%
ロング	9.6%

総数 成功率

クロス	402	17位	29.9%	1位
スルーパス	473	6位	52.6%	1位
ドリブル	313	13位	45.7%	12位

▶ 守備プレー



ゲインエリア比率

DT	51.3%
MT	39.7%
AT	9.0%

総数 成功率

失点	42	10位
セーブ	63	18位
セーブ率	60.0%	18位
タックル奪取	416	6位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 マルシーニョ 12(42)	1 脇坂 泰斗 9	1 脇坂 泰斗 47
1 家長 昭博 12(44)	2 マルシーニョ 6	2 家長 昭博 31
3 知念 慶 7(38)	3 家長 昭博 5	3 山根 視来 24

ドリブル	パス成功	タックル
1 マルシーニョ 70	1 谷口 彰悟 1938	1 橋田 健人 85
2 家長 昭博 54	2 橋田 健人 1742	2 山根 視来 70
3 宮城 天 33	3 家長 昭博 1723	3 佐々木 旭 57

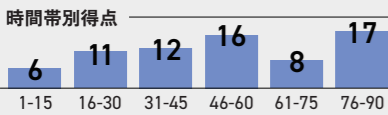
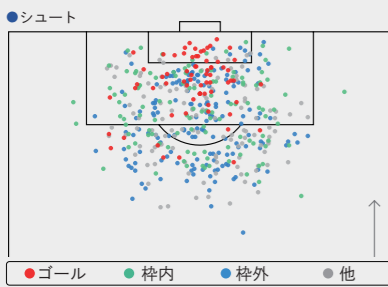
※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



YOKOHAMA F-MARINOS

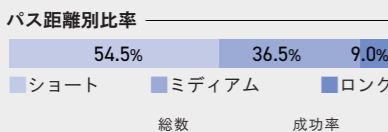
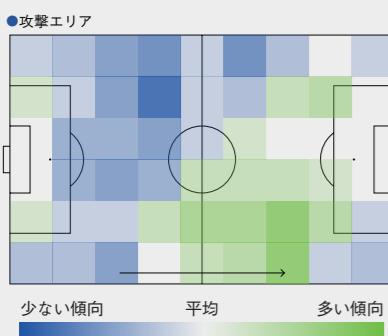
横浜F・マリノス

▶ ゴール



得点	70 (O.G.1)	1位
シュート	466	1位
シュート枠内率	38.8%	9位

▶ 攻撃プレー



クロス	622	1位	22.8%	8位
スルーパス	585	1位	49.6%	6位
ドリブル	363	10位	50.4%	2位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)		アシスト		ラストパス				
1	レオ セアラ	11 (54)	1	水沼 宏太	7	1	水沼 宏太	41
1	アンデルソン ロペス	11 (63)	2	仲川 輝人	6	2	永戸 勝也	34
3	西村 拓真	10 (49)	3	エウベル	5	3	仲川 輝人	28

ドリブル		パス成功		タックル				
1	エウベル	61	1	岩田 智輝	2113	1	岩田 智輝	51
2	仲川 輝人	44	2	小池 龍太	1375	2	喜田 拓也	47
3	アンデルソン ロペス	35	3	エドゥアルド	1284	3	松原 健	44

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▶ 成績

順位	1位	勝点	68
総合	20勝8分6敗	70得点	35失点
ホーム	12勝3分2敗	33得点	10失点
アウェイ	8勝5分4敗	37得点	25失点

▶ 監督

ケヴィン マスカット 2021/7/18 ~

▶ 出場選手

	出場	出場時間	得点	
1	高丘 陽平	34	3060	0
2	永戸 勝也	26	2147	0
4	畠中 横之輔	16	943	0
5	エドゥアルド	23	1919	1
19	實藤 友紀	5	440	1
24	岩田 智輝	32	2715	2
25	小池 龍太	26	2160	3
26	小池 裕太	8	398	1
27	松原 健	21	1562	1
33	角田 涼太郎	18	1164	0
6	渡辺 皓太	24	1499	0
8	喜田 拓也	23	1773	0
14	吉尾 海夏	9	285	1
16	藤田 謙瑠チマ	29	1516	1
18	水沼 宏太	31	1703	7
28	山根 陸	11	463	0
35	榊山 諒乃介	7	61	0
7	エウベル	29	1769	8
9	レオ セアラ	31	1301	11
10	マルコス ジュニオール	23	1021	0
11	アンデルソン ロペス	28	1732	11
17	宮市 亮	15	624	3
20	ヤン マテウス	5	97	1
23	仲川 輝人	31	1472	7
30	西村 拓真	27	1747	10
39	ンダウ ターラ	1	22	0

平均年齢	26.4	カード	34	3
------	------	-----	----	---

▶ キースタッツ

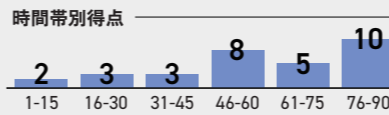
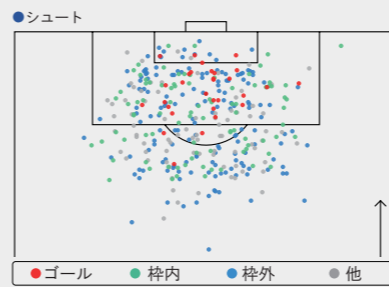
24	複数得点の試合数1位
16	46-60分の得点数1位
32	ボール支配率で相手を上回った試合数1位
29	クロスから3プレー以内の得点数1位
96	オフサイド奪取数1位
107	ATでの被ファウル数1位
0	被ペナルティーキック数0は2020年の鳥栖以来



SHONAN BELLMARE

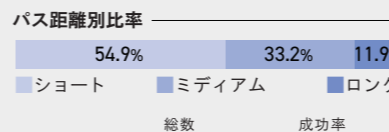
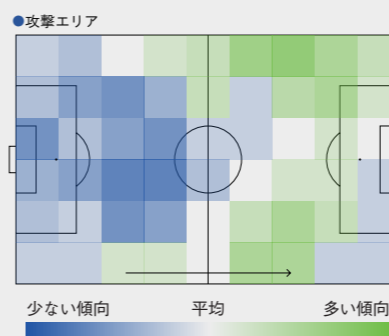
湘南ベルマーレ

▶ ゴール



得点	31 (O.G.1)	15位
シュート	359	6位
シュート枠内率	33.1%	18位

▶ 攻撃プレー



クロス	490	7位	22.9%	7位
スルーパス	438	8位	45.7%	12位
ドリブル	304	16位	42.1%	18位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)		アシスト		ラストパス				
1	町野 修斗	13 (58)	1	杉岡 大暉	4	1	杉岡 大暉	29
2	阿部 浩之	3 (13)	2	タリク	3	2	茨田 陽生	25
2	池田 昌生	3 (18)	2	茨田 陽生	3	2	町野 修斗	25

ドリブル		パス成功		タックル				
1	石原 広教	43	1	杉岡 大暉	985	1	館 幸希	52
2	畑 大雅	41	2	石原 広教	677	2	米本 拓司	51
3	瀬川 祐輔	30	3	山本 脩斗	670	3	杉岡 大暉	50

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▶ 成績

順位	12位	勝点	41
総合	10勝11分13敗	31得点	39失点
ホーム	5勝6分6敗	15得点	22失点
アウェイ	5勝5分7敗	16得点	17失点

▶ 監督

山口 智 2021/9/1 ~

▶ 出場選手

	出場	出場時間	得点	
1	谷 晃生	31	2790	0
21	馬渡 洋樹	1	90	0
23	富居 大樹	2	180	0
2	杉岡 大暉	29	2454	0
3	石原 広教	30	2502	0
4	館 幸希	25	1769	0
6	岡本 拓也	11	802	0
8	大野 和成	19	1301	0
16	山本 脩斗	21	1576	2
20	養田 広大	1	28	0
22	大岩 一貴	18	1519	1
24	福島 隼斗	4	167	0
26	畑 大雅	18	1129	0
32	松村 晟怜	1	4	0
5	古林 将太	6	368	0
7	田中 聡	17	1376	0
10	山田 直輝	21	882	0
14	茨田 陽生	31	1785	0
15	米本 拓司	27	1262	0
27	池田 昌生	22	1112	3
28	平岡 大陽	13	665	0
41	永木 亮太	6	344	0
42	高橋 諒	13	765	0
44	中野 嘉大	13	794	0
49	阿部 浩之	13	481	3
9	ウェリントン	27	851	2
11	タリク	31	1500	1
13	瀬川 祐輔	32	2276	3
17	大橋 祐紀	23	895	2
18	町野 修斗	30	1796	13
25	若月 大和	1	2	0
29	鈴木 章斗	2	82	0

平均年齢	27.2	カード	35	4
------	------	-----	----	---

▶ キースタッツ

36.7%	ATへのパス比率2位
29	左サイドのペナルティーエリア脇からのクロス成功数1位
112	15-30mのフィード成功数1位
62	相手クロスのキャッチ数1位
53.3%	自陣でのこぼれ球奪取率1位
733	ブロック数2位
3	ロングスロー成功数2位



SHIMIZU S-PULSE

清水エスパルス

成績

順位	17位	勝点	33
総合	7勝12分15敗 44得点 54失点		
ホーム	2勝8分7敗 20得点 29失点		
アウェイ	5勝4分8敗 24得点 25失点		

監督

平岡 宏章 2021/11/4 ~ 2022/5/30
 ゼリカルド 2022/6/7 ~

出場選手

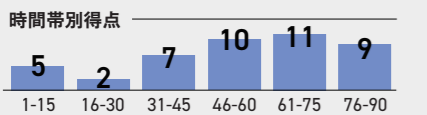
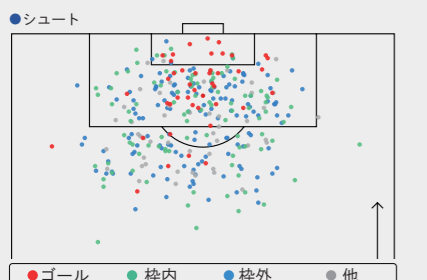
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	大久保 拓生	2	135	0
21	権田 修一	33	2925	0
2	立田 悠悟	26	2120	0
5	ヴァウド	8	607	1
7	片山 瑛一	31	2193	2
29	山原 怜音	33	2616	2
38	井林 章	4	213	0
50	鈴木 義宜	33	2970	1
3	ホノウド	19	943	1
4	原 輝綺	25	1894	0
6	竹内 涼	11	627	0
8	松岡 大起	22	1123	0
11	中山 克広	19	1010	2
13	宮本 航汰	20	1343	0
15	岸本 武流	10	188	0
16	西澤 健太	10	556	2
17	神谷 優太	21	1148	1
18	白崎 凌兵	31	2632	4
23	鈴木 唯人	20	1373	3
26	滝 裕太	9	154	0
27	ヤゴビカチュウ	12	653	0
32	ベンジャミン コロリ	20	571	3
33	乾 貴士	10	624	1
37	高橋 大悟	6	136	1
9	チアゴ サンタナ	27	2133	14
10	カルリーニョス ジュニオ	22	1395	3
14	後藤 優介	15	607	0
19	ディサロ 燦シルヴァーノ	3	50	0
20	オセフン	13	338	1
36	栗原 イbrahim ジュニア	2	8	0
45	北川 航也	10	375	1

平均年齢 | 27.0 カード | 24 0

キースタッツ

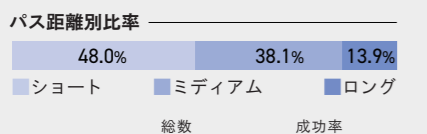
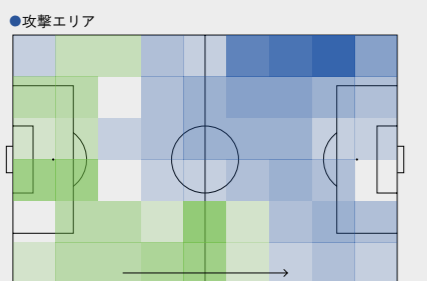
- 14 | チアゴ サンタナが得点王受賞
- 6 | スルーパスからの得点数2位
- 38.5% | 左サイドのペナルティーエリア脇からのクロス成功率1位
- 5.5 | ゲインから得点までに関与した平均プレー人数最多
- 133 | 相手クロスのブロック数1位
- 9 | 後半アディショナルタイムの失点数最多
- 24 | 警告数最少、退場も0

ゴール



得点	44 (O.G.1)	10位
シュート	327	10位
シュート枠内率	42.5%	5位

攻撃プレー



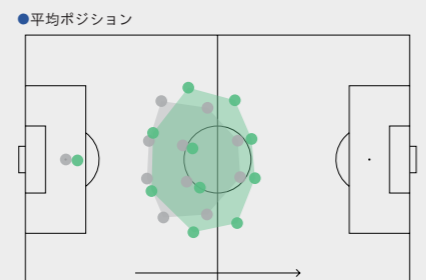
クロス	430	14位	28.1%	2位
スルーパス	355	15位	48.7%	7位
ドリブル	358	11位	49.4%	4位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 チアゴ サンタナ 14 (58)	1 山原 怜音 8	1 山原 怜音 40
2 白崎 凌兵 4 (24)	2 カルリーニョス ジュニオ 6	2 カルリーニョス ジュニオ 24
3 ベンジャミン コロリ 3 (13)	2 チアゴ サンタナ 6	3 鈴木 唯人 18
ドリブル	パス成功	タックル
1 山原 怜音 60	1 鈴木 義宜 1407	1 ホノウド 57
2 チアゴ サンタナ 44	2 立田 悠悟 993	1 白崎 凌兵 57
3 神谷 優太 33	3 山原 怜音 978	3 片山 瑛一 49

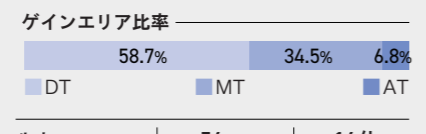
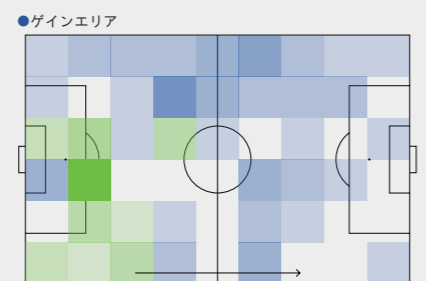
※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

スタイル



アクチュアルプレーイングタイム	54:47	6位
ボール支配率	46.8%	13位
走行距離	114.33km	5位
スプリント	169	13位

守備プレー



失点	54	16位
セーブ	114	4位
セーブ率	67.9%	11位
タックル奪取	323	18位



JUBILO IWATA

ジュビロ磐田

成績

順位	18位	勝点	30
総合	6勝12分16敗 32得点 57失点		
ホーム	4勝7分6敗 21得点 28失点		
アウェイ	2勝5分10敗 11得点 29失点		

監督

伊藤 彰 2021/12/25 ~ 2022/8/14
 渋谷 洋樹 2022/8/18 ~

出場選手

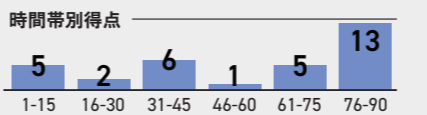
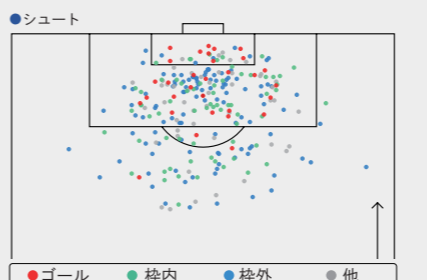
順位	選手名	出場	出場時間	得点
21	三浦 龍輝	28	2452	0
24	梶川 裕嗣	3	270	0
37	アレクセイ コシエレフ	4	338	0
2	山本 義道	24	1687	1
3	大井 健太郎	21	1366	0
4	松原 后	8	220	0
5	小川 大貴	22	1320	0
6	伊藤 慎人	33	2881	1
25	森岡 陸	13	754	0
26	袴田 裕太郎	2	73	0
36	リカルド グラッサ	22	1569	0
7	上原 力也	28	1964	1
8	大森 晃太郎	25	1483	2
10	山田 大記	7	369	0
14	松本 昌也	31	2368	0
17	鈴木 雄斗	30	2700	6
23	山本 康裕	28	1956	0
28	鹿沼 直生	11	616	2
31	古川 陽介	7	139	1
32	黒川 淳史	8	374	0
33	ドウドウ	2	17	0
38	藤原 健介	1	10	0
40	金子 翔太	23	1133	3
50	遠藤 保仁	31	2302	0
9	杉本 健勇	30	1778	1
11	大津 祐樹	26	1142	3
18	ジャーメイン 良	29	1014	3
27	吉長 真優	18	649	1
29	ファビアン ゴンザレス	18	662	6

平均年齢 | 28.1 カード | 47 4

キースタッツ

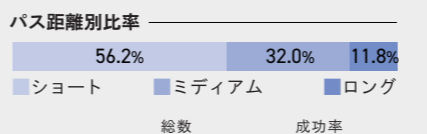
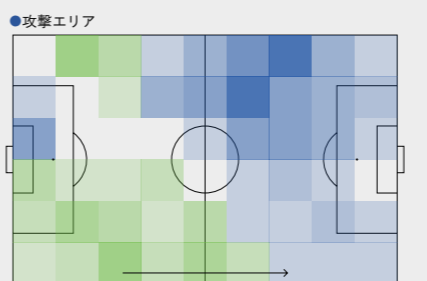
- 56:16 | アクチュアルプレーイングタイム最長
- 10 | 鈴木 雄斗がゴール+アシスト数でチーム内最多を記録
- 56.2% | 距離別パス数のショート比率2位
- 67.7% | タックル奪取率1位
- 57 | 失点数最多
- 37 | 後半戦のインターセプト数3位
- 92.2% | スローイン成功率2位

ゴール



得点	32 (O.G.1)	14位
シュート	258	17位
シュート枠内率	38.0%	12位

攻撃プレー



クロス	483	10位	21.7%	14位
スルーパス	345	16位	48.4%	8位
ドリブル	280	18位	43.6%	16位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 ファビアン ゴンザレス 6 (30)	1 鈴木 雄斗 4	1 遠藤 保仁 37
1 鈴木 雄斗 6 (30)	2 遠藤 保仁 3	2 鈴木 雄斗 28
3 ジャーメイン 良 3 (26)	3 山田 大記 2	3 上原 力也 24
ドリブル	パス成功	タックル
1 鈴木 雄斗 43	1 遠藤 保仁 1364	1 鈴木 雄斗 74
2 松本 昌也 41	2 山本 康裕 1292	2 伊藤 慎人 67
3 ファビアン ゴンザレス 30	3 伊藤 慎人 1245	3 上原 力也 53

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



NAGOYA GRAMPUS

名古屋グランパス

成績

順位	8位	勝点	46
総合	11勝13分10敗	30得点	35失点
ホーム	7勝6分4敗	17得点	17失点
アウェイ	4勝7分6敗	13得点	18失点

監督

長谷川 健太 2021/12/9 ~

出場選手

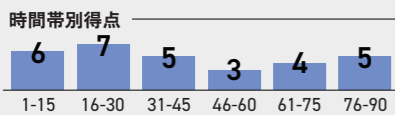
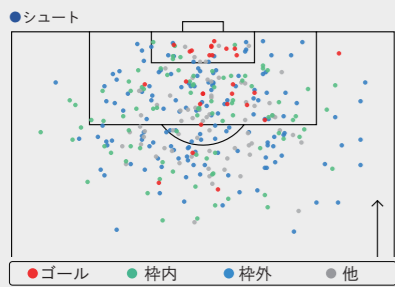
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	ランゲラック	33	2889	0
21	武田 洋平	2	171	0
2	チアゴ	14	663	0
3	丸山 祐市	25	2204	0
4	中谷 進之介	33	2970	2
6	宮原 和也	21	780	0
13	藤井 陽也	31	2636	1
17	森下 龍矢	32	2477	1
23	吉田 豊	15	767	0
24	河面 旺成	1	78	0
5	長澤 和輝	4	86	0
7	阿部 浩之	16	341	1
14	仙頭 啓矢	34	1897	2
15	稲垣 祥	34	2989	2
16	レオ シルバ	33	2374	1
19	重廣 卓也	9	521	1
20	永木 亮太	12	438	0
31	吉田 温紀	1	1	0
33	甲田 英将	7	112	0
34	内田 宅哉	19	711	0
46	石田 凌太郎	8	179	0
8	柿谷 曜一朗	21	897	0
9	酒井 宣福	17	994	2
10	マテウス カストロ	30	2535	8
11	相馬 勇紀	34	2589	2
19	齋藤 学	3	25	0
29	レオナルド	9	227	0
44	金崎 夢生	7	198	0
45	永井 謙佑	13	862	4

平均年齢 | 29.0 カード | 31 | 2

キースタッツ

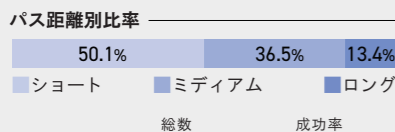
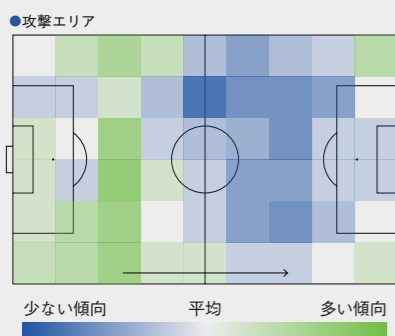
33.3%	DTからのパス比率1位
19	後半の失点数最少
73.9%	MTでのタックル奪取率1位
20	クロスからの被シュート数最少
74	インターセプト数3位タイ
0	ペナルティーキックによる失点0
61	フリーキック5プレー以内のシュート数1位

ゴール



得点	30 (O.G.3)	16位
シュート	337	8位
シュート枠内率	34.7%	17位

攻撃プレー



クロス	473	11位	20.7%	16位
スルーパス	416	12位	42.3%	17位
ドリブル	398	5位	50.3%	3位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 マテウス カストロ 8(79)	1 マテウス カストロ 5	1 マテウス カストロ 48
2 永井 謙佑 4(20)	2 永井 謙佑 4	2 相馬 勇紀 29
3 酒井 宣福 2(20)	3 森下 龍矢 2	3 稲垣 祥 21
ドリブル	パス成功	タックル
1 マテウス カストロ 108	1 中谷 進之介 1382	1 稲垣 祥 105
2 相馬 勇紀 102	2 藤井 陽也 1131	2 レオ シルバ 68
3 森下 龍矢 48	3 稲垣 祥 1024	3 藤井 陽也 61

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



KYOTO SANGA F.C.

京都サンガF.C.

成績

順位	16位	勝点	36
総合	8勝12分14敗	30得点	38失点
ホーム	5勝6分6敗	16得点	17失点
アウェイ	3勝6分8敗	14得点	21失点

監督

青 貴哉 2020/12/9 ~

出場選手

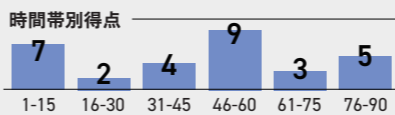
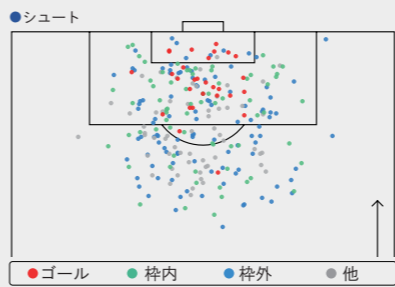
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	若原 智哉	4	316	0
21	上福元 直人	31	2744	0
2	飯田 貴敬	6	368	0
3	麻田 将吾	32	2792	0
4	メンデス	20	959	0
5	アビアタウィア久	17	1351	0
6	本多 勇喜	15	620	0
14	白井 康介	33	2582	0
15	長井一真	10	335	0
17	荻原 拓也	21	1461	2
31	井上 黎生人	28	2008	1
7	武富 孝介	25	1592	3
8	荒木 大吾	15	550	0
10	福岡 慎平	28	1774	0
16	武田 将平	31	2339	1
18	松田 天馬	26	1889	1
19	金子 大毅	22	1135	1
24	川崎 颯太	28	2173	1
25	中野 桂太	2	29	0
27	山田 楓喜	14	600	2
33	三沢 直人	1	70	0
41	アラン カリウス	1	23	0
44	佐藤 響	6	377	0
9	ピーター ウタカ	29	2105	9
11	山崎 凌吾	15	722	1
13	宮吉 拓実	15	577	2
20	マルティノス	3	27	0
23	豊川 雄太	22	1087	2
28	田中 和樹	1	15	0
39	イスマイラ	10	151	0
40	木村 勇大	7	288	0
47	パウリーニョ	6	161	1
50	大前 元紀	13	373	2

平均年齢 | 26.3 カード | 52 | 3

キースタッツ

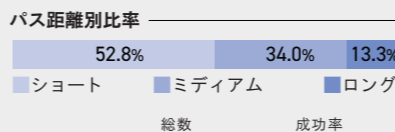
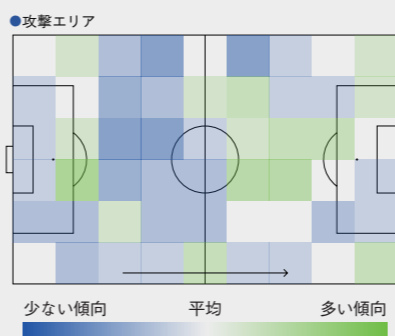
26	1失点以下の試合数最多
92.9%	ペナルティーエリア内のゴール比率2位
114	MTでの被タックル時のボール保持数1位
6	76-90分の失点数最少タイ
71.6%	ペナルティーエリア内からのシュートセーブ率1位
606	空中戦負け数最多
749	ブロック数1位

ゴール



得点	30 (O.G.1)	16位
シュート	261	15位
シュート枠内率	37.9%	13位

攻撃プレー



クロス	448	12位	18.3%	18位
スルーパス	389	13位	41.1%	18位
ドリブル	375	8位	43.2%	17位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 ピーター ウタカ 9(56)	1 武富 孝介 4	1 ピーター ウタカ 22
2 武富 孝介 3(23)	2 川崎 颯太 3	2 川崎 颯太 19
3 大前 元紀 2(6)	3 松田 天馬 2	3 武富 孝介 16
ドリブル	パス成功	タックル
1 白井 康介 86	1 麻田 将吾 907	1 川崎 颯太 93
2 ピーター ウタカ 71	2 武田 将平 847	2 武田 将平 55
3 荻原 拓也 42	3 川崎 颯太 740	3 麻田 将吾 54

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



GAMBA OSAKA

ガンバ大阪

成績

順位	15位	勝点	37
総合	9勝10分15敗	33得点	44失点
ホーム	4勝6分7敗	18得点	21失点
アウェイ	5勝4分8敗	15得点	23失点

監督 片野坂 知宏 2021/12/23 ~ 2022/8/17

出場選手

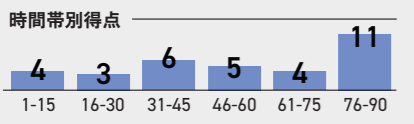
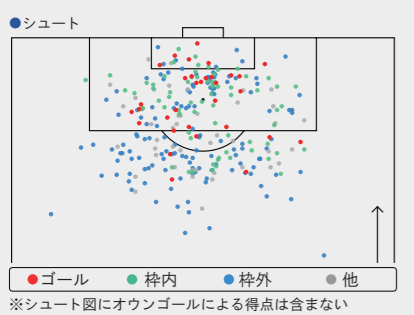
順位	選手	出場	出場時間	得点
1	東口 順昭	19	1710	0
21	加藤 大智	1	90	0
22	一森 純	9	810	0
25	石川 慧	5	450	0
2	福岡 将太	11	490	0
3	昌子 源	25	2104	0
4	藤春 廣輝	18	1077	0
5	三浦 弦太	33	2846	0
13	高尾 瑠	26	1830	0
16	佐藤 瑠大	2	43	0
6	チュセジョン	5	182	0
6	山本 理仁	2	23	0
8	小野瀬 康介	26	1977	3
10	倉田 秋	18	1082	0
11	ウエルントン シウバ	12	184	1
14	福田 湧矢	15	417	2
15	齊藤 未月	26	1694	2
17	奥野 耕平	24	1132	0
23	ダウン	27	1911	3
29	山本 悠樹	16	869	1
41	中村 仁郎	9	442	0
47	ファンアラノ	11	829	1
48	石毛 秀樹	20	925	0
9	レアンドロ ペレイラ	23	1010	4
18	パトリック	28	1875	5
32	坂本 一彩	9	414	1
37	山見 大登	21	1180	2
39	宇佐美 貴史	7	570	0
40	食野 亮太郎	13	826	2
42	南野 暹海	4	91	0
45	鈴木 武蔵	9	311	1

平均年齢 | 26.9 カード | 45 3

キースタッツ

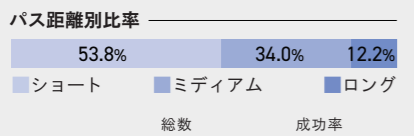
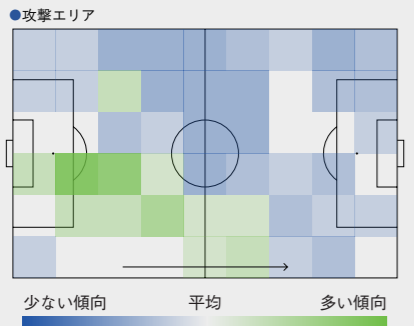
70.0%	監督別データで松田 浩の無失点試合比率1位
52.9%	相手陣での空中戦勝率1位
271	パトリックの相手陣空中戦回数、勝率1位
136	セーブ数、セーブ率ともに1位
68.1%	DTでのタックル奪取率2位
6	セットプレーからの失点数は最少タイ
0	ペナルティーキック数ゼロはG大阪のみ

ゴール



得点	33 (O.G.1)	13位
シュート	277	14位
シュート枠内率	36.8%	14位

攻撃プレー



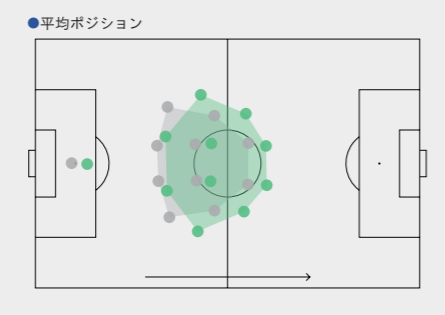
クロス	362	18位	24.6%	4位
スルーパス	333	18位	47.4%	10位
ドリブル	311	15位	47.9%	8位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 パトリック 5(24)	1 ファンアラノ 2	1 山見 大登 19
2 レアンドロ ペレイラ 4(22)	1 石毛 秀樹 2	2 パトリック 14
3 ダウン 3(27)	1 レアンドロ ペレイラ 2	3 小野瀬 康介 13
ドリブル	パス成功	タックル
1 小野瀬 康介 55	1 三浦 弦太 1237	1 三浦 弦太 60
2 山見 大登 49	2 昌子 源 789	2 齊藤 未月 56
3 黒川 圭介 48	3 黒川 圭介 735	3 昌子 源 49

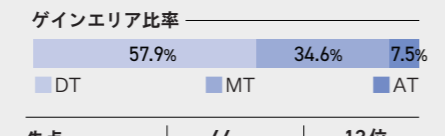
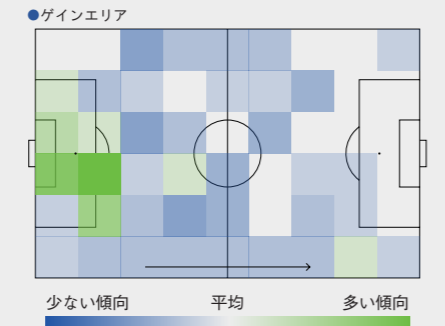
※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

スタイル



アクチュアルプレーイングタイム	53:21	11位
ボール支配率	46.9%	12位
走行距離	112.90km	9位
スプリント	156	17位

守備プレー



失点	44	13位
セーブ	136	1位
セーブ率	75.6%	1位
タックル奪取	370	14位



CEREZO OSAKA

セレッソ大阪

成績

順位	5位	勝点	51
総合	13勝12分9敗	46得点	40失点
ホーム	7勝5分5敗	23得点	20失点
アウェイ	6勝7分4敗	23得点	20失点

監督 小菊 昭雄 2021/8/26 ~

出場選手

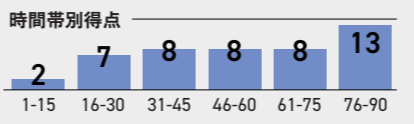
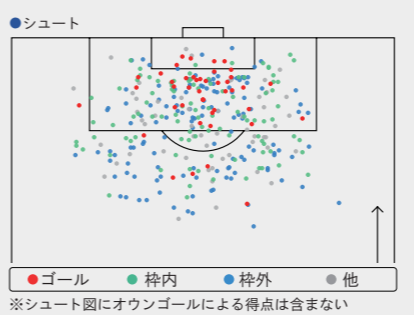
順位	選手	出場	出場時間	得点
21	キム ジンヒョン	33	2946	0
31	清水 圭介	3	110	0
2	松田 陸	33	2923	0
3	進藤 亮佑	7	364	2
6	山中 亮輔	23	1717	0
14	丸橋 祐介	5	384	0
16	毎熊 晟矢	28	1774	3
22	マテイ ヨニッチ	26	2328	1
24	鳥海 晃司	19	1640	0
29	船木 翔	14	779	2
33	西尾 隆矢	24	1990	0
4	原川 力	18	1535	0
5	喜田 陽	1	74	0
7	上門 知樹	18	787	2
8	乾 貴士	5	332	3
10	清武 弘嗣	24	1517	2
17	鈴木 徳真	25	1453	2
19	為田 大貴	28	1490	0
25	奥埜 博亮	31	2667	3
27	新井 晴樹	2	41	0
37	石渡 ネルソン	1	45	0
41	中原 輝	27	1121	1
9	アダム タガート	20	935	5
11	ブルーノ メンデス	22	736	3
20	加藤 陸次樹	26	1275	6
26	ジェアンパトリッキ	28	1030	5
34	山田 寛人	20	1032	4
38	北野 颯太	19	585	0

平均年齢 | 27.1 カード | 27 3

キースタッツ

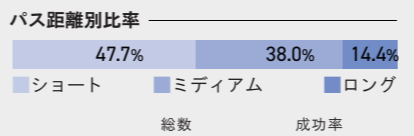
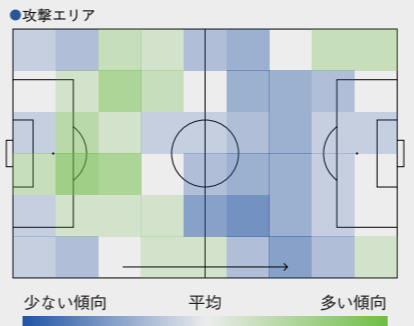
14	途中出場選手の得点数1位
321	左方向へのロングパス成功数1位
170	相手チームのスルーパス成功数最少
21	76-90分の失点数最多
23	こぼれ球からの被シュート数最少
295	ファウル数最少
10	スローイン3プレー以内のシュート数2位

ゴール



得点	46 (O.G.2)	6位
シュート	328	9位
シュート枠内率	43.3%	4位

攻撃プレー



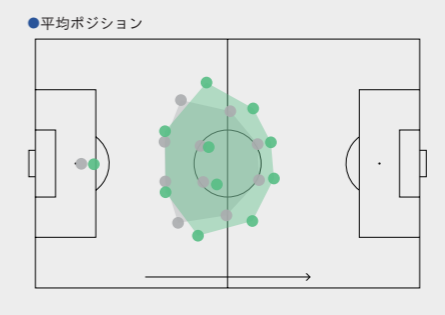
クロス	522	5位	20.5%	17位
スルーパス	429	9位	48.3%	9位
ドリブル	285	17位	47.4%	9位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 加藤 陸次樹 6(38)	1 清武 弘嗣 4	1 清武 弘嗣 30
2 アダム タガート 5(25)	1 山中 亮輔 4	2 山中 亮輔 22
2 ジェアンパトリッキ 5(26)	1 奥埜 博亮 4	2 奥埜 博亮 22
ドリブル	パス成功	タックル
1 ジェアンパトリッキ 42	1 松田 陸 1122	1 奥埜 博亮 84
2 中原 輝 38	2 マテイ ヨニッチ 1094	2 毎熊 晟矢 56
3 為田 大貴 33	3 西尾 隆矢 889	3 原川 力 44

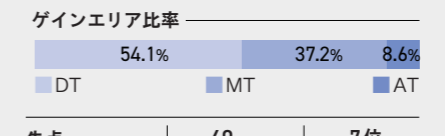
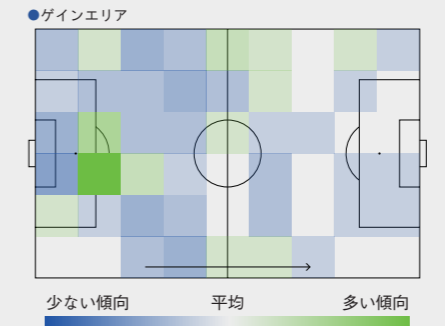
※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

スタイル



アクチュアルプレーイングタイム	54:31	7位
ボール支配率	49.1%	10位
走行距離	114.49km	4位
スプリント	181	9位

守備プレー



失点	40	7位
セーブ	92	5位
セーブ率	69.7%	4位
タックル奪取	365	16位



VISSEL KOBE

ヴィッセル神戸

成績

順位	13位	勝点	40
総合	11勝7分16敗 35得点 41失点		
ホーム	7勝3分7敗 21得点 16失点		
アウェイ	4勝4分9敗 14得点 25失点		

監督

三浦 淳寛	2020/9/24 ~ 2022/3/20
リュイス プラナグマ	2022/3/21 ~ 2022/4/8
ロティーナ	2022/4/8 ~ 2022/6/29
吉田 孝行	2022/6/29 ~

出場選手

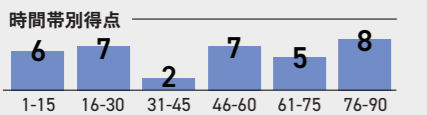
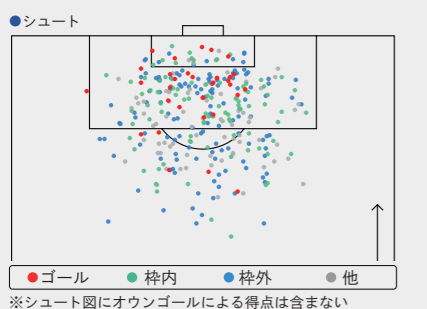
選手	出場	出場時間	得点
1 前川 暲也	18	1620	0
18 飯倉 大樹	14	1260	0
28 坪井 湧也	2	180	0
3 小林 友希	32	2586	0
14 榎野 智章	16	711	1
15 マテウス トウレル	7	462	0
17 菊池 流帆	24	1961	4
19 初瀬 亮	17	889	1
23 山川 哲史	28	2062	1
24 酒井 高德	34	3050	1
25 大崎 玲央	25	2078	0
2 飯野 七聖	8	576	0
5 山口 蛍	33	2957	2
6 セルジ サンペール	6	397	0
7 郷家 友太	18	688	0
8 アンドレス イニエスタ	24	1476	2
15 橋本 拳人	9	663	1
16 汰木 康也	32	2122	5
20 井上 潮音	7	168	0
22 佐々木 大樹	19	781	0
31 中坂 勇哉	8	268	0
33 扇原 貴宏	12	585	0
49 小林 祐希	9	593	3
9 ボージャン クルキッチ	14	416	0
10 大迫 勇也	26	1669	7
11 武藤 嘉紀	26	2087	6
21 藤本 憲明	3	44	0
29 リンコン	8	316	0
30 ステファン ムゴシャ	5	85	0
41 小田 裕太郎	21	791	0

平均年齢 | 28.0 カード | 29 3

キースタッツ

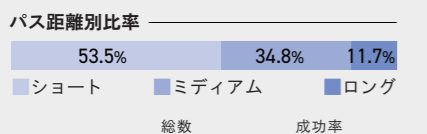
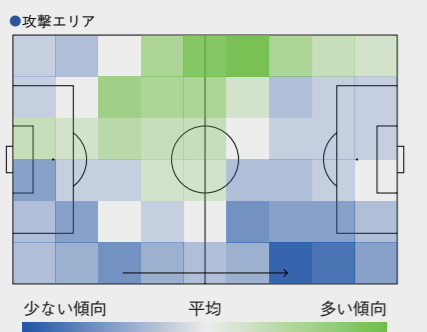
0.94	監督別データで吉田 孝行の平均失点数最少
45.2%	ペナルティーエリア内右からのクロス成功率1位
6	大迫 勇也は総得点7のうち6点を途中出場試合で記録
19.3	ゲインからシュートまでの平均時間(秒)最長
727.4	後半戦のドリブル保持時間(秒)2位
49.5%	MTへのパス比率1位
54.1%	MTでのこぼれ球奪取率1位

ゴール



得点	35 (O.G.1)	12位
シュート	325	11位
シュート枠内率	38.5%	10位

攻撃プレー



クロス	484	9位	22.7%	9位
スルーパス	425	10位	44.7%	15位
ドリブル	390	6位	46.9%	11位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 大迫 勇也 7(56)	1 汰木 康也 5	1 アンドレスイニエスタ 29
2 武藤 嘉紀 6(43)	2 酒井 高德 4	1 大迫 勇也 29
3 汰木 康也 5(35)	3 アンドレスイニエスタ 3	1 汰木 康也 29
ドリブル	パス成功	タックル
1 汰木 康也 92	1 酒井 高德 1609	1 酒井 高德 62
2 武藤 嘉紀 48	2 小林 友希 1585	2 菊池 流帆 61
3 小田 裕太郎 40	3 山口 蛍 1361	3 小林 友希 56

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



SANFRECCE HIROSHIMA

サンフレッチェ広島

成績

順位	3位	勝点	55
総合	15勝10分9敗 52得点 41失点		
ホーム	10勝3分4敗 31得点 15失点		
アウェイ	5勝7分5敗 21得点 26失点		

監督

ミハエル スキッベ 2021/11/25 ~

出場選手

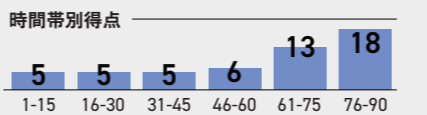
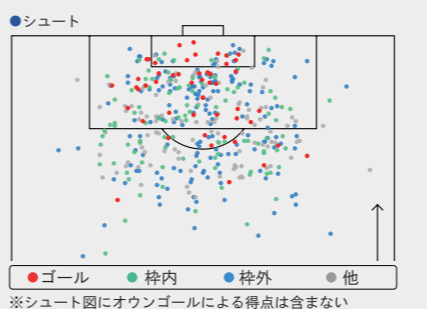
選手	出場	出場時間	得点
1 林 卓人	5	450	0
22 川浪 吾郎	1	90	0
38 大迫 敬介	28	2520	0
2 野上 結貴	25	1704	1
3 塩谷 司	26	2264	0
4 荒木 隼人	31	2784	2
19 佐々木 翔	34	2984	3
21 住吉 ジュラニレシジョン	8	393	0
31 中野 就斗	1	34	0
33 今津 佑太	5	122	0
6 青山 敏弘	15	380	0
7 野津田 岳人	28	2299	3
10 森島 司	31	2528	8
14 エゼキエウ	9	238	1
15 藤井 智也	27	2105	1
16 浅野 雄也	12	575	0
17 松本 泰志	23	1234	3
18 柏 好文	25	1976	3
24 東 俊希	19	926	0
25 茶島 雄介	7	332	1
27 川村 拓夢	16	698	3
30 柴崎 晃誠	30	565	1
41 長沼 洋一	3	79	0
44 仙波 大志	2	90	0
9 ドウグラス ヴィエイラ	11	487	3
13 ナッシン ベンカリファ	25	1429	5
20 永井 龍	8	307	0
20 ビエロス ソティリウ	7	260	1
23 鮎川 峻	3	103	1
28 棚田 遼	4	47	0
37 ジュニオール サントス	22	1196	2
39 満田 誠	29	2355	9

平均年齢 | 27.8 カード | 31 2

キースタッツ

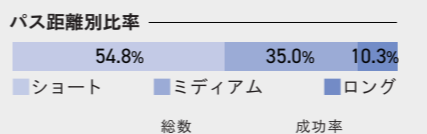
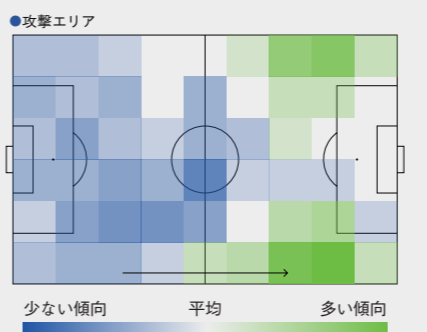
18	76-90分の得点数1位
451	ドリブル数1位
2	1-15分の失点数最少タイ
75	ATでのタックル奪取数1位
7	フリーキック3プレー以内のゴール数1位
356	ATでのスローイン成功率1位
6	セットプレーからの失点数は最少タイ

ゴール



得点	52 (O.G.1)	3位
シュート	422	2位
シュート枠内率	36.0%	16位

攻撃プレー



クロス	570	3位	21.9%	12位
スルーパス	500	3位	50.2%	5位
ドリブル	451	1位	45.7%	13位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 満田 誠 9(62)	1 野津田 岳人 9	1 満田 誠 46
2 森島 司 8(39)	2 山中 亮輔 8	2 野津田 岳人 39
3 ナッシン ベンカリファ 5(44)	3 奥埜 博亮 5	2 森島 司 36
ドリブル	パス成功	タックル
1 藤井 智也 137	1 佐々木 翔 1666	1 野津田 岳人 104
2 ジュニオール サントス 69	2 野津田 岳人 1449	2 佐々木 翔 85
3 満田 誠 63	3 荒木 隼人 1249	3 荒木 隼人 72

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



AVISPA FUKUOKA

アビスパ福岡

成績

順位	14位	勝点	38
総合	9勝11分14敗 29得点 28失点		
ホーム	5勝6分6敗 17得点 18失点		
アウェイ	4勝5分8敗 12得点 20失点		

監督

長谷部 茂利 2019/11/26 ~

出場選手

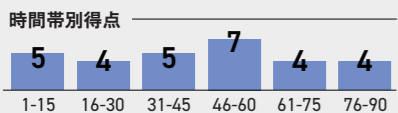
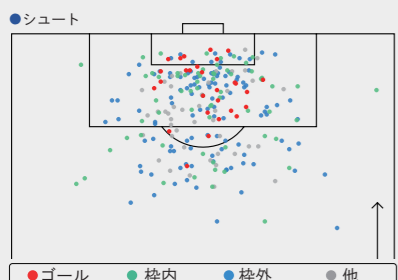
	出場	出場時間	得点
31 村上 昌謙	27	2424	0
41 永石 拓海	8	636	0
2 湯澤 聖人	26	1468	0
3 奈良 竜樹	22	1980	0
5 宮 大樹	27	2359	2
13 志知 孝明	33	2782	0
15 熊本 雄太	5	232	0
20 三國 ケネディエス	5	186	0
22 輪湖 直樹	2	52	0
29 前嶋 洋太	23	1402	1
33 ドウグラス グローリ	26	2106	0
36 柳 貴博	10	451	0
4 重廣 卓也	2	77	0
6 前 寛之	34	3004	0
7 金森 健志	26	806	0
8 杉本 太郎	4	117	0
14 ジョルディ クルークス	31	1971	4
19 田邊 草民	22	887	0
25 北島 祐二	9	300	0
35 平塚 悠知	4	265	1
39 田中 達也	24	1048	1
40 中村 駿	26	2075	1
9 ファンマ デルガド	31	1430	4
10 城後 寿	6	144	0
11 山岸 祐也	34	2614	10
16 渡 大生	11	339	1
17 ルキアン	34	2180	3
45 ジョン マリ	9	282	0

平均年齢 | 28.4 カード | 49 | 2

キースタッツ

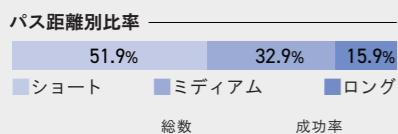
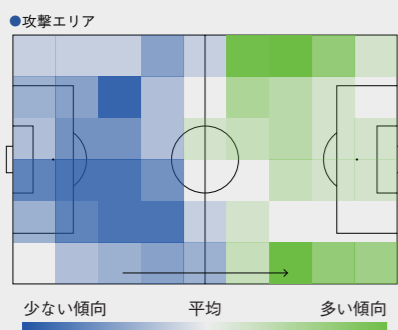
7	スコアレスドロー数1位
100	クロスによるペナルティーエリア進入数1位
40.7%	ATへのパス比率1位
52.6%	ドリブル成功率1位
256	被シュート数最少
445	タックル奪取数2位
496	ファウル数最多

ゴール



得点	29 (O.G.1)	18位
シュート	253	18位
シュート枠内率	36.8%	15位

攻撃プレー



クロス	590	2位	22.2%	10位
スルーパス	345	16位	50.4%	4位
ドリブル	369	9位	52.6%	1位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 山岸 祐也 10 (41)	1 ジョルディ クルークス 4	1 ジョルディ クルークス 32
2 ファンマ デルガド 4 (29)	2 ファンマ デルガド 3	2 山岸 祐也 19
2 ジョルディ クルークス 4 (29)	3 ルキアン 2	3 ファンマ デルガド 17
ドリブル	パス成功	タックル
1 ジョルディ クルークス 87	1 前 寛之 1176	1 前 寛之 78
2 ルキアン 54	2 宮 大樹 715	2 志知 孝明 69
3 田中 達也 46	3 中村 駿 668	3 ドウグラス グローリ 68

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



SAGAN TOSU

サガン鳥栖

成績

順位	11位	勝点	42
総合	9勝15分10敗 45得点 44失点		
ホーム	5勝9分3敗 23得点 13失点		
アウェイ	4勝6分7敗 22得点 31失点		

監督

川井 健太 2021/12/24 ~

出場選手

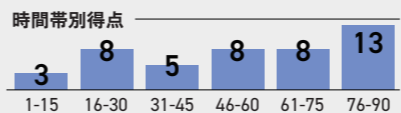
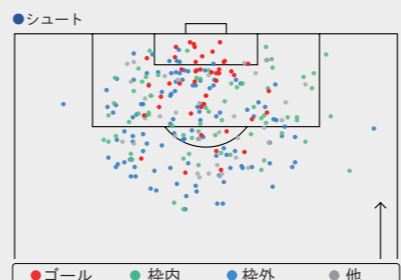
	出場	出場時間	得点
40 朴 一圭	34	3060	0
3 ジョアン オマリ	1	1	0
5 ジェゴ	32	2724	2
13 中野 伸哉	19	1124	1
20 ファン ソッコ	25	2088	4
30 田代 雅也	21	1743	3
35 平瀬 大	1	4	0
38 パク ゴヌ	2	8	0
42 原田 亘	27	2000	0
2 飯野 七聖	16	1360	1
4 島川 俊郎	9	643	0
6 福田 晃斗	33	2662	2
7 手塚 康平	4	84	0
7 中野 嘉大	4	148	0
8 本田 風智	24	1303	5
10 小野 裕二	26	1021	2
14 藤田 直之	26	971	2
18 西川 潤	14	535	1
22 佐藤 響	4	34	0
23 菊地 泰智	27	1232	0
24 長沼 洋一	13	1094	1
27 相良 竜之介	2	24	0
37 小泉 慶	30	2621	1
43 福井 太智	1	7	0
44 堀米 勇輝	26	1317	3
45 橋原 慶輝	1	8	0
47 森谷 賢太郎	12	311	0
11 宮代 大聖	22	1575	8
16 荒木 駿太	12	195	0
19 垣田 裕暉	28	1131	6
25 藤原 悠汰	8	216	1
29 岩崎 悠人	32	2416	2

平均年齢 | 25.8 カード | 39 | 0

キースタッツ

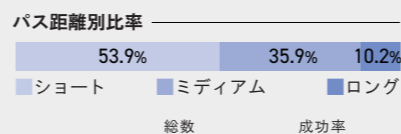
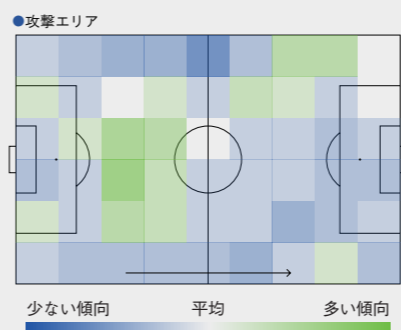
23.7%	ペナルティーエリア内のシュート決定率1位
27.6%	ペナルティーエリア脇右サイドからのクロス成功率1位
74	オフサイド数1位
299	ボールキャリアー成功数2位
89.1%	自陣へのパス成功率1位
17	ロングスロー数1位
57	セットプレー3プレー以内の被シュート数最少

ゴール



得点	45	8位
シュート	260	16位
シュート枠内率	43.5%	3位

攻撃プレー



クロス	485	8位	24.1%	5位
スルーパス	467	7位	42.4%	16位
ドリブル	332	12位	43.7%	15位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 宮代 大聖 8 (26)	1 福田 晃斗 7	1 ジェゴ 18
2 垣田 裕暉 6 (25)	2 小野 裕二 4	2 福田 晃斗 17
3 本田 風智 5 (25)	2 ジェゴ 4	3 岩崎 悠人 15
ドリブル	パス成功	タックル
1 岩崎 悠人 79	1 福田 晃斗 1567	1 小泉 慶 102
2 長沼 洋一 27	2 小泉 慶 1527	2 ジェゴ 64
3 飯野 七聖 25	3 ファン ソッコ 1362	3 岩崎 悠人 42

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



IWATE GRULLA MORIOKA

いわてグルージャ盛岡

▶ 成績

順位	22位	勝点	34
総合	9勝7分26敗 35得点 80失点		
ホーム	4勝3分14敗 16得点 38失点		
アウェイ	5勝4分12敗 19得点 42失点		

▶ 監督

秋田 豊 2019/12/4 ~

▶ 出場選手

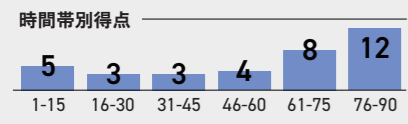
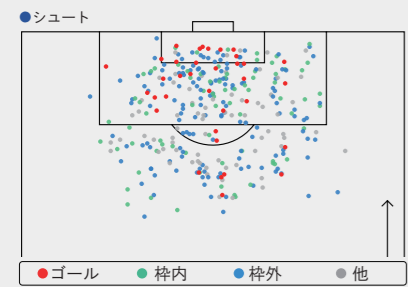
背番号	名前	出場	出場時間	得点
19	松山 健太	20	1715	0
31	阿部 伸行	1	85	0
41	野澤 大志	22	1980	0
2	蓮川 壮大	11	945	0
3	戸根 一誓	18	1523	0
4	牟田 雄祐	32	2775	3
6	甲斐 健太郎	31	2645	1
8	脇本 晃成	8	561	0
16	田平 起也	10	507	0
17	中村 太亮	26	2137	0
18	宮市 剛	23	1865	2
26	ビスマルク	26	884	1
36	小野田 将人	25	1938	1
37	深川 大輔	16	1099	2
5	石井 圭太	21	1698	1
7	モレラト	28	1546	3
14	小松 駿太	29	2045	3
15	加々美 登生	24	1674	0
22	奥山 洋平	32	1505	2
27	オタボー	19	852	1
28	増田 隼司	14	804	0
29	チャン ヒヨンス	4	204	0
33	弓削 翼	26	1737	2
38	南 拓都	12	818	0
42	桐 蒼太	11	422	0
46	中村 充孝	35	1092	1
49	中野 雅臣	13	694	1
9	韓 勇太	8	330	0
10	クリスティアーノ	11	608	3
11	ブレンネル	32	1629	4
13	色摩 雄貴	16	770	2
25	キム ジョンミン	8	360	0
32	上笹貫 剣	1	9	0
39	鈴木 魁人	2	90	0
45	和田 昌士	37	1941	2

平均年齢 | 25.4 カード | 67 3

▶ キースタッツ

- 16 | ポスト・バーに当たったシュート数2位
- 190 | ドリブルからのクロス数2位
- 10.7% | パスの後方比率が最も低い
- 106 | フィードによるロングパスの成功率1位
- 38.6% | MTでの被タックル時のボール保持率1位
- 16 | 31-45分の失点数最多
- 35 | 出場した選手数1位タイ

▶ ゴール

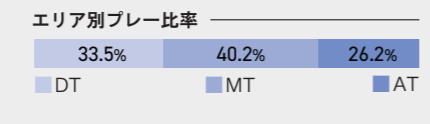
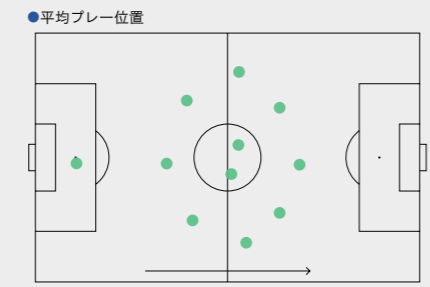


得点 | 35 | 21位

シュート | 328 | 17位

シュート枠内率 | 33.5% | 22位

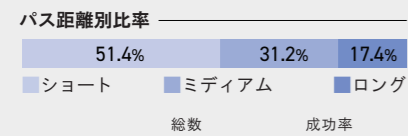
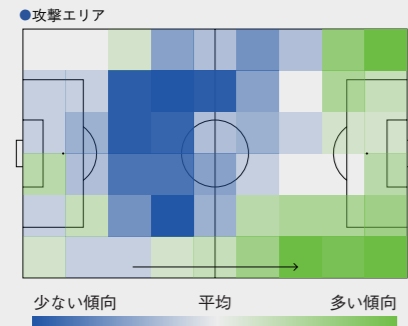
▶ スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 49:19 | 21位

ボール支配率 | 41.6% | 21位

▶ 攻撃プレー

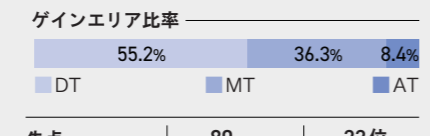
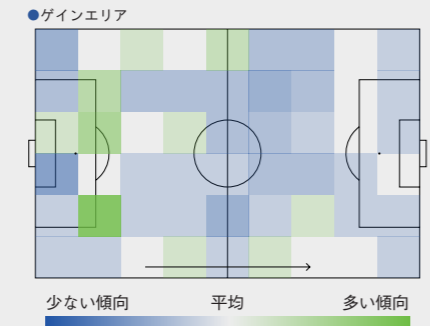


クロス | 693 6位 | 19.5% 19位

スルーパス | 426 17位 | 43.2% 20位

ドリブル | 504 6位 | 46.4% 16位

▶ 守備プレー



失点 | 80 | 22位

セーブ | 131 | 2位

セーブ率 | 62.1% | 20位

タックル奪取 | 460 | 9位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 ブレンネル 4(43)	1 中村 太亮 6	1 中村 太亮 40
2 クリスティアーノ 3(13)	2 弓削 翼 3	2 弓削 翼 15
2 モレラト 3(38)	3 増田 隼司 2	3 中村 充孝 13

ドリブル	パス成功	タックル
1 ブレンネル 90	1 牟田 雄祐 645	1 牟田 雄祐 59
2 奥山 洋平 76	2 甲斐 健太郎 631	2 甲斐 健太郎 57
3 ビスマルク 52	3 小野田 将人 570	3 戸根 一誓 51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



VEGALTA SENDAI

ベガルタ仙台

▶ 成績

順位	7位	勝点	63
総合	18勝9分15敗 67得点 59失点		
ホーム	8勝5分8敗 30得点 27失点		
アウェイ	10勝4分7敗 37得点 32失点		

▶ 監督

原崎 政人 2021/12/24 ~ 2022/9/6
伊藤 彰 2022/9/6 ~

▶ 出場選手

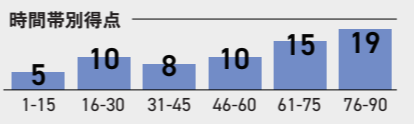
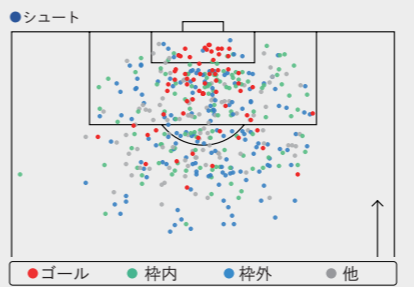
背番号	名前	出場	出場時間	得点
1	小畑 裕馬	21	1876	0
22	ストイシッチ	7	554	0
23	杉本 大地	15	1350	0
3	福森 直也	13	437	0
4	蜂須賀 孝治	14	694	0
5	若狭 大志	26	1882	1
13	平岡 康裕	30	2559	1
16	吉野 恭平	23	862	2
20	キム テヒョン	30	2443	1
25	真瀬 拓海	39	2759	4
41	内田 裕斗	34	2382	1
47	佐藤 瑠大	15	1194	0
6	レアンドロ デサバト	13	659	0
8	松下 佳貴	5	352	0
10	梁 勇基	15	589	0
14	石原 崇兆	20	1158	0
17	富田 晋伍	7	290	0
18	氣田 亮真	33	2496	6
24	大曾根 広汰	5	111	0
26	加藤 千尋	27	1315	0
28	名倉 巧	31	1603	4
32	鎌田 大夢	18	545	0
35	フォギーニョ	35	2462	5
46	オナイウ 情滋	1	5	0
50	遠藤 康	32	1936	5
9	中山 仁斗	27	2127	14
11	赤崎 秀平	3	121	0
15	フェリペ カルドーゾ	20	655	3
19	皆川 佑介	33	1318	5
42	富樫 敬真	37	2106	11
44	中島 元彦	33	2627	4

平均年齢 | 28.0 カード | 49 2

▶ キースタッツ

- 67 | 得点数2位
- 11 | 3得点以上の試合数1位
- 28.8% | 左サイドのペナルティーエリアからのクロス成功率1位
- 91 | インターセプト数1位
- 67.7% | タックル奪取率2位
- 84 | ATでの被ファウル数2位
- 148 | セットプレー5プレー以内のシュート数2位

▶ ゴール

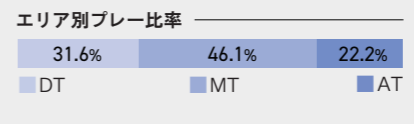
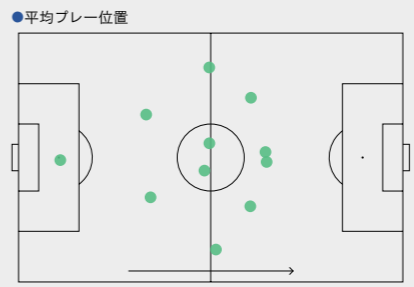


得点 | 67 | 2位

シュート | 443 | 3位

シュート枠内率 | 42.7% | 5位

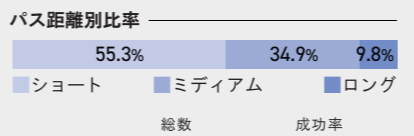
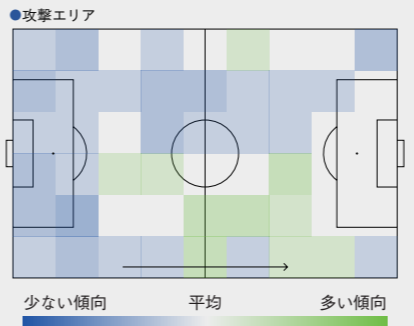
▶ スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 53:44 | 13位

ボール支配率 | 49.7% | 11位

▶ 攻撃プレー

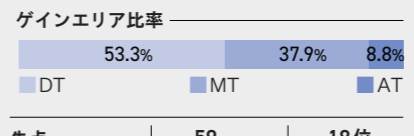
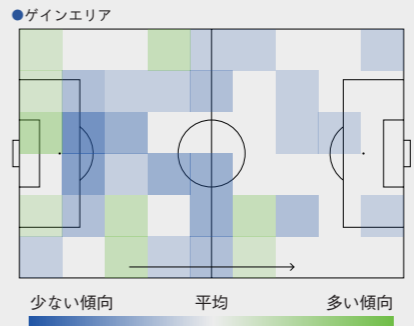


クロス | 580 16位 | 22.4% 8位

スルーパス | 535 7位 | 47.1% 11位

ドリブル | 395 13位 | 46.6% 15位

▶ 守備プレー



失点 | 59 | 18位

セーブ | 126 | 3位

セーブ率 | 68.1% | 8位

タックル奪取 | 485 | 5位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 中山 仁斗 14(49)	1 中島 元彦 7	1 中島 元彦 33
2 富樫 敬真 11(53)	2 内田 裕斗 4	2 氣田 亮真 32
3 氣田 亮真 6(38)	2 氣田 亮真 4	3 遠藤 康 30

ドリブル	パス成功	タックル
1 氣田 亮真 75	1 キム テヒョン 1468	1 真瀬 拓海 78
2 中島 元彦 48	2 平岡 康裕 1420	2 内田 裕斗 59
3 フェリペ カルドーゾ 36	3 フォギーニョ 1131	3 中島 元彦 58

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



BLAUBLITZ AKITA

ブラウブリッツ秋田

成績

順位	12位	勝点	56
総合	15勝11分16敗	39得点	46失点
ホーム	6勝6分9敗	20得点	23失点
アウェイ	9勝5分7敗	19得点	23失点

監督

吉田 謙 2019/12/16 ~

出場選手

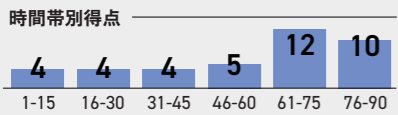
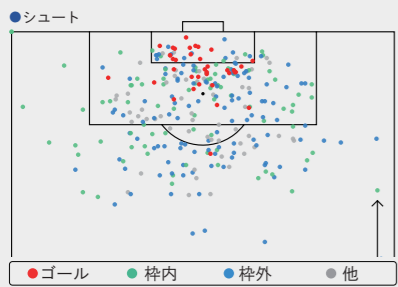
順位	名前	出場	出場時間	得点
1	新井 栄聡	10	885	0
21	田中 雄大	33	2891	0
3	小柳 達司	27	2198	0
4	池田 樹雷人	34	2952	2
5	千田 海人	33	2901	1
17	下坂 晃城	3	118	1
20	加藤 慎太郎	3	10	0
22	高田 椋汰	2	91	0
27	藤田 雄士	5	56	0
39	高瀬 優孝	24	1035	0
50	加賀 健一	9	652	0
6	輪笠 祐士	29	2574	1
7	普光院 誠	14	250	0
8	茂平	33	2205	2
10	沖野 将基	2	103	0
15	江口 直生	21	1009	0
23	稲葉 修士	32	2794	0
24	小暮 大器	29	1214	2
25	藤山 智史	31	2715	2
33	飯尾 竜太郎	17	1472	1
9	中村 亮太	30	1527	2
11	半田 航也	8	121	2
13	才藤 龍治	27	2334	1
14	三上 陽輔	32	1272	1
16	井上 直輝	25	1086	2
18	吉田 伊吹	38	1563	5
19	武 颯	39	1675	4
29	齋藤 恵太	38	2156	3
40	青木 翔大	27	1637	5

平均年齢 | 28.1 カード | 39 2

キースタッツ

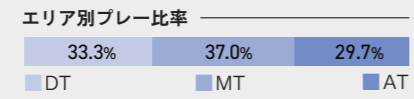
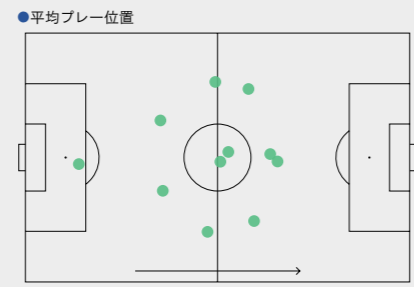
- 0 | 逆転負け試合数最少タイ
- 22 | ボール支配率40%以下の試合数最多
- 52.7% | パスの前方比率1位
- 2481 | 空中戦数1位
- 473 | 空中戦勝利後にボールを保持した数1位
- 384 | 被スルーパス数最少
- 179 | 相手のシュートのブロック数1位

ゴール



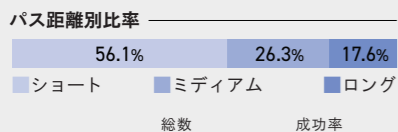
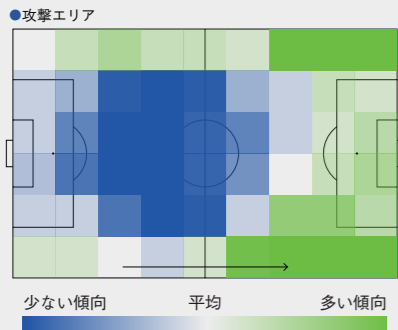
得点	39 (O.G.2)	19位
シュート	297	21位
シュート枠内率	41.4%	7位

スタイル



アクチュアルプレーイングタイム	45:55	22位
ボール支配率	38.8%	22位

攻撃プレー



クロス	664	8位	19.3%	21位
スルーパス	276	22位	43.8%	18位
ドリブル	341	19位	45.7%	17位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 吉田 伊吹 5(26)	1 飯尾 竜太郎 4	1 齋藤 恵太 15
1 青木 翔大 5(16)	1 中村 亮太 4	1 茂平 15
3 武 颯 4(37)	3 茂平 3	3 飯尾 竜太郎 14

ドリブル	パス成功	タックル
1 茂平 48	1 稲葉 修士 617	1 稲葉 修士 72
2 中村 亮太 44	2 輪笠 祐士 544	2 才藤 龍治 58
3 齋藤 恵太 30	3 藤山 智史 466	2 千田 海人 58

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



MONTEDIO YAMAGATA

モンテディオ山形

成績

順位	6位	勝点	64
総合	17勝13分12敗	62得点	40失点
ホーム	11勝4分6敗	37得点	18失点
アウェイ	6勝9分6敗	25得点	22失点

監督

ピーター クラムフスキー 2021/4/30 ~

出場選手

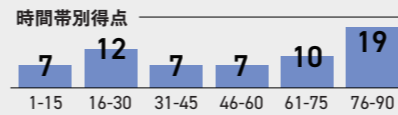
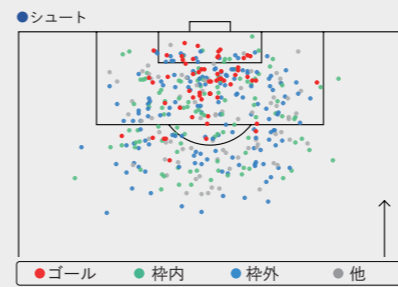
順位	名前	出場	出場時間	得点
1	後藤 雅明	42	3701	0
32	大友 竜輔	1	79	0
2	山崎 浩介	41	3689	2
3	半田 陸	35	3113	0
5	野田 裕喜	37	3267	2
6	山田 拓巳	21	879	0
19	松本 怜大	12	745	0
21	吉田 朋恭	5	284	0
26	川井 歩	32	2531	0
30	坂本 稀史也	1	57	0
31	木村 誠二	6	510	0
37	喜岡 佳太	4	106	0
43	吉田 泰授	1	22	0
7	岡崎 建哉	3	11	0
8	小西 雄大	33	1966	1
10	山田 康太	35	2311	5
14	新垣 貴之	9	82	0
15	藤田 息吹	36	2831	2
17	加藤 大樹	38	2476	6
18	南 秀仁	29	2263	0
20	チアゴアウベス	34	1508	10
22	河合 秀人	31	1463	0
24	横山 壱	9	358	1
25	國分 伸太郎	39	2657	3
41	榊山 諒乃介	15	591	2
9	デラトーレ	30	1324	9
11	藤本 佳希	15	883	7
13	鈴木 国友	13	327	1
28	荒川 永遠	1	12	0
29	ディサロ燦シルヴァーノ	17	964	8
33	木戸 皓貴	17	338	1
39	藤原 悠汰	6	199	0

平均年齢 | 25.7 カード | 44 2

キースタッツ

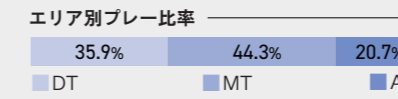
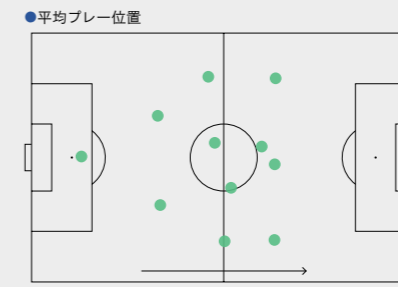
- 7 | ドリブルからの得点数1位
- 9 | 後半アディショナルタイムでの得点数1位
- 20 | 途中出場選手の得点数1位
- 5094 | 前方へのパス成功数2位
- 330 | スルーパス成功数2位
- 75.6% | セーブ率1位
- 103 | オフサイド数最多

ゴール



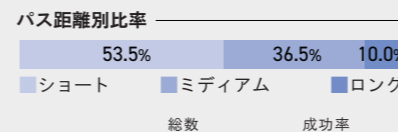
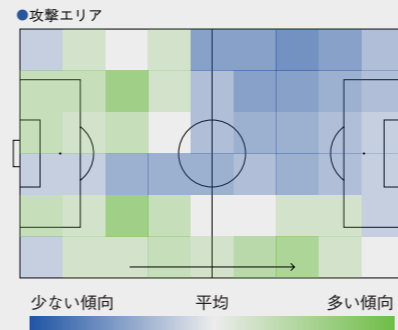
得点	62 (O.G.2)	4位
シュート	369	9位
シュート枠内率	42.4%	6位

スタイル



アクチュアルプレーイングタイム	55:06	8位
ボール支配率	55.0%	5位

攻撃プレー



クロス	762	1位	20.3%	16位
スルーパス	741	1位	44.5%	15位
ドリブル	403	12位	48.6%	9位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 チアゴアウベス 10(53)	1 國分 伸太郎 6	1 國分 伸太郎 44
2 デラトーレ 9(49)	2 河合 秀人 4	2 半田 陸 34
3 ディサロ燦シルヴァーノ 8(24)	2 小西 雄大 4	3 小西 雄大 29

ドリブル	パス成功	タックル
1 チアゴアウベス 65	1 野田 裕喜 2524	1 半田 陸 93
2 山田 康太 58	2 山崎 浩介 2471	2 山崎 浩介 81
3 加藤 大樹 46	3 藤田 息吹 1591	3 藤田 息吹 78

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



MITO HOLLYHOCK

水戸ホーリーホック

成績

順位	13位	勝点	54
総合	14勝12分16敗 47得点 46失点		
ホーム	8勝5分8敗 23得点 21失点		
アウェイ	6勝7分8敗 24得点 25失点		

監督

秋葉 忠宏 2019/12/2 ~

出場選手

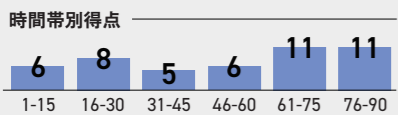
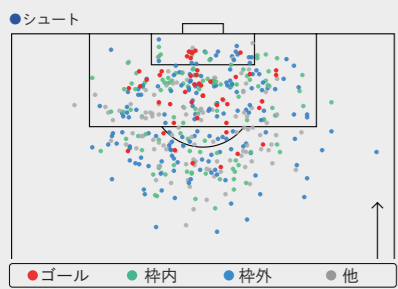
	出場	出場時間	得点
28 山口 瑠伊	34	3060	0
41 中山 開帆	3	270	0
45 茂木 秀	5	450	0
2 後藤田 亘輝	13	761	0
3 大崎 航詩	31	2304	0
4 タビナス ジェファーソン	23	1225	1
13 楠本 卓海	34	2925	1
21 山田 奈央	19	1118	0
33 三國 スティビアエ布斯	4	232	0
40 黒石 貴哉	30	2251	0
47 松田 隼風	12	614	0
48 レオナルド ブローダーセン	1	45	0
5 安永 玲央	9	478	0
7 曾根田 稔	27	1285	5
8 森 勇人	16	874	2
10 金久保 順	10	390	0
11 高井 和馬	18	794	3
14 椿 直起	37	2349	3
16 前田 椋介	35	2759	1
17 新里 涼	29	1837	4
18 音泉 翔真	2	85	0
22 土肥 航大	26	1343	2
25 平塚 悠知	24	1520	0
30 高岸 憲伸	24	1086	0
34 杉浦 文哉	18	834	1
39 柳町 魁羅	6	183	0
43 鈴木 喜文	36	3112	0
9 安藤 瑞季	32	1981	3
15 木下 康介	38	2167	12
19 村田 航一	17	1075	1
20 梅田 魁人	32	1239	3
23 寺沼 星文	2	31	0
37 鶴木 郁哉	8	314	0
38 唐山 翔白	16	458	5

平均年齢 | 24.1 カード | 44 4

キースタッツ

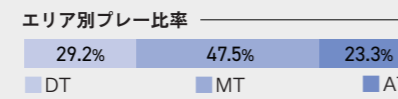
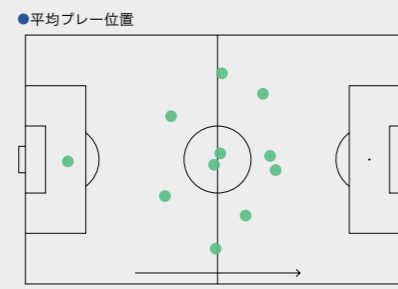
4	先制された試合での勝利数2位
555	ドリブル数2位
173	ATでの被タックル時のボール保持数1位
51.4%	MTへのパス比率2位
15	ゲインから10秒未満での得点数1位
35.2%	ロスト後10秒未満のリゲイン率2位
34.3%	被シュートの枠内率が最も低い

ゴール



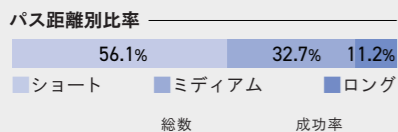
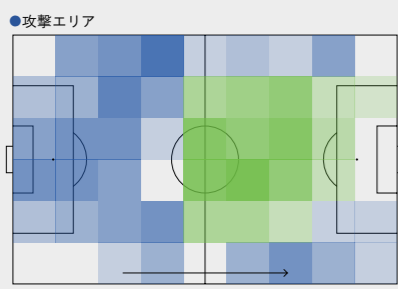
得点	47	15位
シュート	441	4位
シュート枠内率	37.6%	18位

スタイル



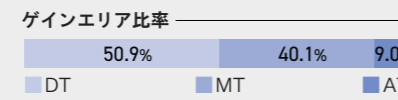
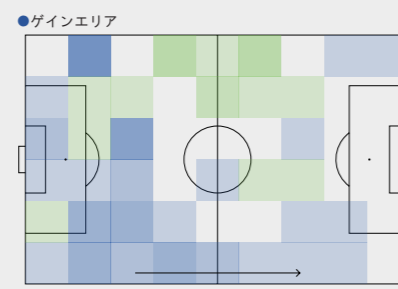
アクチュアルプレーイングタイム	52:14	17位
ボール支配率	49.2%	13位

攻撃プレー



クロス	553	19位	23.7%	6位
スルーパス	543	6位	47.9%	7位
ドリブル	555	2位	45.4%	18位

守備プレー



失点	46	7位
セーブ	110	9位
セーブ率	70.5%	5位
タックル奪取	472	6位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 木下 康介 12 (70)	1 安藤 瑞季 5	1 前田 椋介 39
2 唐山 翔白 5 (15)	2 大崎 航詩 4	2 安藤 瑞季 26
2 曾根田 稔 5 (23)	3 後藤田 亘輝 3	3 大崎 航詩 25
ドリブル	パス成功	タックル
1 椿 直起 94	1 前田 椋介 1538	1 前田 椋介 86
2 木下 康介 71	2 鈴木 喜文 1534	2 楠本 卓海 64
3 安藤 瑞季 52	3 楠本 卓海 1376	3 黒石 貴哉 51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



TOCHIGI SC

栃木 SC

成績

順位	17位	勝点	49
総合	11勝16分15敗 32得点 40失点		
ホーム	4勝9分8敗 17得点 23失点		
アウェイ	7勝7分7敗 15得点 17失点		

監督

時崎 悠 2021/12/15 ~

出場選手

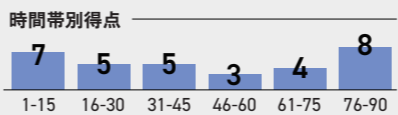
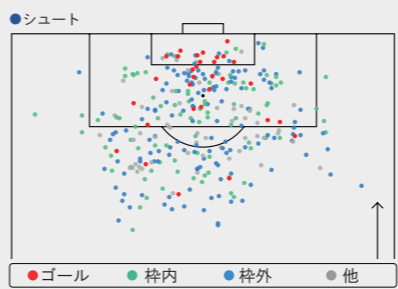
	出場	出場時間	得点
1 川田 修平	35	3150	0
41 藤田 和輝	7	629	0
2 面矢 行斗	3	119	0
3 黒崎 隼人	37	3000	3
15 大谷 尚輝	18	1619	0
16 カルロス グティエレス	36	3089	4
20 三國 ケネディエ布斯	3	186	0
22 小野寺 健也	5	367	0
28 吉田 朋森	7	479	0
30 福森 健太	31	2276	0
35 鈴木 海音	34	3015	0
40 井出 敬大	1	73	0
45 平松 航	2	180	0
4 佐藤 祥	30	2069	0
7 西谷 優希	32	1747	2
8 高萩 洋次郎	15	754	1
10 森 俊貴	29	1754	0
11 ジュニーニョ	11	263	0
13 松岡 瑠夢	5	194	0
14 谷内田 哲平	39	2840	1
17 山本 廉	15	548	0
18 大森 渚生	34	2689	0
23 植田 啓太	25	1122	3
24 神戸 康輔	25	1479	0
33 磯村 亮太	9	280	0
9 瀬沼 優司	15	944	1
19 大島 康樹	21	812	0
21 トカチ	21	995	1
27 五十嵐 理人	11	138	0
29 矢野 貴章	36	2365	7
32 宮崎 鴻	26	743	3
37 根本 凌	20	1026	5
38 小堀 空	13	529	0

平均年齢 | 25.4 カード | 49 3

キースタッツ

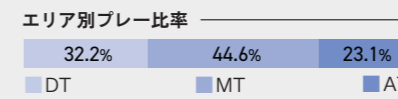
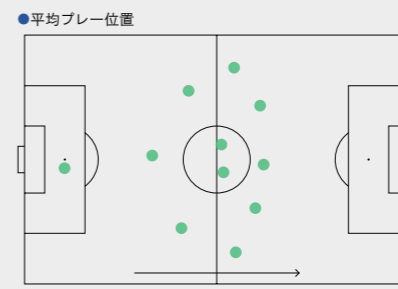
17	クリーンシート試合数2位タイ
8	スコアレスドロー数1位タイ
70	矢野 貴章の前半戦の相手陣空中戦勝利数2位
18	黒崎 隼人の後半戦のクロス成功数2位タイ
81	インターセプト数3位
1	スルーパスからの失点数最少タイ
6	途中出場選手による失点数最少タイ

ゴール



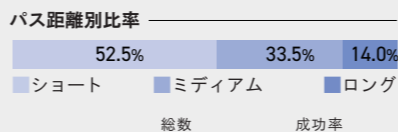
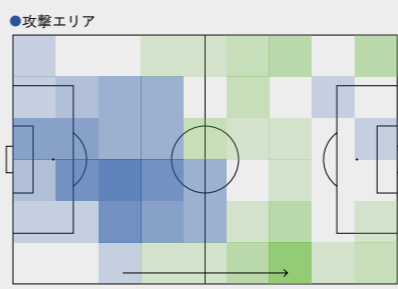
得点	32 (O.G.1)	22位
シュート	311	19位
シュート枠内率	38.9%	17位

スタイル



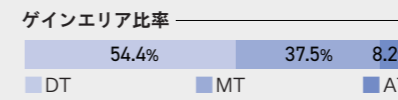
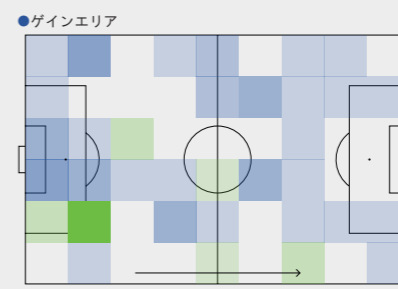
アクチュアルプレーイングタイム	53:51	11位
ボール支配率	42.4%	20位

攻撃プレー



クロス	586	15位	23.0%	7位
スルーパス	452	13位	47.1%	10位
ドリブル	409	11位	46.9%	14位

守備プレー



失点	40	3位
セーブ	85	18位
セーブ率	68.0%	10位
タックル奪取	421	21位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 矢野 貴章 7 (23)	1 谷内田 哲平 6	1 谷内田 哲平 31
2 根本 凌 5 (20)	2 黒崎 隼人 3	2 黒崎 隼人 26
3 カルロス グティエレス 4 (13)	3 カルロスグティエレス 2	3 大森 渚生 18
ドリブル	パス成功	タックル
1 福森 健太 66	1 カルロスグティエレス 1073	1 カルロスグティエレス 72
2 黒崎 隼人 58	2 大森 渚生 1032	2 西谷 優希 69
3 谷内田 哲平 55	3 鈴木 海音 972	3 大森 渚生 61

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



THE SPAKUSATSU GUNMA

ザスパクサツ群馬

成績

順位	20位	勝点	42
総合	11勝9分22敗 36得点 57失点		
ホーム	5勝6分10敗 19得点 29失点		
アウェイ	6勝3分12敗 17得点 28失点		

監督 大槻 毅 2021/12/16 ~

出場選手

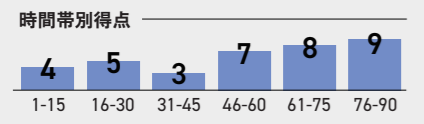
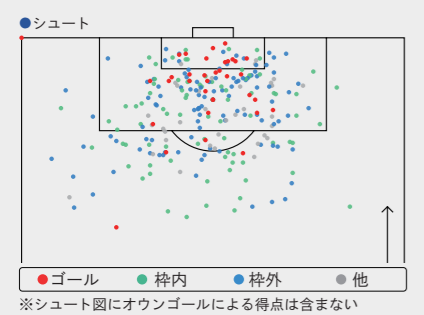
背番号	名前	出場	出場時間	得点
21	櫛引 政敏	38	3420	0
44	山田 晃士	4	360	0
2	城和 隼颯	37	3210	1
3	畑尾 大翔	37	3277	2
4	川上 優樹	21	903	0
5	藤井 悠太	5	313	0
19	岡本 一真	17	1348	0
22	高橋 勇利也	4	315	0
24	光永 祐也	4	270	0
25	小島 雅也	42	3457	2
32	渡辺 広大	9	288	0
42	高木 友也	12	1050	1
50	平尾 壮	2	26	0
6	内田 達也	13	998	1
7	加藤 潤也	36	2651	2
8	岩上 祐三	36	2648	3
10	田中 稔也	27	1748	1
14	白石 智之	10	219	0
15	風間 宏希	30	2287	0
16	久保田 和音	6	352	0
17	山中 惇希	29	1697	0
27	奥村 晃司	27	622	2
33	細貝 萌	20	1643	1
38	天笠 泰輝	25	1115	1
41	中山 雄登	3	23	0
9	北川 柊斗	25	895	2
11	深堀 隼平	29	1104	2
23	平松 宗	34	1523	8
28	長倉 幹樹	6	524	2
30	山根 永遠	23	1368	2
39	高木 彰人	22	821	1
40	鈴木 国友	11	567	0
47	川本 梨誉	10	504	1

平均年齢 | 26.7 カード | 38 2

キースタッツ

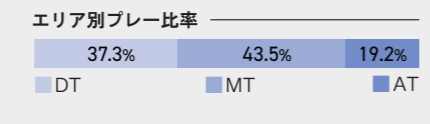
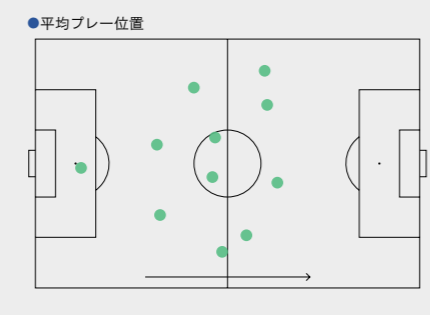
- 45.5% シュート枠内率1位
- 19.2% 途中出場選手のシュート決定率3位
- 10 ゲインから得点までの平均パス数最多
- 64 加藤 潤也のスルーパス成功数リーグ2位
- 11 1-15分での失点数最多
- 90.2% ペナルティーエリア外からのシュートセーブ率3位
- 8 ロストから被シュートまでの平均パス数最多

ゴール



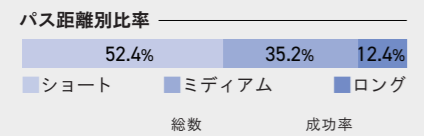
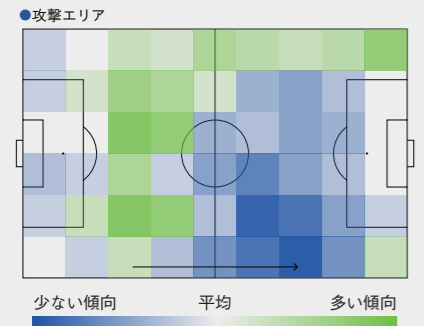
得点 | 36 (O.G.1) | 20位
シュート | 266 | 22位
シュート枠内率 | 45.5% | 1位

スタイル



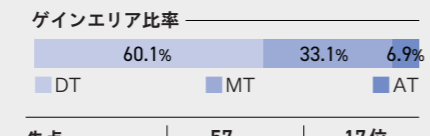
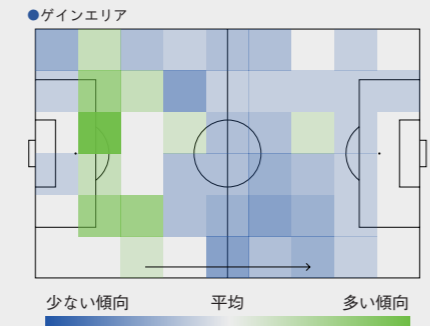
アクチュアルプレーイングタイム | 53:45 | 12位
ボール支配率 | 43.9% | 19位

攻撃プレー



クロス | 597 10位 | 19.4% 20位
スルーパス | 377 20位 | 47.5% 8位
ドリブル | 348 18位 | 47.7% 13位

守備プレー



失点 | 57 | 17位
セーブ | 100 | 14位
セーブ率 | 63.7% | 16位
タックル奪取 | 349 | 22位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 平松 宗 8(24)	1 加藤 潤也 4	1 風間 宏希 26
2 岩上 祐三 3(18)	2 岩上 祐三 3	1 加藤 潤也 26
3 長倉 幹樹 2(11)	3 高木 友也 2	3 岩上 祐三 19
ドリブル	パス成功	タックル
1 山根 永遠 42	1 城和 隼颯 1418	1 小島 雅也 49
2 加藤 潤也 39	2 畑尾 大翔 1397	2 細貝 萌 44
3 高木 友也 38	3 風間 宏希 1119	3 岩上 祐三 42

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



OMIYA ARDIJA

大宮アルディージャ

成績

順位	19位	勝点	43
総合	10勝13分19敗 48得点 64失点		
ホーム	6勝7分8敗 29得点 35失点		
アウェイ	4勝6分11敗 19得点 29失点		

監督 霜田 正浩 2021/6/7 ~ 2022/5/26
相馬 直樹 2022/5/26 ~

出場選手

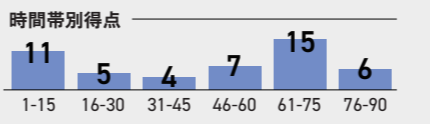
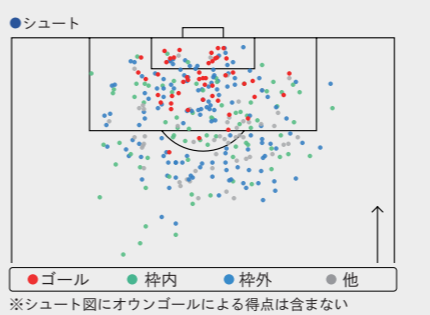
背番号	名前	出場	出場時間	得点
31	上田 智輝	2	112	0
35	南 雄太	15	1294	0
40	志村 滉	26	2261	0
50	若林 学歩	1	90	0
3	岡庭 愁人	14	1199	0
4	山田 将之	9	546	0
8	田代 真一	15	651	1
17	新里 亮	39	3042	3
22	茂木 カ也	33	2416	1
24	西村 慧祐	27	2244	2
25	袴田 裕太郎	14	1260	4
36	吉永 昇偉	11	324	0
46	貫 真郷	2	180	0
6	大橋 尚志	19	1196	0
7	三門 雄大	13	790	0
9	菊地 俊介	27	1528	4
11	奥抜 侃志	19	1086	1
14	武田 英寿	31	1402	0
15	大山 啓輔	24	1047	0
19	矢島 慎也	38	2650	4
20	栗本 広輝	21	1771	1
26	小島 幹敏	33	2294	1
29	三幸 秀稔	9	440	0
32	高柳 郁弥	1	28	0
39	泉澤 仁	16	479	1
41	小野 雅史	38	3243	1
48	柴山 昌也	35	2462	3
10	河田 篤秀	40	2212	7
18	高田 颯也	14	344	0
23	矢島 輝一	7	129	0
27	中野 誠也	22	1092	6
28	富山 貴光	32	1369	8
33	室井 慧佑	1	15	0
47	山崎 倫	7	384	0

平均年齢 | 26.6 カード | 36 0

キースタッツ

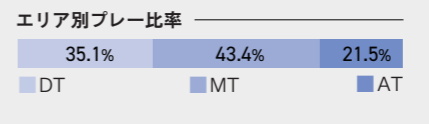
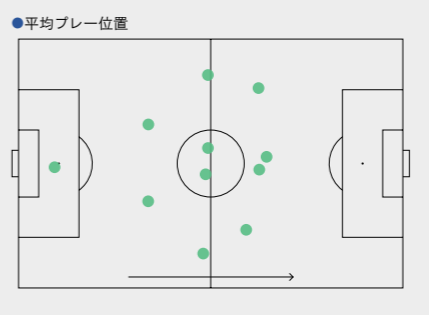
- 11 1-15分の得点数2位
- 18 岡庭 愁人の後半戦のクロス成功数2位タイ
- 20 新里 亮の後半戦の相手クロスブロック数1位
- 8 後半アディショナルタイムの失点数最多
- 52 小野 雅史のタックル奪取数は直近3年でのクラブ最多
- 43.8% セットプレーからのゴール比率1位
- 0 退場数0

ゴール



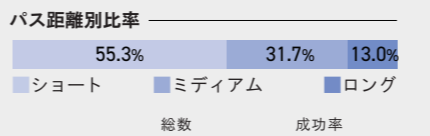
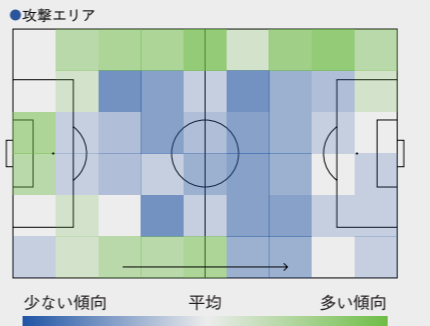
得点 | 48 | 13位
シュート | 317 | 18位
シュート枠内率 | 40.1% | 11位

スタイル



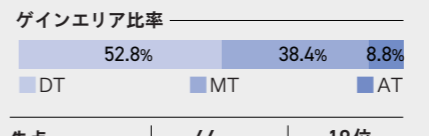
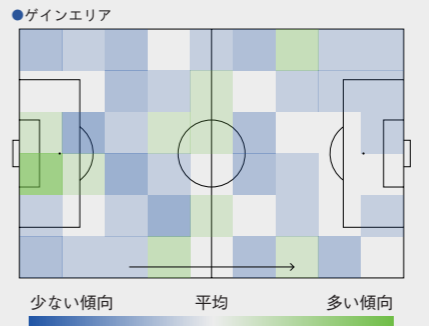
アクチュアルプレーイングタイム | 52:41 | 15位
ボール支配率 | 45.9% | 17位

攻撃プレー



クロス | 578 17位 | 19.7% 18位
スルーパス | 442 15位 | 43.4% 19位
ドリブル | 368 16位 | 54.6% 3位

守備プレー



失点 | 64 | 19位
セーブ | 111 | 8位
セーブ率 | 63.4% | 17位
タックル奪取 | 453 | 11位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 富山 貴光 8(19)	1 柴山 昌也 8	1 柴山 昌也 27
2 河田 篤秀 7(42)	2 小島 幹敏 5	2 矢島 慎也 24
3 中野 誠也 6(15)	3 矢島 慎也 4	3 小島 幹敏 18
ドリブル	パス成功	タックル
1 柴山 昌也 84	1 新里 亮 1346	1 小野 雅史 82
2 奥抜 侃志 35	2 小野 雅史 1119	2 西村 慧祐 53
3 泉澤 仁 31	3 西村 慧祐 982	3 柴山 昌也 49

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



JEF UNITED CHIBA

ジェフユナイテッド千葉

成績

順位	10位	勝点	61
総合	17勝10分15敗	44得点	42失点
ホーム	8勝5分8敗	17得点	16失点
アウェイ	9勝5分7敗	27得点	26失点

監督

尹 晶煥 2019/11/24 ~

出場選手

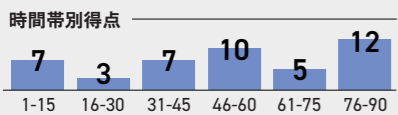
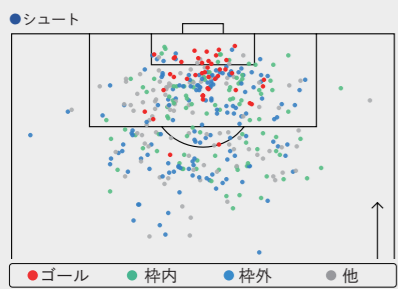
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	新井 章太	41	3689	0
31	松原 颯汰	1	90	0
6	新井 一輝	39	3374	8
11	米倉 恒貴	28	759	0
13	鈴木 大輔	20	1733	2
15	チャン ミンギョ	34	2892	2
22	佐々木 翔悟	14	946	0
26	西久保 駿介	27	1692	1
30	田邊 秀斗	15	1301	0
33	ダニエル アウベス	12	520	0
45	矢口 駿太郎	6	81	0
48	谷田 壮志朗	1	3	0
4	田口 泰士	38	3112	1
5	小林 祐介	23	1342	0
8	風間 宏矢	25	1248	1
10	見木 友哉	40	3452	7
14	小島 秀仁	7	278	0
17	福満 隆貴	34	1894	0
18	熊谷 アンドリュー	29	2312	1
21	秋山 陽介	26	1721	0
25	末吉 壘	22	1460	0
28	篠原 友哉	4	68	0
32	高橋 宥晟	8	299	1
50	桑原 晃大	2	2	0
9	川又 堅基	2	2	0
19	サウダーニャ	16	633	1
20	高木 俊幸	29	1605	3
27	チアゴ デ レオンソ	27	1399	4
29	佐久間 太一	9	42	0
35	リカルド ロベス	10	154	0
37	ブワニカ 啓太	25	1402	5
40	櫻川 ソロモン	36	2041	7
41	小森 飛純	2	33	0

平均年齢 | 25.4 カード | 36 1

キースタッツ

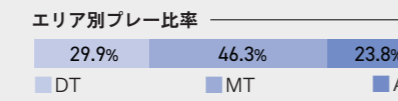
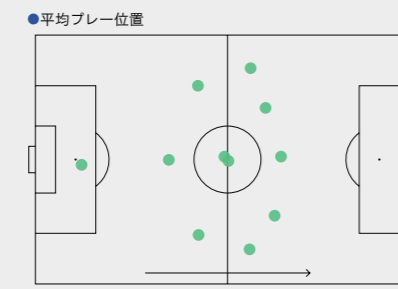
- 35.7% | ペナルティーエリア内右サイドからのクロス成功率1位
- 53.0% | MTでのこぼれ球奪取率1位
- 409 | DTでのタックル数1位
- 20 | 田口 泰士のインターセプト数はリーグ1位
- 3 | 46-60分の失点数最少
- 328 | ペナルティーエリアに進入された回数が最少
- 147 | ゴールキックのロングパス成功数2位

ゴール



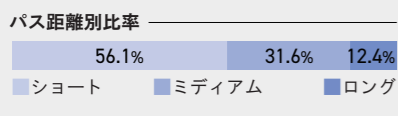
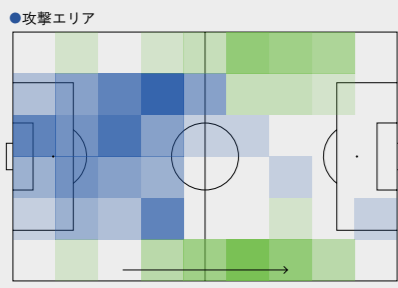
得点	44	17位
シュート	384	12位
シュート枠内率	36.5%	20位

スタイル



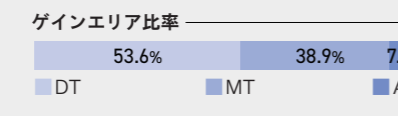
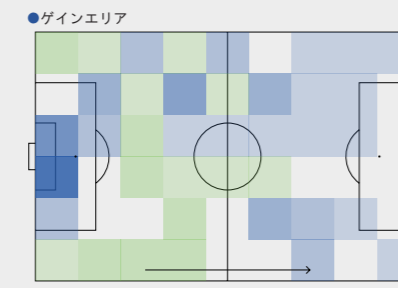
アクチュアルプレーイングタイム	50:33	20位
ボール支配率	48.5%	14位

攻撃プレー



クロス	559	18位	21.6%	10位
スルーパス	439	16位	50.8%	3位
ドリブル	412	10位	45.1%	19位

守備プレー



失点	42	5位
セーブ	78	22位
セーブ率	65.0%	15位
タックル奪取	528	1位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 新井 一輝 8(22)	1 田口 泰士 4	1 田口 泰士 48
2 櫻川 ソロモン 7(47)	2 チアゴ デ レオンソ 3	2 見木 友哉 36
2 見木 友哉 7(50)	2 高木 俊幸 3	3 櫻川 ソロモン 24

ドリブル	パス成功	タックル
1 末吉 壘 74	1 田口 泰士 1777	1 熊谷 アンドリュー 113
2 見木 友哉 48	2 熊谷 アンドリュー 1404	2 見木 友哉 90
3 西久保 駿介 32	3 新井 一輝 1260	3 田口 泰士 86

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



TOKYO VERDY

東京ヴェルディ

成績

順位	9位	勝点	61
総合	16勝13分13敗	62得点	55失点
ホーム	10勝5分6敗	27得点	20失点
アウェイ	6勝8分7敗	35得点	35失点

監督

堀 孝史 2021/9/1 ~ 2022/6/13
城福 浩 2022/6/13 ~

出場選手

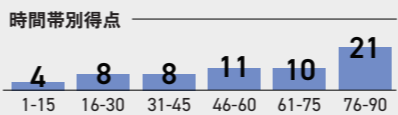
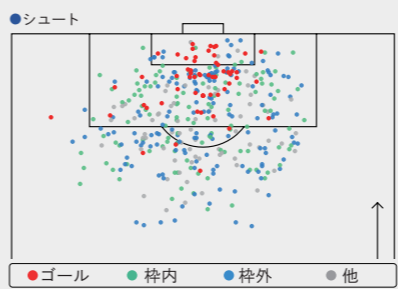
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	マテウス	20	1800	0
21	長沢 祐弥	5	450	0
31	高木 和 徹	15	1350	0
41	佐藤 久弥	2	180	0
2	深澤 大輝	32	2320	3
3	ンドカ ポニフェイス	32	2611	3
5	平 智広	11	679	1
15	馬場 晴也	31	2421	0
16	山越 康平	20	1391	1
22	佐古 真礼	4	53	0
23	谷口 栄斗	34	2877	1
26	加藤 蓮	30	2041	3
28	山口 竜弥	4	115	0
32	宮本 優	9	447	0
38	アルハン	1	45	0
4	梶川 諒太	39	2842	1
6	山本 理仁	17	1305	1
7	森田 晃樹	34	2341	4
8	井出 暹也	7	400	0
9	杉本 竜士	31	1470	6
10	新井 瑞希	27	1610	5
14	石浦 大雅	20	1040	1
17	加藤 弘聖	27	1210	0
18	バスケス バイロン	28	936	4
19	小池 純輝	29	1596	3
20	阿野 真拓	17	366	0
24	奈良輪 雄太	15	1097	0
25	稲見 哲行	12	512	0
33	橋本 陸斗	3	20	0
34	西谷 亮	9	434	0
11	端戸 仁	5	238	0
13	阪野 豊史	10	185	3
27	佐藤 凌我	40	2440	13
29	河村 慶人	28	1658	3
30	染野 唯月	16	1100	4

平均年齢 | 25.2 カード | 41 0

キースタッツ

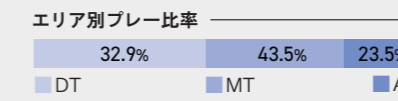
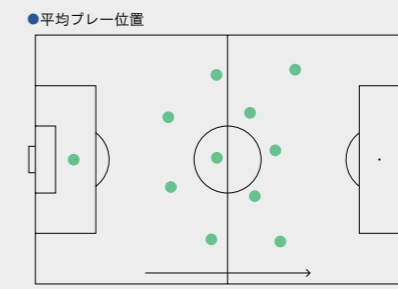
- 21 | 76-90分の得点数1位
- 59.6% | ドリブル成功率1位
- 152 | DT開始のボールキャリア成功数1位
- 06:45 | ATでのボール支配平均時間最長
- 7 | スルーパスによるアシスト数2位
- 0 | 後半アディショナルタイムでの失点数唯一ゼロ
- 35 | 出場した選手数最多タイ

ゴール



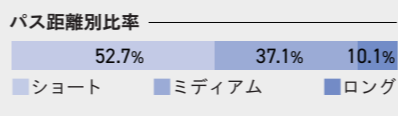
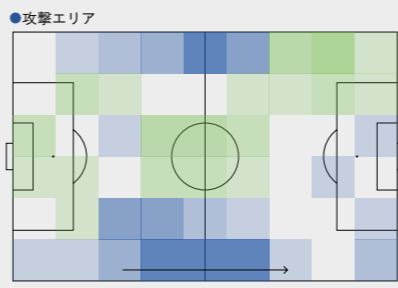
得点	62 (O.G.2)	4位
シュート	397	8位
シュート枠内率	44.3%	3位

スタイル



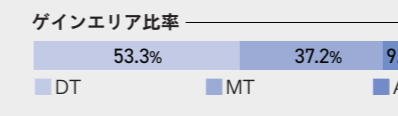
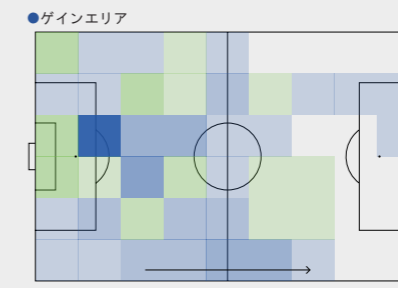
アクチュアルプレーイングタイム	55:40	6位
ボール支配率	55.6%	4位

攻撃プレー



クロス	712	5位	21.5%	11位
スルーパス	528	10位	48.9%	6位
ドリブル	584	1位	59.6%	1位

守備プレー



失点	55	16位
セーブ	110	9位
セーブ率	66.7%	12位
タックル奪取	467	8位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 佐藤 凌我 13(43)	1 梶川 諒太 8	1 梶川 諒太 47
2 杉本 竜士 6(18)	2 新井 瑞希 5	2 新井 瑞希 32
3 新井 瑞希 5(36)	3 杉本 竜士 4	3 森田 晃樹 25

ドリブル	パス成功	タックル
1 新井 瑞希 229	1 谷口 栄斗 2180	1 深澤 大輝 68
2 バスケス バイロン 55	2 ンドカポニフェイス 1751	2 馬場 晴也 63
3 河村 慶人 49	3 馬場 晴也 1706	3 谷口 栄斗 51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



FC MACHIDA ZELVIA

FC町田ゼルビア

成績

順位	15位	勝点	51
総合	14勝9分19敗 51得点 50失点		
ホーム	7勝6分8敗 28得点 25失点		
アウェイ	7勝3分11敗 23得点 25失点		

監督
ランコ ボボヴィッチ 2019/12/9～

出場選手

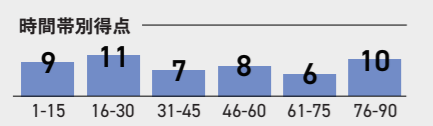
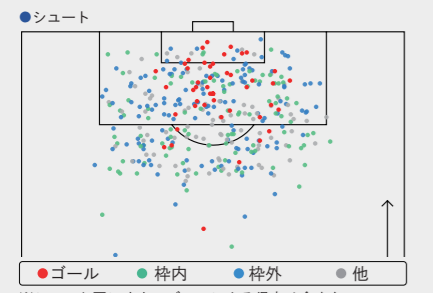
背番号	名前	出場	出場時間	得点
23	ポーブ ウィリアム	17	1395	0
42	福井 光輝	28	2385	0
2	奥山 政幸	40	3555	2
3	三鬼 海	2	19	0
4	太田 宏介	7	181	0
5	深津 康太	33	2479	1
13	菅沼 駿哉	19	1289	0
17	高橋 祥平	39	3388	1
24	岡野 洵	20	1165	1
26	奈良坂 巧	1	4	0
6	佐野 海舟	20	1800	1
8	高江 麗央	39	3274	0
10	平戸 太貴	38	3197	9
16	宇野 禪斗	9	304	0
18	長谷川 アーリアジャスール	38	2032	4
19	山口 一真	28	1113	1
22	翁長 聖	42	3547	0
41	安井 拓也	30	2044	0
46	樋口 堅	1	1	0
7	ドウドウ	29	1721	8
9	鄭 大世	34	1206	6
20	佐藤 大樹	8	117	0
27	晴山 伸	2	31	0
28	太田 修介	40	3119	11
30	中島 裕希	23	451	1
37	平河 悠	16	591	2
40	ヴィニシウスアラウージョ	32	1172	2

平均年齢 | 27.5 カード | 58 0

キースタッツ

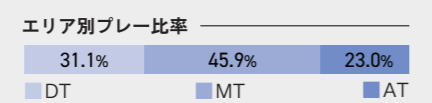
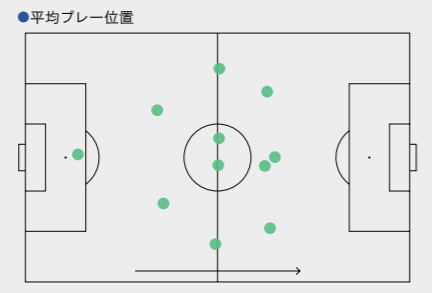
- 39.4% | ペナルティーエリア外のシュート 枠内率2位
- 56.5% | 自陣ペナルティーエリア内の空中 戦勝率2位
- 118 | 奥山 政幸のタックル数とタックル 奪取数がリーグ1位
- 14 | 佐野 海舟の前半戦のインターセプ ト数1位
- 94 | 相手クロスの成功数が最少
- 18 | 76-90分の失点数最多
- 19 | ドリブルからの被シュート数最少

ゴール



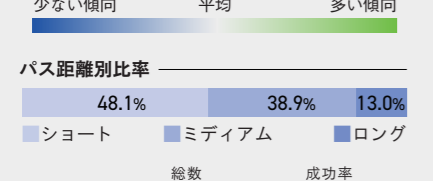
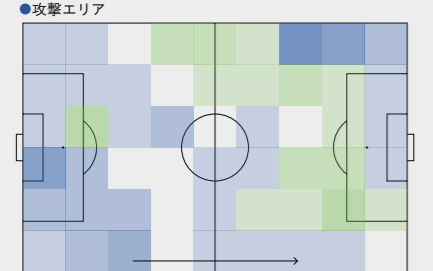
得点 | 51 (O.G.1) | 10位
シュート | 377 | 13位
シュート枠内率 | 40.3% | 10位

スタイル



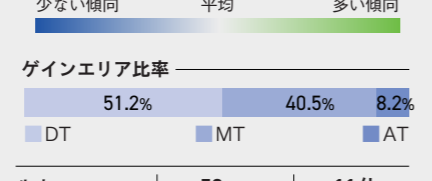
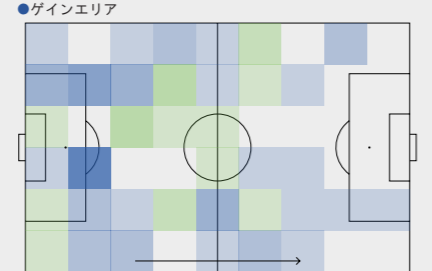
アクチュアルプレーイングタイム | 51:56 | 18位
ボール支配率 | 49.2% | 12位

攻撃プレー



クロス | 549 21位 | 20.8% 14位
スルーパス | 554 4位 | 43.1% 21位
ドリブル | 312 21位 | 50.3% 5位

守備プレー



失点 | 50 | 11位
セーブ | 79 | 21位
セーブ率 | 61.2% | 22位
タックル奪取 | 441 | 15位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 太田 修介 11 (48)	1 平戸 太貴 10	1 平戸 太貴 54
2 平戸 太貴 9 (51)	2 太田 修介 7	2 太田 修介 31
3 ドウドウ 8 (39)	3 翁長 聖 4	3 翁長 聖 21
ドリブル	パス成功	タックル
1 太田 修介 63	1 高橋 祥平 1768	1 奥山 政幸 118
2 翁長 聖 57	2 高江 麗央 1661	2 翁長 聖 101
3 平戸 太貴 39	3 奥山 政幸 1420	3 佐野 海舟 62

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



YOKOHAMA FC

横浜FC

成績

順位	2位	勝点	80
総合	23勝11分8敗 66得点 49失点		
ホーム	13勝4分4敗 33得点 21失点		
アウェイ	10勝7分4敗 33得点 28失点		

監督
四方田 修平 2021/12/10～

出場選手

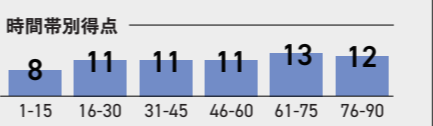
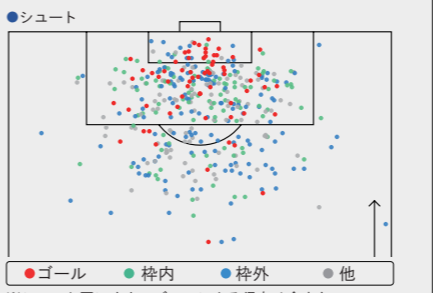
背番号	名前	出場	出場時間	得点
21	市川 暉記	3	270	0
44	六反 勇治	5	405	0
49	スベンド ブローダーセン	35	3105	0
3	中村 拓海	32	2563	0
4	高橋 秀人	14	600	0
5	ガブリエウ	29	2514	3
6	和田 拓也	35	2584	1
17	武田 英二郎	32	1391	0
19	亀川 諒史	35	2536	2
20	イサカ ゼイン	29	1930	2
22	岩武 克弥	37	3301	2
24	高木 友也	11	753	0
27	中塩 大貴	10	699	0
35	マテウス モラエス	1	80	0
2	ハイネル	21	1153	0
7	松浦 拓弥	20	452	1
8	齋藤 功佑	26	1263	3
10	安永 玲央	13	383	0
14	田部井 涼	16	750	0
16	長谷川 竜也	38	2931	4
25	中村 俊輔	6	106	0
30	手塚 康平	22	1704	0
33	近藤 友喜	9	433	0
9	クレーベ	12	133	3
13	サウロ ミネイロ	19	942	4
15	伊藤 翔	25	1202	6
18	小川 航基	41	3445	26
30	山根 永速	12	516	0
31	マルセロ ヒアン	9	377	2
38	山谷 侑士	2	14	0
39	渡邊 千真	23	934	3
47	フェリペ ヴィゼウ	8	374	1
48	山下 諒也	41	1737	3

平均年齢 | 27.4 カード | 47 0

キースタッツ

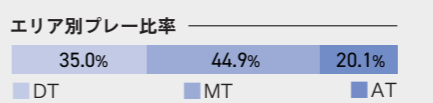
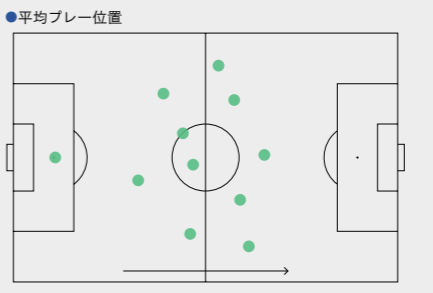
- 5 | 逆転勝ちの試合数1位
- 58.7% | 相手陣ペナルティーエリア内での 空中戦勝率1位
- 71 | クロスからのシュート数2位
- 53.0% | ATでのこぼれ球奪取率1位
- 114 | ロスト10秒未満での被シュート数 最多
- 528 | 被ファウル数1位
- 9 | セットプレー5プレー以内の被シ ュート数最少

ゴール



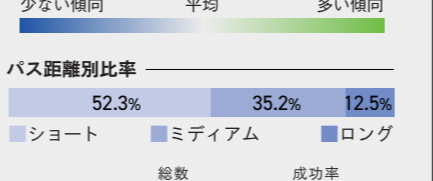
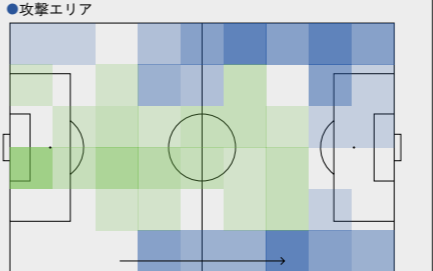
得点 | 66 | 3位
シュート | 420 | 6位
シュート枠内率 | 40.0% | 12位

スタイル



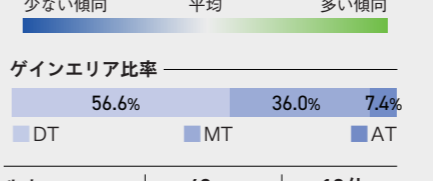
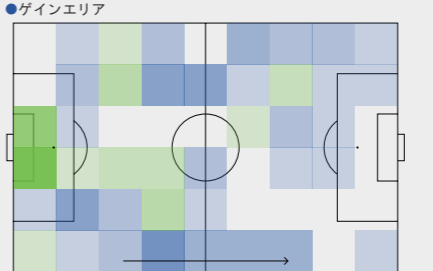
アクチュアルプレーイングタイム | 54:40 | 9位
ボール支配率 | 52.4% | 9位

攻撃プレー



クロス | 606 9位 | 24.4% 4位
スルーパス | 414 19位 | 45.4% 14位
ドリブル | 370 15位 | 54.9% 2位

守備プレー



失点 | 49 | 10位
セーブ | 114 | 6位
セーブ率 | 69.9% | 6位
タックル奪取 | 433 | 16位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 小川 航基 26 (97)	1 長谷川 竜也 11	1 長谷川 竜也 41
2 伊藤 翔 6 (26)	2 イサカ ゼイン 6	2 中村 拓海 30
3 サウロ ミネイロ 4 (33)	3 中村 拓海 4	3 山下 諒也 25
ドリブル	パス成功	タックル
1 山下 諒也 66	1 岩武 克弥 1775	1 ガブリエウ 70
2 イサカ ゼイン 63	2 ガブリエウ 1391	2 亀川 諒史 66
3 長谷川 竜也 30	3 和田 拓也 1390	3 岩武 克弥 51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



VENTFORET KOFU

ヴァンフォーレ甲府

成績

順位	18位	勝点	48
総合	11勝15分16敗	47得点	54失点
ホーム	6勝8分7敗	29得点	27失点
アウェイ	5勝7分9敗	18得点	27失点

監督

吉田 達磨 2022/1/3 ~

出場選手

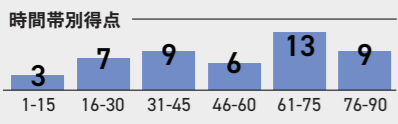
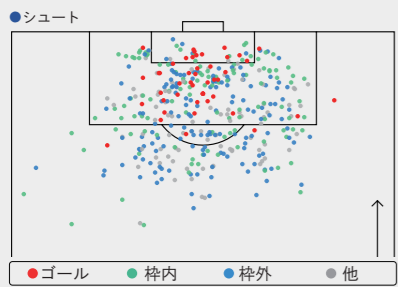
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	河田 晃兵	37	3330	0
31	岡西 宏祐	5	450	0
2	須貝 英大	41	3554	5
3	レナト ヴィスキ	4	297	0
4	山本 英臣	14	861	0
5	浦上 仁騎	42	3702	0
13	北谷 史孝	7	281	0
22	野澤 陸	27	2164	1
23	関口 正大	37	2699	0
25	大和 優規	7	342	0
32	フォゲッチ	7	137	0
35	三浦 颯太	5	182	0
40	エドゥアルド マンシャ	10	856	0
6	野澤 英之	6	357	0
7	荒木 翔	35	2389	1
8	新井 涼平	2	54	0
14	中山 陸	5	19	0
16	林田 滉也	12	746	0
18	鳥海 芳樹	37	2282	4
20	松本 凜生	30	1365	3
24	山田 陸	40	3328	1
26	石川 俊輝	28	1878	0
27	小林 岩魚	21	1186	0
39	米原 秀亮	1	58	0
41	長谷川 元希	40	3208	8
9	三平 和司	33	1058	7
10	ウィリアン リラ	39	2336	9
11	ブルーノ バライバ	15	375	2
15	飯島 陸	24	609	2
17	イゴール	5	100	1
19	宮崎 純真	31	1192	3
29	ジェットウリオ	4	101	0
44	内藤 大和	3	65	0

平均年齢 | 26.2 カード | 36 3

キースタッツ

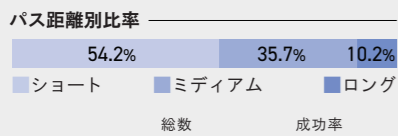
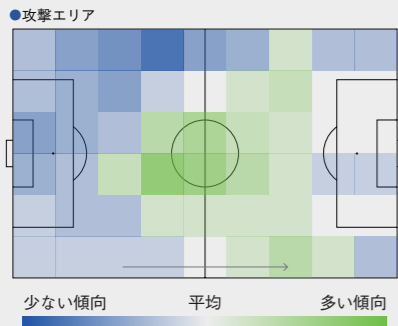
06:40	ATでのボール支配時間2位
825	相手陣ペナルティーエリア内でのプレー数1位
47	途中出場選手の枠内シュート数2位
53.0%	スルーパス成功率1位
98	スルーパスによるペナルティーエリア内進入数2位
38	須貝 英大の後半戦のボールキャリア数はリーグ1位
38.3%	MTでの被タックル時の保持率2位

ゴール



得点	47	15位
シュート	398	7位
シュート枠内率	40.5%	9位

攻撃プレー



クロス	718	4位	20.9%	13位
スルーパス	581	3位	53.0%	1位
ドリブル	441	8位	48.5%	10位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 ウィリアン リラ 9(63)	1 松本 凜生 5	1 長谷川 元希 47
2 長谷川 元希 8(59)	2 鳥海 芳樹 4	2 荒木 翔 34
3 三平 和司 7(31)	2 ウィリアン リラ 4	3 関口 正大 24
ドリブル	パス成功	タックル
1 関口 正大 79	1 浦上 仁騎 2780	1 山田 陸 70
2 須貝 英大 55	2 山田 陸 2257	2 須貝 英大 62
3 宮崎 純真 48	3 須貝 英大 1629	3 関口 正大 57

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



ALBIREX NIIGATA

アルビレックス新潟

成績

順位	1位	勝点	84
総合	25勝9分8敗	73得点	35失点
ホーム	16勝2分3敗	43得点	16失点
アウェイ	9勝7分5敗	30得点	19失点

監督

松橋 力蔵 2021/12/6 ~

出場選手

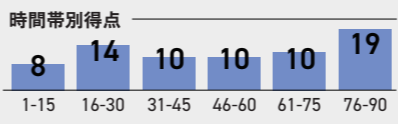
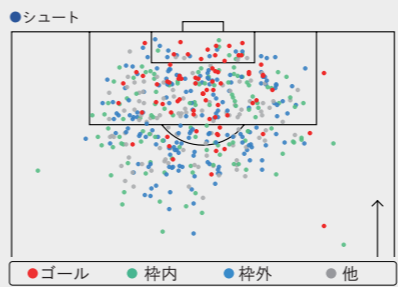
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	小島 亨介	42	3780	0
3	トーマス デン	8	720	0
5	舞行龍 ジェームズ	27	2301	1
15	渡邊 泰基	6	387	0
18	早川 史哉	7	585	0
31	堀米 悠斗	40	3373	1
32	長谷川 巧	9	449	0
35	千葉 和彦	25	2216	0
50	田上 大地	23	1758	2
6	秋山 裕紀	20	916	1
8	高 宇洋	39	3060	1
10	本間 至恩	22	1525	5
13	伊藤 涼太郎	42	2476	9
14	三戸 舜介	24	1307	6
17	イツベイ シノヅカ	14	731	2
19	星 雄次	21	955	1
20	島田 譲	33	2343	2
22	松田 詠太郎	38	1982	4
25	藤原 奏哉	41	3350	4
29	シマブク カズヨシ	12	286	1
33	高木 善朗	32	2192	9
47	吉田 陣平	3	68	0
7	谷口 海斗	36	2463	9
9	鈴木 孝司	21	1005	8
11	アレクサンドレ ゲデス	11	197	2
23	小見 洋太	23	912	4
28	矢村 健	11	243	1

平均年齢 | 26.2 カード | 34 0

キースタッツ

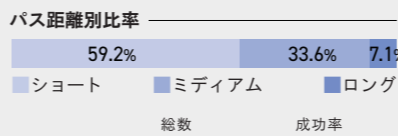
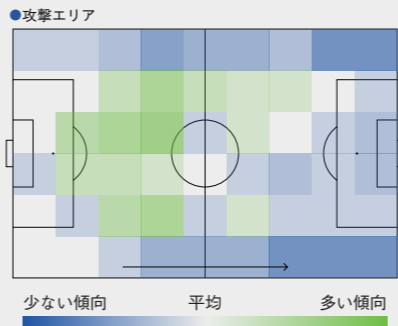
34	ボール支配率50%以上の試合数1位
12	スルーパスからの得点数1位
477	シュート数1位
15354	ショートパス成功数1位
48.2%	DTでの被タックル時の保持率1位
1	ペナルティーエリア外からの被シュートによる失点数最少
20	ゴールした選手数最多

ゴール



得点	73	1位
シュート	477	1位
シュート枠内率	40.9%	8位

攻撃プレー



クロス	550	20位	24.4%	5位
スルーパス	675	2位	52.4%	2位
ドリブル	532	4位	48.3%	11位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 高木 善朗 9(31)	1 伊藤 涼太郎 11	1 伊藤 涼太郎 63
1 谷口 海斗 9(77)	2 松田 詠太郎 7	2 島田 譲 32
1 伊藤 涼太郎 9(68)	3 本間 至恩 6	3 高木 善朗 31
ドリブル	パス成功	タックル
1 松田 詠太郎 105	1 高 宇洋 2590	1 藤原 奏哉 116
2 本間 至恩 83	2 堀米 悠斗 2412	2 高 宇洋 94
3 三戸 舜介 59	3 舞行龍 ジェームズ 2131	3 堀米 悠斗 90

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



ZWEIGEN KANAZAWA

ツエーゲン金沢

成績

順位	14位	勝点	52
総合	13勝13分16敗 56得点 69失点		
ホーム	5勝7分9敗 27得点 36失点		
アウェイ	8勝6分7敗 29得点 33失点		

監督

柳下 正明 2016/12/6 ~

出場選手

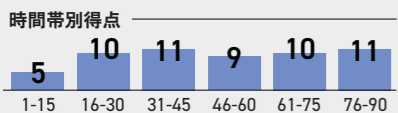
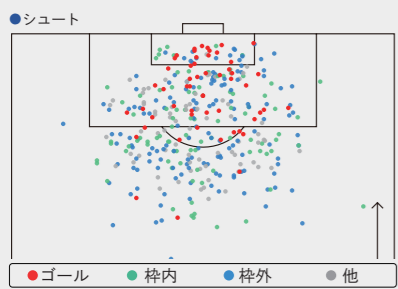
背番号	名前	出場	出場時間	得点
1	白井 裕人	41	3690	0
36	三浦 基瑛	1	90	0
2	長峰 祐斗	36	2972	0
3	黒木 謙吾	11	393	0
4	松本 大輔	20	1524	2
5	松田 陸	39	3345	0
16	毛利 駿也	29	1471	2
24	片倉 誠也	1	9	0
25	高安 孝幸	5	102	0
27	廣井 友信	12	779	0
35	孫 大河	16	1332	0
39	庄司 朋乃也	39	3446	4
6	松本 大弥	34	2819	8
8	藤村 慶太	40	3439	1
10	嶋田 慎太郎	35	2338	3
13	大石 竜平	33	1343	4
17	平松 和	34	1807	2
18	小野原 和哉	32	1993	1
22	力安 祥伍	24	903	0
26	須藤 直輝	15	351	0
9	丹羽 詩温	23	763	1
11	杉浦 恭平	37	1511	7
19	豊田 陽平	34	1918	6
20	林 誠道	42	2793	13
30	大谷 駿斗	13	377	1
33	杉浦 力斗	2	15	0

平均年齢	27.4	カード	42	3
------	------	-----	----	---

キースタッツ

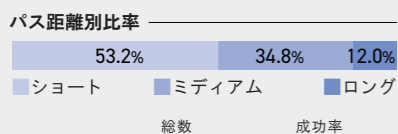
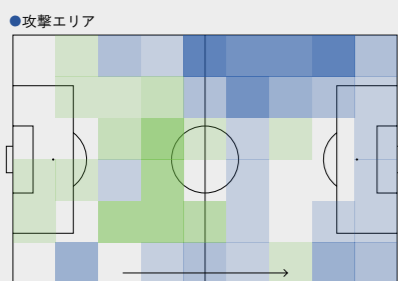
- 62 | ペナルティーエリア外からの枠内シュート数2位
- 57 | こぼれ球からのシュート数1位
- 34 | 松田 陸の相手クロスのブロック数1位
- 17 | 藤村 慶太の後半戦のMTタックル奪取数1位タイ
- 135 | セーブ数1位
- 23.0% | 前半戦のペナルティーエリア外からの被シュート枠内率が最も低い
- 17 | 16-30分の失点数最多

ゴール



得点	56 (O.G. 1)	9位
シュート	370	14位
シュート枠内率	39.7%	14位

攻撃プレー



クロス	591	13位	18.6%	22位
スルーパス	535	7位	46.4%	13位
ドリブル	223	22位	39.5%	22位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 林 誠道 13 (64)	1 杉浦 恭平 7	1 藤村 慶太 41
2 松本 大弥 8 (54)	2 長峰 祐斗 5	2 嶋田 慎太郎 30
3 杉浦 恭平 7 (28)	2 松田 陸 5	3 杉浦 恭平 25
ドリブル	パス成功	タックル
1 林 誠道 41	1 庄司 朋乃也 1727	1 藤村 慶太 84
2 藤村 慶太 24	2 藤村 慶太 1502	2 長峰 祐斗 83
3 毛利 駿也 23	3 松田 陸 1180	3 庄司 朋乃也 75

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



FAGIANO OKAYAMA

ファジアーノ岡山

成績

順位	3位	勝点	72
総合	20勝12分10敗 61得点 42失点		
ホーム	12勝5分4敗 37得点 19失点		
アウェイ	8勝7分6敗 24得点 23失点		

監督

木山 隆之 2021/12/14 ~

出場選手

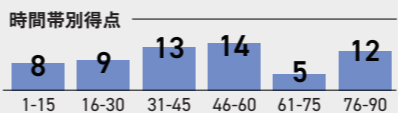
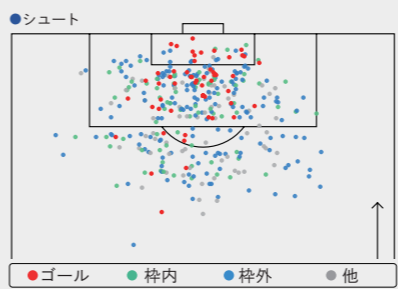
背番号	名前	出場	出場時間	得点
1	梅田 透吾	4	314	0
13	金山 隼樹	13	1047	0
35	堀田 大輝	27	2419	0
3	阿部 海大	12	417	0
4	濱田 水輝	12	588	1
5	柳 育崇	38	3420	4
16	河野 諒祐	36	2908	0
23	ヨルディ バイス	39	3510	7
24	成瀬 竣平	31	1223	0
26	本山 遥	38	2764	1
41	徳元 悠平	31	2418	1
6	喜山 康平	21	988	0
8	ステファン ムーク	23	1511	4
10	宮崎 幾笑	19	758	1
11	宮崎 智彦	14	767	0
14	田中 雄大	39	2892	5
17	関戸 健二	1	5	0
19	木村 太哉	19	798	0
22	佐野 航大	28	1558	3
25	野口 竜彦	3	79	0
27	河井 陽介	33	2201	1
28	疋田 優人	3	77	0
34	輪笠 祐士	12	938	0
44	仙波 大志	13	296	1
7	チャゴアウベス	34	1816	16
9	ハンイゴオン	28	1284	4
15	ミッチェル デューク	36	2648	8
18	齊藤 和樹	11	233	0
20	川本 梨誉	21	764	2
38	永井 龍	11	438	1
39	白井 陽斗	22	483	1

平均年齢	27.3	カード	40	1
------	------	-----	----	---

キースタッツ

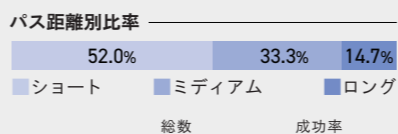
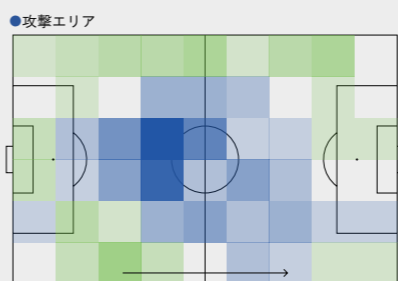
- 14 | 46-60分の得点数2位
- 17 | ポスト・バーに当たったシュート数1位
- 53.4% | 相手陣でのこぼれ球奪取率1位
- 59.0% | 自陣空中戦勝率1位
- 85 | ATでの被ファウル数最多
- 8 | ペナルティーキックでの得点数1位
- 79 | ロングスロー数1位

ゴール



得点	61	7位
シュート	388	10位
シュート枠内率	36.9%	19位

攻撃プレー



クロス	590	14位	26.4%	2位
スルーパス	423	18位	47.3%	9位
ドリブル	509	5位	41.7%	21位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 チャゴアウベス 16 (61)	1 河野 諒祐 10	1 河野 諒祐 37
2 ミッチェル デューク 8 (57)	2 チャゴアウベス 4	2 徳元 悠平 29
3 ヨルディ バイス 7 (26)	2 河井 陽介 4	3 ミッチェル デューク 26
ドリブル	パス成功	タックル
1 チャゴアウベス 72	1 ヨルディ バイス 1431	1 本山 遥 93
2 河野 諒祐 66	2 柳 育崇 1217	2 田中 雄大 68
3 ハンイゴオン 65	3 本山 遥 936	3 河野 諒祐 61

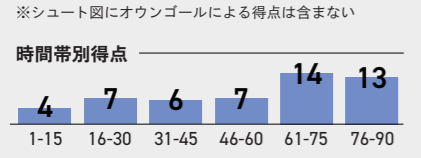
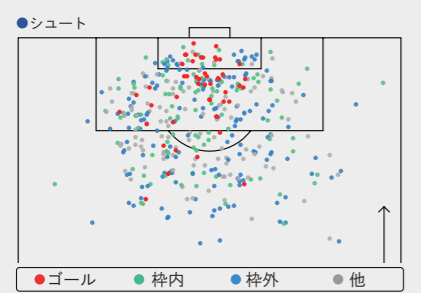
※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



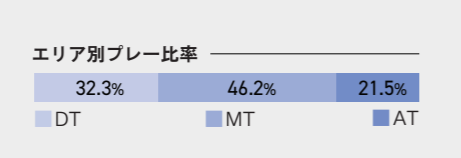
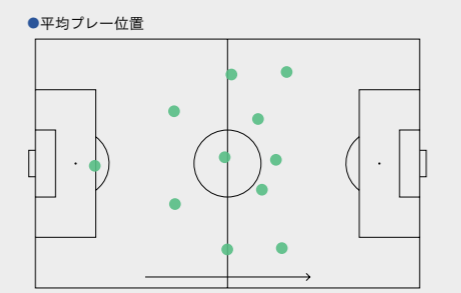
RENOFA YAMAGUCHI FC

レノファ山口FC

▶ ゴール ▶ スタイル

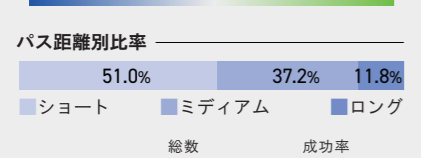
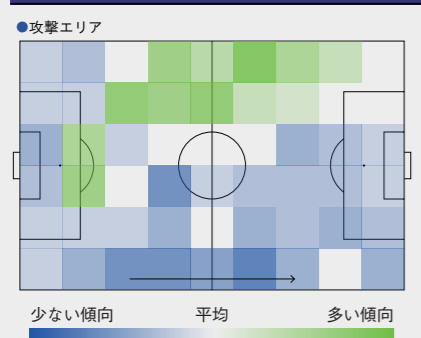


得点	51	10位
シュート	421	5位
シュート枠内率	36.1%	21位

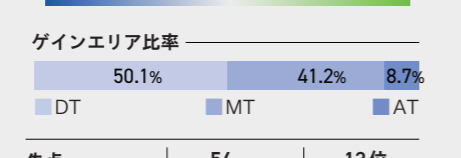
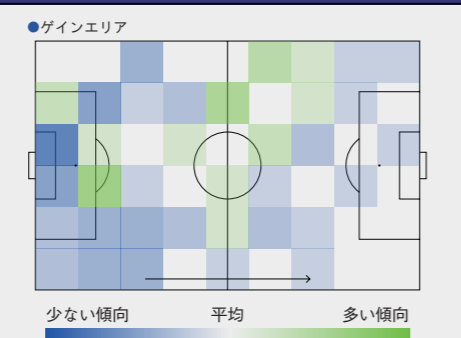


アクチュアルプレーイングタイム	53:35	14位
ボール支配率	53.9%	6位

▶ 攻撃プレー ▶ 守備プレー



クロス	672	7位	22.2%	9位
スルーパス	531	9位	46.5%	12位
ドリブル	360	17位	48.1%	12位



失点	54	13位
セーブ	115	5位
セーブ率	68.0%	9位
タックル奪取	445	14位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 高井 和馬 7(26)	1 橋本 健人 5	1 田中 渉 41
2 沼田 駿也 7(43)	2 池上 丈二 3	2 佐藤 謙介 31
3 高木 大輔 5(37)	2 高木 大輔 3	3 高木 大輔 28
ドリブル	パス成功	タックル
1 沼田 駿也 89	1 佐藤 謙介 1890	1 橋本 健人 63
2 橋本 健人 71	2 渡部 博文 1827	2 渡部 博文 52
3 吉岡 雅和 39	3 橋本 健人 1508	3 佐藤 謙介 51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▶ 成績

順位	16位	勝点	50
総合	13勝11分18敗	51得点	54失点
ホーム	8勝7分6敗	30得点	27失点
アウェイ	5勝4分12敗	21得点	27失点

▶ 監督

名塚 善寛 2021/9/29 ~

▶ 出場選手

背番号	名前	出場	出場時間	得点
21	関 憲太郎	36	3240	0
31	寺門 陸	6	540	0
2	菊地 光将	12	807	1
3	ヘナン	25	1964	0
4	眞鍋 旭輝	19	1246	0
6	渡部 博文	34	2893	1
14	橋本 健人	35	2995	2
15	前 貴之	11	944	1
22	生駒 仁	27	2135	2
27	高橋 秀典	13	1021	0
41	桑原 海人	8	594	0
5	佐藤 健太郎	24	397	0
7	石川 啓人	14	869	1
8	佐藤 謙介	40	3183	1
10	池上 丈二	26	1640	3
11	島屋 八徳	8	145	0
16	吉岡 雅和	29	1663	0
20	田中 渉	38	3010	5
24	成岡 輝瑠	7	519	3
26	神垣 陸	26	921	0
32	高井 和馬	16	1084	7
33	山瀬 功治	34	1125	2
9	岸田 和人	23	733	3
13	大槻 周平	19	1081	3
18	高木 大輔	37	2234	5
19	沼田 駿也	41	2449	7
30	兒玉 滯王斗	22	812	1
38	河野 孝汰	3	18	0
49	梅木 翼	17	1204	3

平均年齢	27.4	カード	48	2
------	------	-----	----	---

▶ キースタッツ

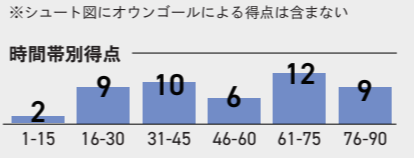
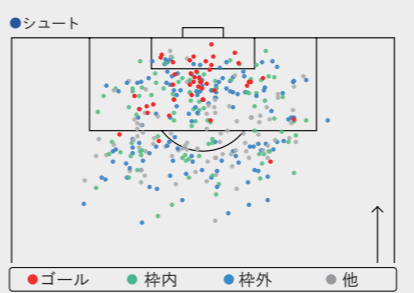
46	左サイドのペナルティーエリア脇からのクロス成功数1位
54	こぼれ球からのシュート数2位
931	前半戦の30mライン進入数1位
2739	相手のATへのパス成功数が最少
60.1%	前半戦の自陣空中戦勝率1位
8	梅木 翼の後半戦のATタックル奪取数はリーグ1位タイ
166	オフサイド奪取数1位



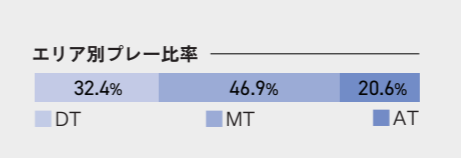
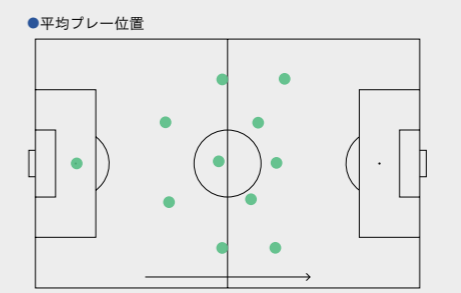
TOKUSHIMA VORTIS

徳島ヴォルティス

▶ ゴール ▶ スタイル

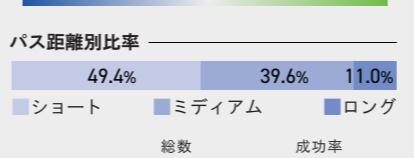
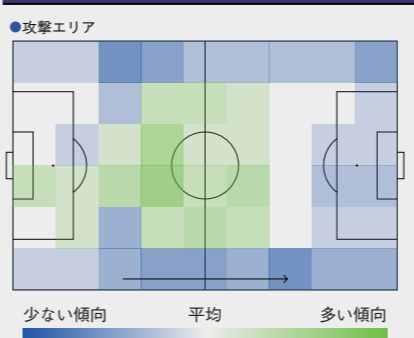


得点	48(O.G.1)	13位
シュート	362	16位
シュート枠内率	39.0%	16位

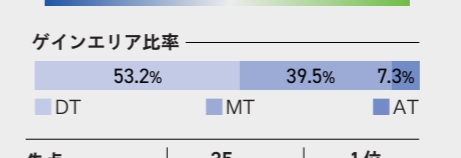
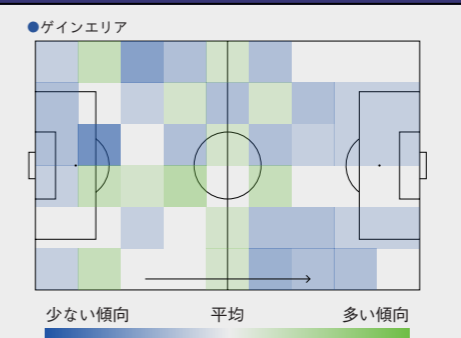


アクチュアルプレーイングタイム	56:11	3位
ボール支配率	56.5%	3位

▶ 攻撃プレー ▶ 守備プレー



クロス	590	14位	26.4%	2位
スルーパス	423	18位	47.3%	9位
ドリブル	509	5位	41.7%	21位



失点	35	1位
セーブ	94	16位
セーブ率	72.9%	3位
タックル奪取	432	17位

▶ 選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 藤尾 翔太 10(49)	1 児玉 駿斗 9	1 児玉 駿斗 35
2 一美 和成 7(35)	2 エウシーニョ 3	2 新井 直人 27
3 杉森 考起 5(44)	2 浜下 瑛 3	3 白井 永地 25
ドリブル	パス成功	タックル
1 西谷 和希 128	1 内田 航平 2416	1 新井 直人 73
2 杉森 考起 87	2 白井 永地 1825	2 安部 崇士 54
3 浜下 瑛 59	3 安部 崇士 1740	2 内田 航平 54

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▶ 成績

順位	8位	勝点	62
総合	13勝23分6敗	48得点	35失点
ホーム	8勝11分2敗	28得点	16失点
アウェイ	5勝12分4敗	20得点	19失点

▶ 監督

ダニエル ボヤトス 2020/12/24 ~

▶ 出場選手

背番号	名前	出場	出場時間	得点
1	ホセアウレリオスアレス	34	3060	0
29	松澤 香輝	1	90	0
31	長谷川 徹	7	630	0
2	田向 泰輝	15	704	0
3	石尾 峻雅	15	834	0
5	石井 秀典	4	199	0
13	新井 直人	38	3053	2
14	カカ	33	2404	2
25	安部 崇士	39	2578	0
36	エウシーニョ	22	1267	2
6	内田 航平	38	3215	4
7	白井 永地	42	3594	3
10	渡井 理己	19	1306	1
11	杉森 考起	35	2084	5
16	川上 エドオジョン智慧	11	257	0
19	長谷川 雄志	19	548	0
20	児玉 駿斗	37	2566	0
22	藤田 征也	11	732	0
23	玄 理吾	14	595	0
24	西谷 和希	37	2501	4
27	櫻井 辰徳	26	1481	0
37	浜下 瑛	29	1816	2
44	杉本 太郎	13	879	0
9	ムシャガ バケンガ	22	997	4
15	藤尾 翔太	30	1905	10
17	一美 和成	25	1359	7
18	佐藤 晃大	7	107	0
30	坪井 清志郎	18	463	1
34	オリオラ サンデー	6	143	0
39	西野 太陽	5	131	0

平均年齢	26.5	カード	46	2
------	------	-----	----	---

▶ キースタッツ

6	敗戦数最少
23	引き分け数1位
404	ボールキャリアー成功数1位
9	こぼれ球からの得点数1位
3	1-15分での失点数最少
25	ペナルティーエリア内のシュートによる失点数最少
91.3%	スローイン成功率2位



V-VAREN NAGASAKI

V・ファーレン長崎

成績

順位	11位	勝点	56
総合	15勝11分16敗	50得点	54失点
ホーム	4勝8分9敗	20得点	26失点
アウェイ	11勝3分7敗	30得点	28失点

監督

松田 浩 2021/5/3 ~ 2022/6/12
 ファビオ カリーレ 2022/6/12 ~

出場選手

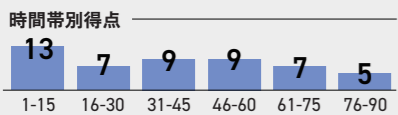
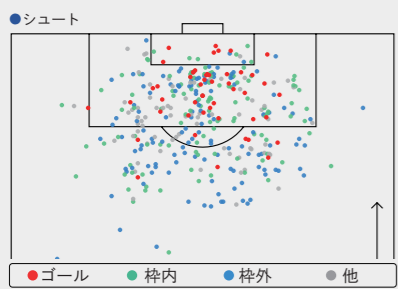
	出場	出場時間	得点
1 富澤 雅也	33	2970	0
21 笠原 昂史	8	720	0
31 原田 岳	1	90	0
5 奥井 諒	27	1570	1
15 加藤 聖	35	2258	1
16 村松 航太	26	1895	0
23 米田 隼也	34	2778	4
24 江川 湧清	36	2896	1
25 櫛引 一紀	20	1442	0
26 二見 宏志	33	2142	0
28 高橋 峻希	15	1021	0
38 白井 陽貴	8	686	1
39 カイケ	4	22	0
47 菊地 脩太	2	180	0
6 鎌先 祐弥	34	2197	1
10 カイオ セザール	35	2354	1
13 加藤 大	39	2888	1
17 秋野 央樹	1	21	0
19 澤田 崇	36	2244	3
20 大竹 洋平	18	699	0
33 笠柳 翼	2	22	0
34 五月田 星矢	4	88	0
35 安部 大晴	1	18	0
7 クリステアーノ	36	2168	6
9 植中 朝日	28	1563	5
11 エジガル ジュニオ	41	2686	12
18 山崎 亮平	32	857	4
22 奥田 晃也	18	772	2
27 都倉 賢	27	1416	3
29 クレイソン	12	743	3
32 ビクトル イバルボ	7	74	0

平均年齢 | 27.1 カード | 34 3

キースタッツ

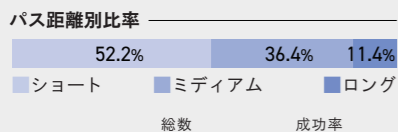
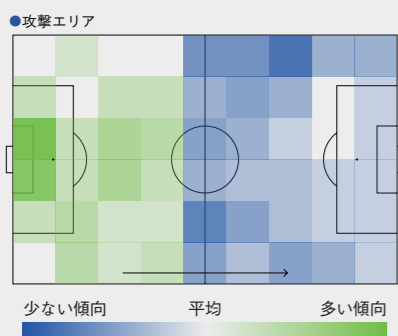
13	1-15分での得点数1位
52.7%	自陣へのパス比率1位
63	DTでの被タックル時のボール保持数1位
262	DTでのタックル奪取数1位
38m	タックルラインが最も低い
42.8%	相手のドリブル成功率が最も低い
154	ゴールキックのショートパス成功率2位

ゴール



得点	50 (O.G.1)	12位
シュート	363	15位
シュート枠内率	45.2%	2位

攻撃プレー



クロス	547	22位	25.0%	3位
スルーパス	451	14位	50.6%	4位
ドリブル	372	14位	49.5%	8位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 エジガル ジュニオ 12 (78)	1 クリステアーノ 5	1 クリステアーノ 39
2 クリステアーノ 6 (49)	2 都倉 賢 4	2 米田 隼也 27
3 植中 朝日 5 (23)	2 澤田 崇 4	3 植中 朝日 23
ドリブル	パス成功	タックル
1 クリステアーノ 73	1 江川 湧清 1738	1 カイオ セザール 87
2 米田 隼也 46	2 二見 宏志 1269	1 加藤 大 87
3 澤田 崇 45	3 加藤 大 1176	3 江川 湧清 63

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



ROASSO KUMAMOTO

ロアッソ熊本

成績

順位	4位	勝点	67
総合	18勝13分11敗	58得点	48失点
ホーム	8勝6分7敗	26得点	22失点
アウェイ	10勝7分4敗	32得点	26失点

監督

大木 武 2019/12/12 ~

出場選手

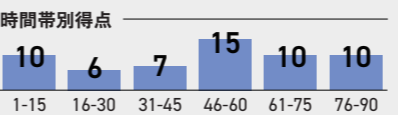
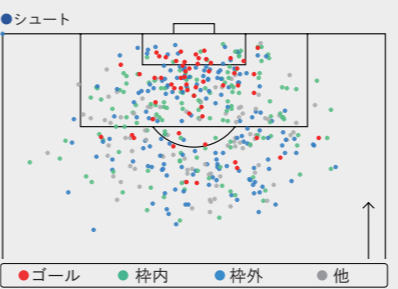
	出場	出場時間	得点
1 田代 琉我	4	360	0
13 増田 卓也	2	180	0
23 佐藤 優也	36	3240	0
3 イヨハ理 ヘンリー	38	3262	2
4 酒井 崇一	9	620	0
5 菅田 真啓	40	3600	4
33 阿部 海斗	32	1689	1
2 黒木 晃平	41	3678	1
6 河原 創	42	3780	1
7 田辺 圭佑	31	1152	2
8 上村 周平	13	685	1
10 伊東 俊	33	1450	5
14 竹本 雄飛	38	2512	5
15 三島 頌平	30	2558	1
16 坂本 亘基	40	3132	5
18 杉山 直宏	42	3365	9
19 東出 壮太	5	96	0
21 ターレス	12	419	0
24 江崎 巧朗	1	63	0
30 東山 達稀	17	271	1
32 藤田 一途	28	815	0
37 平川 怜	11	724	2
9 高橋 利樹	40	3162	14
11 栗飯原 尚平	21	226	2
28 土信田 悠生	32	521	1
29 宮原 愛輝	2	20	0

平均年齢 | 25.7 カード | 36 0

キースタッツ

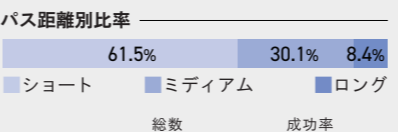
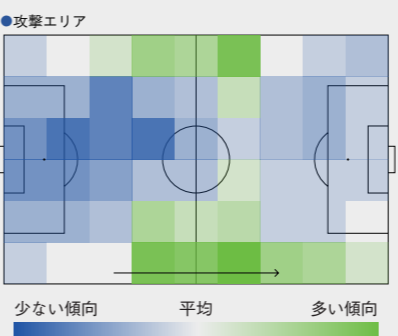
8	先制された試合の引点数1位
15	46-60分の得点数1位
131	ペナルティーエリア内の枠内シュート数1位
45.3m	タックルラインが最も高い
14	ロストから10秒未満での失点数最多
929	スローイン成功率1位
42	河原 創がフィールドプレーヤーでは唯一の全試合フル出場

ゴール



得点	58 (O.G.1)	8位
シュート	448	2位
シュート枠内率	43.8%	4位

攻撃プレー



クロス	760	2位	19.9%	17位
スルーパス	490	11位	44.1%	17位
ドリブル	465	7位	53.8%	4位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 高橋 利樹 14 (55)	1 河原 創 12	1 河原 創 63
2 杉山 直宏 9 (82)	2 竹本 雄飛 5	2 杉山 直宏 37
3 伊東 俊 5 (17)	2 坂本 亘基 5	3 坂本 亘基 34
ドリブル	パス成功	タックル
1 杉山 直宏 162	1 黒木 晃平 2574	1 黒木 晃平 107
2 坂本 亘基 113	2 河原 創 2434	2 河原 創 102
3 阿部 海斗 30	3 菅田 真啓 2186	3 イヨハ理 ヘンリー 96

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



OITA TRINITA

大分トリニータ

成績

順位	5位	勝点	66
総合	17勝15分10敗	62得点	52失点
ホーム	9勝7分5敗	34得点	27失点
アウェイ	8勝8分5敗	28得点	25失点

監督

下平 隆宏 2021/12/23 ~

出場選手

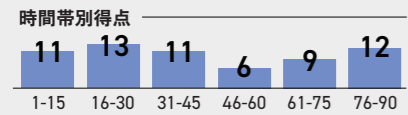
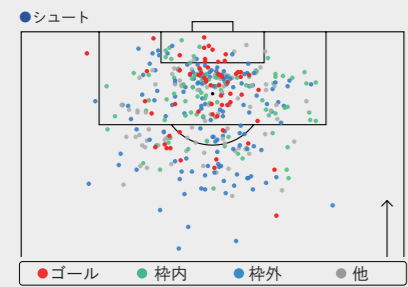
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	高木 駿	31	2790	0
44	吉田 舜	11	990	0
2	香川 勇気	10	536	0
3	三竿 雄斗	42	3719	0
4	坂 圭祐	19	1263	0
14	伊東 幸敏	15	1304	0
15	小出 悠太	10	677	0
19	上夷 克典	21	1552	0
49	羽田 健人	13	1079	1
6	小林 裕紀	17	1044	0
7	松本 怜	11	352	0
8	町田 也真人	19	1105	0
10	野村 直輝	23	1117	3
11	下田 北斗	35	2663	3
17	井上 健太	34	2227	1
21	エドゥアルド ネット	22	628	2
23	中川 寛斗	20	968	4
25	小林 成豪	12	682	3
26	保田 堅心	8	544	0
27	梅崎 司	24	901	3
28	野嶽 惇也	3	164	0
31	ペレイラ	36	3099	5
38	高畑 奎汰	13	738	1
39	増山 朝陽	23	1150	1
43	弓場 将輝	25	1852	3
13	伊佐 耕平	15	550	1
16	渡邊 新太	25	1667	4
18	藤本 一輝	23	1307	4
20	長沢 駿	23	1290	8
22	サムエル	22	996	6
29	宇津元 伸弥	12	179	0
33	呉屋 大翔	35	1931	7
40	金崎 夢生	12	451	1
50	屋敷 優成	6	65	0

平均年齢 | 27.8 カード | 45 0

キースタッツ

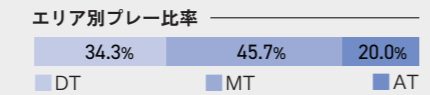
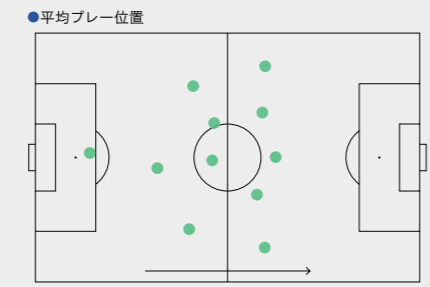
35	前半の得点数1位
199	クロス成功率1位
21	ペナルティーエリア内から3プレー以内の得点数1位
9.2%	ペナルティーエリア外のシュート決定率1位
431	ペナルティーエリア内に進入された回数最少
4	直接フリーキックによるゴール数1位
95	オフサイド奪取数2位

ゴール



得点	62 (O.G.1)	4位
シュート	385	11位
シュート枠内率	39.7%	13位

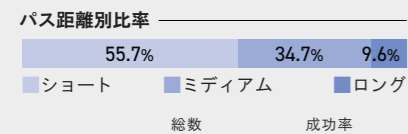
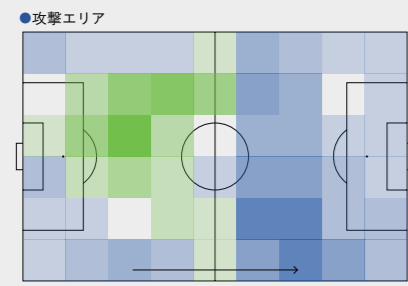
スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 55:42 | 5位

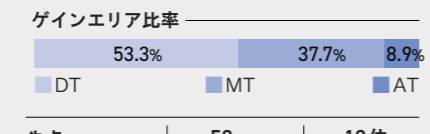
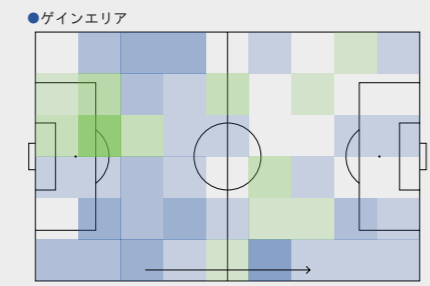
ボール支配率 | 57.2% | 2位

攻撃プレー



クロス	737	3位	27.0%	1位
スルーパス	549	5位	49.9%	5位
ドリブル	441	8位	49.7%	7位

守備プレー



失点	52	12位
セーブ	84	20位
セーブ率	61.8%	21位
タックル奪取	432	17位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 長沢 駿 8(32)	1 藤本 一輝 5	1 下田 北斗 33
2 呉屋 大翔 7(47)	1 井上 健太 5	2 井上 健太 25
3 サムエル 6(39)	1 下田 北斗 5	3 三竿 雄斗 23

ドリブル	パス成功	タックル
1 井上 健太 91	1 三竿 雄斗 2586	1 ペレイラ 82
2 増山 朝陽 61	2 ペレイラ 2181	2 三竿 雄斗 67
3 藤本 一輝 59	3 下田 北斗 1942	3 弓場 将輝 54

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載



FC RYUKYU

FC琉球

成績

順位	21位	勝点	37
総合	8勝13分21敗	41得点	65失点
ホーム	3勝8分10敗	23得点	31失点
アウェイ	5勝5分11敗	18得点	34失点

監督

喜名 哲裕 2021/10/20 ~ 2022/6/8
 倉貫 一毅 2022/6/8 ~ 2022/6/12
 ナチョ フェルナンデス 2022/6/12 ~

出場選手

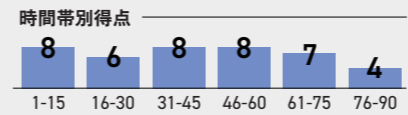
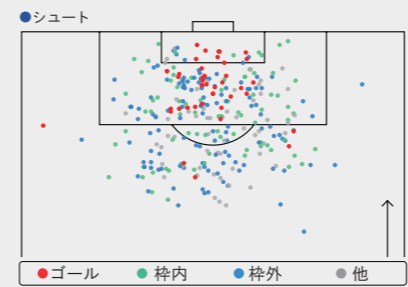
順位	選手名	出場	出場時間	得点
1	ダニー カルバハル	19	1710	0
26	田口 潤人	23	2070	0
4	岡崎 亮平	24	2042	0
5	山下 令雄	1	1	0
6	金井 貢史	26	1008	2
7	田中 恵太	21	1082	0
9	李 榮直	26	1705	0
14	沼田 圭悟	26	1686	0
22	上原 牧人	27	2292	0
27	中川 創	18	1539	0
28	大森 理生	22	1540	1
2	福村 貴幸	32	2499	0
8	池田 廉	39	3080	1
10	富所 悠	34	2122	1
11	中野 克哉	33	2260	6
13	清武 功暉	26	1933	3
15	大本 祐槻	39	2975	1
20	上里 一将	21	927	1
23	シティヨーク パソ	1	1	0
25	武沢 一翔	35	2015	0
33	ファミバン ルアン	1	23	0
34	ケルヴィン	17	850	1
36	アレックス バレラ	1	8	0
37	加藤 恒平	8	486	0
16	阿部 拓馬	15	923	3
18	野田 隆之介	26	1046	5
19	草野 侑己	22	1580	7
21	上原 慎也	22	663	2
24	ヴィニシウス スサントス	4	34	0
29	人見 拓哉	23	789	3
35	サダム スレイ	12	690	3

平均年齢 | 28.5 カード | 61 1

キースタッツ

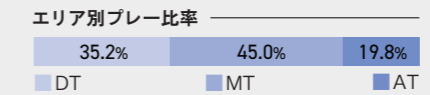
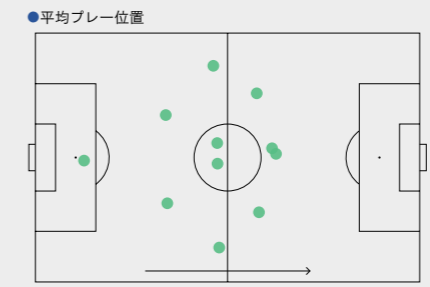
364	MTでのスローイン成功率2位
31.4%	ペナルティーエリア内右サイドからのクロス成功率3位
308	MTでのタックル数3位
11	池田 廉の後半戦のインターセプト数1位
96	池田 廉の後半戦のこぼれ球奪取数1位タイ
3	ペナルティーキックセーブ数1位
847	スローイン成功率3位

ゴール



得点	41 (O.G.1)	18位
シュート	302	20位
シュート枠内率	39.4%	15位

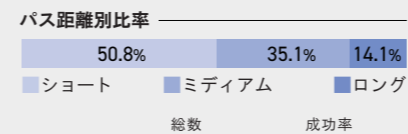
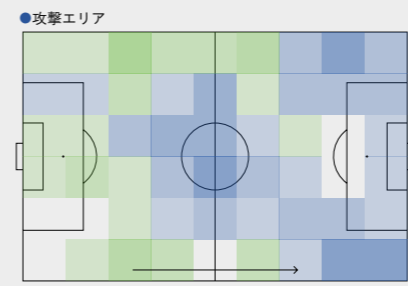
スタイル



アクチュアルプレーイングタイム | 52:18 | 16位

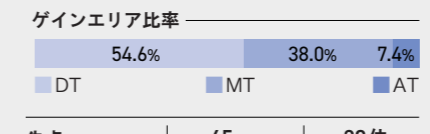
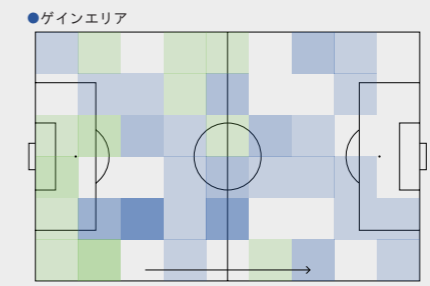
ボール支配率 | 47.1% | 15位

攻撃プレー



クロス	596	11位	21.3%	12位
スルーパス	377	20位	39.5%	22位
ドリブル	327	20位	44.3%	20位

守備プレー



失点	65	20位
セーブ	107	11位
セーブ率	62.2%	19位
タックル奪取	471	7位

選手ランキング

ゴール(シュート)	アシスト	ラストパス
1 草野 侑己 7(27)	1 清武 功暉 7	1 清武 功暉 31
2 中野 克哉 6(38)	2 大本 祐槻 5	2 大本 祐槻 20
3 野田 隆之介 5(18)	3 中野 克哉 4	3 池田 廉 16

ドリブル	パス成功	タックル
1 大本 祐槻 88	1 富所 悠 1152	1 池田 廉 98
2 中野 克哉 38	2 福村 貴幸 994	2 中野 克哉 75
3 野田 隆之介 27	3 池田 廉 991	3 福村 貴幸 59

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

GLOSSARY 用語集

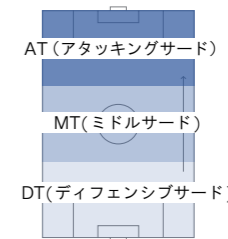
▶ アクチュアルプレーイングタイム	試合開始から終了までに実際にプレーされた時間。ファウルやボールアウトから再開プレーまでの時間は含まない。
▶ アシスト	ゴールを決めた味方選手へのパス。トラップ後に味方選手に譲った場合やシュートミス以外のシュートなどパス以外の攻撃的なプレーも含む。ゴール選手がボールをドリブルなどで運んだ場合もその距離を問わずアシストとする。パスの後にDFなどに当たって軌道が変わっている場合はアシストとならない。
▶ インターセプト	相手のパスに対して能動的に動いてそのパスをカットし、自ら保持もしくは味方につないだプレー。インターセプトを試みたがマイボールとならなかった場合はカウントされない。
▶ 裏抜け	守備側の選手の位置から最終ラインを設定し、最終ラインを瞬時でも超えた14km/h以上のランを裏抜けとする。ペナルティーエリアに選手が密集するようなセットプレー攻撃時は対象外。オフザボールに限定しており、自分でボールを運びながらラインを越えようとする場合も含まない。
▶ 加速、急加速	1秒後の時速との差分から加速度を算出し、2.5m/s ² 以上を加速、4m/s ² 以上を急加速とする。
▶ 空中戦	浮いているボールに対し、両チームの選手が空中で競り合うプレー。
▶ 空中戦勝利	先にボールに触った選手を勝利とし、触れなかった選手を負けとする。
▶ クロス	相手陣ペナルティーエリア内の味方選手にシュートを打たせる狙いがあり、オープンプレーにおいて右足もしくは左足でサイドから送られたパス。
▶ ゲイン(ボールゲイン)	インプレーにおいて相手チームの攻撃から自チームの攻撃に切り替わった最初のプレー。タックルなど意図的なプレーもあれば相手のパス失敗を拾うプレーもある。
▶ ゲインエリア	ピッチを6x9に分割し、エリアごとにゲイン比率を算出後、各エリアのリーグ平均との差分から色付けした図。
▶ 攻撃エリア	ピッチを6x9に分割し、エリアごとに守備アクションを除いたプレー比率を算出後、各エリアのリーグ平均との差分から色付けした図。
▶ ゴール期待値	過去のゴールに関連するデータ（ゴールまでの距離、シュート角度、シュート部位や空中戦の有無、シュートパターン、直前のプレーの種類、守備側の選手位置など）から算出したシュート1本ごとの成功確率。
▶ こぼれ球奪取	味方もしくは相手のクリア、ブロック、ポスト・バーのはね返りなどのボールに触れたプレー。
▶ 最終ライン	相手選手の配置において、相手側ゴールから数えて2番目の選手位置の横幅一直線を最終ラインとする。
▶ シュート	攻撃側選手による直接得点することを目的とした意図的なプレー。ただし、ボールがゴールから大きく外れた場合や、プレーしたボールが一定の距離以下にいる守備側チームの選手に防がれた場合、シュートを記録しない。
▶ シュートパターン、得点パターン	攻撃側選手による直接得点することを目的とした意図的なプレー。ただし、ボールがゴールから大きく外れた場合や、プレーしたボールが一定の距離以下にいる守備側チームの選手に防がれた場合、シュートを記録しない。 1. セットプレー…セットプレーから10秒以内にシュートした場合。得点の場合はオウンゴールも含まれる。 2. ドリブル…シュートした選手がシュート前にドリブルを行った場合。 3. クロス…シュート前のプレーがクロスだった場合。 4. スルーパス…シュート前のプレーがスルーパスだった場合。 5. ショートパス…シュート前のプレーが30m未満のパスの場合。 (シュートパターンではミディアムパスを設けていないため、15m以上30m未満のパスもショートパスとする) 6. ロングパス…シュート前のプレーが30m以上のパスの場合。 7. こぼれ球…シュートした選手がシュート前にクリアやブロックなどのこぼれ球を拾った場合。
▶ 出場選手	出場選手は該当チームにおいて1試合以上出場した場合のみ掲載される。シーズン中に移籍した場合、それぞれのチームでの出場試合データを掲載。
▶ スプリント回数	24km/h以上で1秒以上走った回数。
▶ スルーパス	味方が相手最終ラインの裏に走り込むスペースを狙ったパス。パスの高さは一度も身長を超えないことが条件。守備側の選手の間を通したものでなく、サイドのスペースを狙ったものも含む。セットプレーは含まず、右足もしくは左足によるパスに限定。
▶ セーブ	相手の枠内シュートをゴールキーパーが防いだプレー。
▶ セーブ率	セーブ数÷(セーブ数+失点)の数値。
▶ セットプレー	フリーキック、コーナーキック、ゴールキック、ペナルティーキック、スローイン、キックオフによるプレー。
▶ 走行距離	試合中における移動距離の合計。アウトプレー時のデータも含まれる。

▶ タックル	相手選手がコントロールしているボールを、身体あるいはボールへの接触によって足元から離すプレー。
▶ タックル奪取	タックル後のボールが自チームのプレーとなった場合や、タックル後にファウルやボールアウトにより自チームのセットプレーとなった場合をタックル奪取とする。
▶ タックルライン	タックルの縦方向の位置(m)を平均化した数値。0が味方ゴールライン、105が相手ゴールライン。
▶ ドリブル	守備側選手を抜こうとする、横にかわしてシュートを打とうとするなどの仕掛けるプレー。守備側選手と対峙せずに単にボールを運んだ場合は含まない。
▶ ハイプレス	トラッキングデータを利用し、ボールを保持している選手に対して一定以上のスピードで接近した場合をプレスとし、守備側のチームのMF-FWの中間ラインより相手ゴール側でのプレー選手に対するプレスをハイプレスとする。
▶ パス	味方選手につながる意図があるプレー。パス数として利用する場合、クロスやスルーパスも数に含めるが、セットプレーによるパスは除外する。パスの距離区分はショート=15m未満、ミディアム=15m以上30m未満、ロング=30m以上と定義。パス方向は相手ゴール方向90度が前方、他の方向も90度ごとに設定。
▶ フィード	ゴールキーパーがキャッチした後のパス。セットプレーとキャッチをしていない流れの中でのパスは含まない。フィードはさらにキックとスローに分類される。
▶ プレー	ボールを受けてからリリースするまでの一連の流れを1回としてカウント。クリアなどの守備プレーやワンタッチによるシュート、パスも1回としてカウント。一連の流れの中でボールに触れた回数は問わない。
▶ ブロック	自分でボールをコントロールできない状態で、相手のシュートやパスなどを身体に当てて受動的に防いだプレー。守備をする意図がない場合は該当しない。
▶ 平均プレー位置	各ポジションで起用された選手のボールタッチ位置を平均化してマッピングした図。シーズン中に該当チームが最も利用したフォーメーション時のプレーに限定。
▶ 平均ポジション	各ポジションで起用された選手のオフザボールも含めた位置を、ボール保持時とボール被保持時それぞれで平均化してマッピングした図。シーズン中に該当チームが最も利用したフォーメーション時の状況に限定。
▶ ペナルティーエリア進入(PA進入)	ペナルティーエリア外から相手ペナルティーエリアにボールが入り、そのエリア内で味方選手がプレーしたもの。相手ペナルティーエリア内にボールが入っても、そのパスやドリブルなどが失敗した場合は含まない。パスの出し手やドリブルなどエリア外からプレーを行った選手に対してカウントされる。
▶ ボールキャリア	トラップ地点から次のプレー地点までの直線距離で20m以上ボールとともに移動したプレー。相手に奪われても奪われた位置までが直線距離で20m以上ならカウント。ドリブルは含まない。
▶ ボール支配率、ボール保持率	アクチュアルプレーイングタイムに対する、自チームがボールを保持していた時間の割合。
▶ ラストパス	シュートの一つ前のパス。シュートがゴールとなった場合のパス(アシスト)も含む。アシスト同様、シュート選手がボールをドリブルなどで運んだ場合もその距離を問わずラストパスとする。
▶ リゲイン	ロスト後の相手の攻撃をゲインした場合をリゲインとする。ただし相手の攻撃中にシュートに至った場合は含まない。
▶ ロスト(ボールロスト)	インプレーにおいて自チームの攻撃から相手チームの攻撃に切り替わったプレー。ファウルやボールアウトはボールロストに含まない。
▶ ロングスロー	スローインのうち、相手陣ペナルティーエリアの中央(ゴールライン延長線上の四角形)にノーバウンドで到達したスローイン。

▶ 自陣、相手陣



▶ アタッキングサード、ミドルサード、ディフェンシブサード





J.LEAGUE™ J STATS REPORT 2022

発行日 2023年1月10日 初版発行

発行所 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
〒113-0033 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス9階
<https://www.jleague.jp>

写真・映像 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

制作・編集 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

協力 データスタジアム株式会社

デザイン 種市一寛(フラットルーム合同会社)

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。



STATs